

城辺町の御嶽（解題）

現在の城辺町は砂川学区（砂川・友利・下里添）・城辺学区（福中・福東・福南・福西・福北・西東・仲原・加治道）・福嶺学区（保良・新城）・西城学区（長中・長北・長南・比嘉・西中・西）の四学区から構成されている。内、西城学区の長間（長中・長北・長南）と比嘉は、近世時代の長間村・比嘉村（加治道を含む）で平良間切に属し、その他の学区・区域は砂川間切に属して、砂川村・友利村（仲原を含む）・福里村（福中・福東・福南・福西・福北）・新城村・保良村・下里添村・西里添村（西中・西東）の七村が営まれていた。

これらの村の内、砂川村・友利村の両村は近世以前からの村であるが、一七七一年の「明和の津波」で全滅状態になったため、伊良部五か村から人々を移住させ、場所を海岸端から内陸部に移して新しく村立てしたことが『球陽』に記されている。その他の村は全て近世時代、十八世紀以降の村で、保良村は一七六六年の村立、長間村は一七二五年の村立、比嘉村・新城村は一七四三年頃の村立、西里添村は西里村の村立（一七六六年）以降、福里村は一八七四年の村立となっている。

これらの村々は一九〇八（明治四十一年）年の特別町村制に伴って城辺村に組み込まれ、更に一九四七（昭和二十二年）年七月一日には城辺の町昇格により、城辺町字砂川・字友利・字福里・字保良・字新城・字比嘉・字長間・字西里添・字下里添となった。

西城学区の御嶽（解題）

城辺町の西城学区は長北・長中・長南・西中・比嘉など六つの区域から形成されている。近世時代この区域は長間村（長北・長中・長南）、比嘉村（比嘉）、西里添村（西中・西）の三村からなり、長間村・比嘉村は平良間切、西里添村は砂川間切に属していた。

一七二七年編纂の『雍正旧記』は長間村について「御蔵元より卯辰之方（東南東）二當ル、中間式里拾丁四拾壹間（約九・七キロメートル）、保良より宿次式里式町六間（約八・三キロメートル）」と記し、「昔、西銘間切（西銘村・おわて村・片手村・伊こむ村・きやけ村）に飛鳥という支配者がいた。西方の思千代按司の支配する伊佐良という村を攻め取る考えでいたが、逆に思千代按司に依頼された弓の名手宇慶目曾礼の矢を受けて失命、城は滅び村人も離散した。後年、旧城には香花が供えられ飛鳥の霊を祀るようにになったが、その旧城の隣に、雍正三（一七二五）年、長間村を組み立てた」と記している。更に『球陽』では一八一四年に「今の長間村は用水・土壌とも悪いため熱病にかかる者が多く、住民も減少し村として運営しがたいので、耕種用水の便利な喜屋慶地方に村を移した」ことが記されている。

比嘉一帯については、一七四八年編纂の『官古島記事仕次』に「昔、与那覇原軍の頃、高腰の按司という威勢の人がいた。その城は南向きで、長さ三〇間（約五五メートル）・横二拾三間（約二二メートル）。西方は甚だしく險阻であつたため、与那覇原の軍勢もこの城を攻めかねていた。一方、高腰按司は諸方の首長と同盟を結び与那覇原の狼藉を鎮めんと計画していたが、中喜屋泊村の内立按司の裏切りで与那覇原の攻撃を受け、城は焼かれ按司自らも自害した」と記されている。近世時代、旧城の南西方に比嘉村の村立が行われているが、その年代は定かでない。一七

今回の城辺町の御嶽調査では、総計一五三か所の御嶽が確認された。その分布状況は砂川学区で四三か所、城辺学区で四一か所、福嶺学区で二六か所、西城学区で四三か所となっている。

御嶽の形態は、鳥居と拝殿を有する御嶽が砂川御嶽（砂川学区の砂川）・ブンミヤ御嶽（砂川学区の下里添）・高腰御嶽（西城学区の比嘉）・イラバス御嶽（西城学区の比嘉）・長間御嶽（西城学区の長中）・ウタツチャー御嶽（福嶺学区の保良）・サトウス御嶽（福嶺学区の新城）・パイヌ御嶽（福嶺学区の新城）・タラマ御嶽（福嶺学区の皆福）の九か所で、他は拝殿か籠座を有する御嶽、イビと香炉、或いは、イビに祭壇や祠を設けた程度の御嶽である。

これらの御嶽で『御嶽由来記』（一七〇五年）や『雍正旧記』（一七二七年）『官古島記事仕次』（一七四八年）『官古史伝』（一九二七年）に由来の記されている御嶽には、砂川御嶽（砂川）、ウイピヤ御嶽（砂川）、前の家御嶽（砂川）、嶺間御嶽（友利）、高腰御嶽（比嘉）、長間御嶽（長間）などがある。その内、ウイピヤ御嶽（マイウイピヤ・クスウイピヤ・ウイウス）は一九八一年に県の有形民俗文化財に指定されている。

各御嶽の祭祀行事には、一月のトウスヌウキ（年始の祈願）、三月のナーパイ（津波除け祈願）、三、四月の麦ブーズ（麦の初穂祭）、五、六月の粟ブーズ（粟の初穂祭）、六月のタスキニガイ（村人の健康祈願）、八、十月のンナフカ（物忌祈願）、十二月のトウスヌウサミ（年末の祈願）などがある。

〔砂川玄正〕

一七二七年編纂の『雍正旧記』に比嘉村の御嶽は見えないが、『御嶽国御高並諸納里積記』の「官古島村位定」に「布石上・比嘉村」の名が見え、「乾隆八年（一七四三年）内御調願済」と記されていることから一七二七年から一七四三年の間に比嘉村の村立はなされたものと思料される。更に『球陽』によれば、一八六三年に「比嘉村は地理雅ならず。是れに由りて村籍を上比嘉に遷す」とのことと現在地（上比嘉）に村を移動している。

西城学区、即ち、長間村・比嘉村・西里添村は明治四十一年の特別町村制で城辺村に組み入れられ、更に昭和二十二年七月一日、城辺の町昇格に伴って、城辺町字長間・字比嘉・字西里添となった。今回行った西城学区内の御嶽調査では四三か所の御嶽が確認された。内、長間字内では長中で六か所・長北で六か所・長南で八か所・比嘉字内では七か所、西里添内では西中三か所・西中で一三か所の御嶽が所在分布している。

御嶽の形態は様々で、鳥居を有する御嶽が三か所（長間御嶽・高腰御嶽・イラバス御嶽）、拝殿や籠座を有する御嶽、その他はイビ（巨石・小石）のみ或いは祠が設けられ、周囲を雑木或いは石垣などで囲った形態の御嶽である。著名な御嶽として、長間区では「官古島記事仕次」（一七四八年）の基を記した「忠導氏おやけ屋の大王（友利首里屋子）」を祀る長間御嶽・比嘉区では十四世紀中頃に与那覇原軍に滅ぼされた高腰按司を祀る高腰御嶽・西里添区では豊稷神を祀るミルク御嶽・子宝の神を祀るビマル御嶽などがある。

これらの御嶽では、三月にタテバン（年始の祈願）・麦ブーズ（麦の初穂祭）、五月に粟ブーズ（粟の初穂祭）、六月にユーヌタミ（豊稷祈願）、八月にユークニガイ（豊稷祈願）、九月にンナフカ、十月に牛馬タスキニガイ、十一月にフツキョーカ（フイゴ祭）、十二月にトウスバン（年末の祈願）などの祭祀行事が行われている。

〔砂川玄正〕

ミルク御嶽（弥勒御嶽）

所在地 城辺町字西里添東底原
立地・構造・由来

アガイスクバリ集落の南前方、ムイニーンミという丘の上に位置し、集落レベルの拝所としてほとんど全戸が拝んでいる。デイゴやガジュマルの大きな木が目立つ域内に、出入り口を南西に向け、三坪ほどの祭祀場が開けている。そこには露岩を背に、コンクリートで間口一メートル、奥行き一・三メートルのイビを段状に設置、最上段に野石二個を立ててそれぞれイビシとし、各イビシの前に石製香炉一個ずつを置く。イビシ二個のうち、向かって左側は主神ミルクガム（弥勒神）をまつためのもの、右側はリュウグヌス（竜宮主）へ向けて遙拝するためのものだという。なお、リュウグヌスの香炉に立てる線香は燃やさない習わしであるというが、その理由は当神が火と対極の関係にあることによる。この拝所には神女サスは配置されていないため、例祭のときはウプ（大）ウタキのサスがきて代行するという。



祭 神

①ミルクガム 豊穣を司る②リュウグヌス 竜宮にいる神で、ミルクガムと同じく豊穣を司る

主な祭祀 ①三、四月の間、木もしくは土の子の日、ムギブーズ（麦まつり）②五、六月の間、右と同日、アーブーズ（粟まつり）

話 者 佐久田光盛 アガイスクバリ生まれ。

〔本永 清〕

クミズヌス（小水主）

所在地 城辺町字西里添東底原
立地・構造・由来

カーヌ御嶽と同聖域内にある。そこにはやや西隅に、コンクリートで間口一・六メートル、奥行き〇・八メートルのイビを設置して、イビの上には、向かって左端に、野石を香炉代わりに置いて線香を並べたところがあり、そこが主神クミズヌスをまつるためのものだという。クミズヌスとは、カーヌウタキの祭神ミズヌス（水の主）に對するもので、住民は新しく井戸を掘りあてるまで、その場近くにあった溜池の水を生活用水に利用していたため、その溜池に神の存在を認め、その神をクミズヌスとしてイビを設置して拝み始めたという。一方、イビの右端には、野石三個を立ててそれぞれイビシとし、各イビシの前に凹みをつくって香炉代わりにしたところがあるが、ここに置かれたイビシと香炉は、左側からアマリパー、ヤマトウガム、ティンヌシューという三神をそれぞれ遙拝するためのものだという。



祭 神 ①クミズヌス 溜池の水を司る②その他の三神

主な祭祀 ①三月頃、木もしくは土の丑の日、ムギブーズ（麦まつり）②四月頃、右と同日、アーブーズ（粟まつり）③十二月、木もしくは土の卯の日、トウスバン（年末祈願）

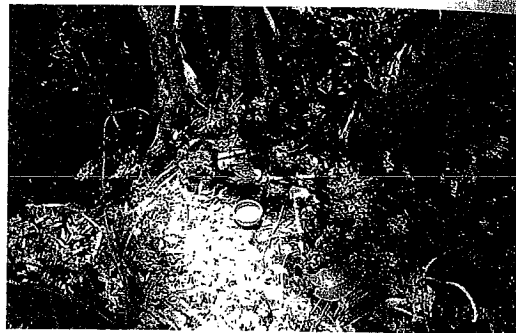
話 者 佐久田光盛 アガイスクバリ生まれ。

〔本永 清〕

カーヌ御嶽（井戸の御嶽）

所在地 城辺町字西里添東底原
立地・構造・由来

アガイスクバリ集落の南のはずれの地に共同井戸がある。水道の普及以前、住民はこの共同井戸の水を生活用水として使っていた。ウタキは井戸から東側の小高い台地上にある。そこには出入口をやや東に向け、二〇坪ほどの祭祀場が開けている。その祭祀場の南隅に、ガジュマルの大きな木が一本そびえて立っているが、その大木の根もと付近に、コンクリートで間口七〇センチメートル、奥行き六〇センチメートルのイビを設置、その上に野石一個を立ててイビとして拝んでいる。このイビシはミズヌス（水の主）夫婦神をまつるためのものだという。この拝所にはサスという男性神役が一人配置されている。



祭 神

①ミズヌス（水の主）ニズヤタマミガ、フキヤギ（湧き上げ）タマミガなどとも称し、水を司る女性神。ニズヤは地下界をさすところからすると、井戸の水はそのニズヤから湧き出るといふ想念にもとづいて、この神名がつけられたのであろう。②ミズバカバウ ①の夫神にあたるという。

主な祭祀 ①二月、水の巳の日、カーブーズ（井戸まつり）②十一月、水の午の日、同じくカーブーズ

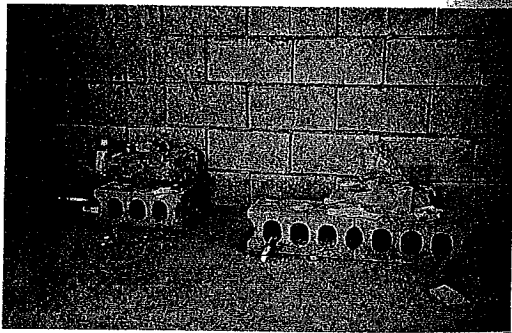
話 者 佐久田光盛 アガイスクバリ生まれ。

〔本永 清〕

ウバツチャー（お初屋）

所在地 城辺町字西里添東底原
立地・構造・由来

アガイスクバリ集落内に位置。三坪ほどのコンクリート建ての祭祀小屋があり、その中に入ると北壁に接した形で二か所、それぞれブロックでイビを設置してある。各イビの上には、それぞれ野石一個を立てて、これをイビシとして拝んでいる。向かって右側のイビガウパツヌス（お初主）という夫婦神、左側のイビがウカマガム（お竈神）をまつるためのものだという。この拝所の由来について、「友利という所から、ある一家族が借金に追われて逃げてきて、この地に住みついた。それが、今のアガイスクバリ集落の始まりである。それで、その家を村人はウバツチャー（お初屋）と呼んでいた。しかし、今日その家は途絶えてしまったため、その草分けの夫婦をウパツヌスとして、のちに村人が屋敷跡に拝所を設けてまつった。」と住民は説明している。



祭 神 ①ウパツヌス 村建ての夫婦神 ②ウカマガム

主な祭祀 ①三月、酉の日、ムギブーズ（麦まつり）②四月、酉の日、アーブーズ（粟まつり）③八月、未あるいは申の日、ジュウグヤブーズ（十五夜まつり）。かつては拝所の各隣家から主婦たちが出て、二日三晩籠って拝んだという。

〔本永 清〕

ウツ御嶽（大御嶽）

異称 マルキス（丸岩）
所在地 城辺町字西里添底原
立地・構造・由来

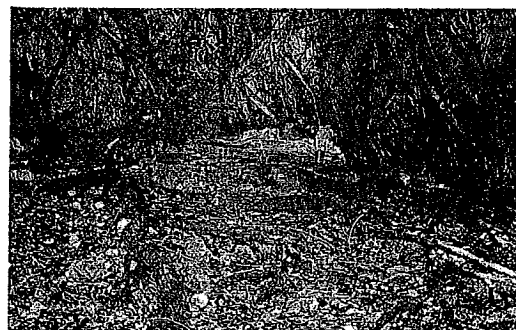
アガイスクバリ集落の北後方に位置し、集落レベル拝所としてほとんど全戸が拝んでいる。ガジュマルの太木が目立つ域内に、出入り口を南西に向け、一五坪ほどの祭祀場が開けている。そこには巨岩を背に、コンクリートで台状に約半畳大のイビを設置、その上やや奥まった所に野石二個を立て、この野石二個をそれぞれイビシとして拝んでいる。各イビシの前の凹みは香炉の代用である。イビシ二個のうち、向かって右側はナイカニ、左側はティンヌマツカニをまつるためのものだというが、村人がじっさいに拝むときには右側のイビシを先番にする習わしのようなのである。この拝所にはウブ（大）ザス、あるいはンマ（母）ザスと称する神女が一人配置されている。

祭 神 ①ナイカニ ウンキヌス（運命主）、フーヌヌス（同上）などとも称し、人間の生命や運命を司る②ティンヌマツカニ ヤーキヌス（家庭主）とも称し、集落内の各家庭の守護にあたる。

主な祭祀 ①三、四月の間、木もしくは土の子の日、ムギブーズ（麦まつり）②五、六月の間、右と同日、アーブーズ（粟まつり）

話 者 佐久田光盛 アガイスクバリ集落の生まれ。

〔本永 清〕



ビマル御嶽

所在地 城辺町字西里添底原
立地・構造・由来

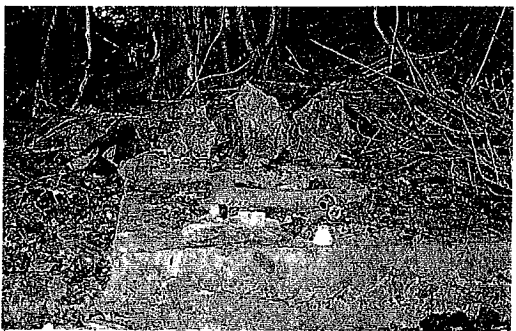
アガイスクバリ集落の西のはずれ、畑中に位置する。ガジュマルの太木が目立つ域内に、出入り口を西に向け、十三坪ほどの円形祭祀場が開けている。その祭祀場のやや北隅にはコンクリートで、間口一・二メートル、奥行き一メートルのイビを台状に設置、その上やや奥まった所に野石三個を立ててそれぞれイビシとし、各イビシの前に凹みを造って香炉の代用とする。ここは本拝所ではなく、遙拝所である。イビシ三個のうち、中央は主神ビマルガム、向かって右側はその夫神（神名不明）、左側はニヌパシユー（子の方主）へ向けて、それぞれ遙拝するためのものだという。ビマルガムの本拝所は近隣のアガイユナシ集落にある。ただし、その拝所には夫神はまつられていない。ニヌパシユーは方位神の一つである。この拝所には神女サスが一人配置されている。

祭 神 ①ビマルガム ヤグミダキマル（尊い抱き丸）、フファマル（子丸）などとも称し、子授けの神である②その夫神③ニヌパシユー ニヌバカボーとも称し、方位神の一つ。

主な祭祀 ①三、四月の間、木もしくは土の卯の日、ムギブーズ（麦まつり）②四、五月の間、右と同日、アーブーズ（粟まつり）

話 者

〔本永 清〕



ティンチクチョー

所在地 城辺町字西里添底原
立地・構造・由来

イズスクバリ集落の北後方に位置し、同集落の住民がサトウタキ（里御嶽）として拝んでいる。ヤブニッケイ、モクタチバナなど灌木林の中に、出入り口をやや南に向け、約四坪の祭祀場が開けている。そこには北から南の両端にかけて、細長の野石六個を立ててそれぞれイビシとするが、南隅の一個を除くと各イビシの前には平たい野石を置いて香炉の代用としている。これらイビシや香炉は向かって左側から順に、ニヌパンマティダ（子方母天太）、主神ティンチクチョー、次の二個が神名不明、アマテラス（天照大神）、リユーグ（竜宮）などをそれぞれまつるためのものだという。この拝所にはサスという男性神役が一人配置されているが、本人は現在、平良市在住である。

祭 神 ①ニヌパンマティダ②ティンチクチョー③アマテラス④リユーグ⑤その他二神

主な祭祀 ①三月頃、木もしくは土の子の日、ムギブーズ（麦まつり）②四、五月頃、右と同日、アーブーズ（粟まつり）③六月頃、右と同日、ユースタミ（豊稔祈願）④十二月、右と同日、トウスナギ（年末祈願）

話 者 友利敏市、ヨシ夫妻

〔本永 清〕



ティンヌマツカニ（天の松金）

所在地 城辺町字西里添底原
立地・構造・由来

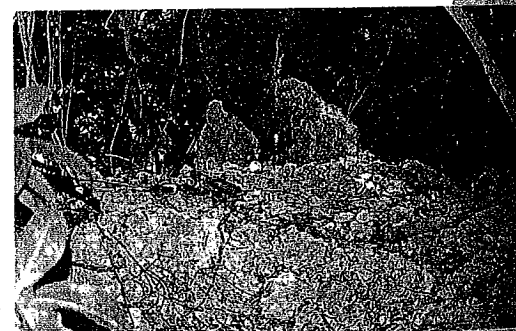
イズスクバリ集落内に位置し、トゥクヤー家を中心に、その一族が拝んでいる。聖域の広さは約五坪、野石を積んで小高く盛り上げたところとなっており、出入り口を西に向ける。聖域のやや東側に、野石二個を立ててイビシとするが、向かって左側が主神ティンヌマツカニ、右側がイキヤマウパルズ（池間大主）をまつるためのものだという。この拝所はイズスクバリの地に来住したトゥクヤー家の先祖が開基したというが、ただしその先祖のうち、男性についてはその渡来先が定かでない、女性だけが池間島から嫁入りしたという伝承が残っている。この拝所には神女サスが一人仕えているが、その継承については母親から娘へのラインを辿るようである。

祭 神 ①ティンヌマツカニ ②イキヤマウパルズ

主な祭祀 ①三月頃、木もしくは土の卯の日、ムギブーズ（麦まつり）②五月頃、右と同日、アーブーズ（粟まつり）③六月頃、右と同日、ユースタミ（豊稔祈願）④十二月、右と同日、トウスナギ（年末祈願）

話 者 友利敏市、ヨシ夫妻

〔本永 清〕



ウツ御嶽（大御嶽）

所在地 城辺町字西里添西底原
立地・構造・由来

ナカスクバリ、イズスクバリ両集落のほぼ中間地は北後方が小高い台地になっている。その台地上に、ガジュマルなど灌木類に囲まれて十五坪ほどの祭祀場が開けており、出入り口を南西に向ける。その祭祀場の東隅にはコンクリートで、間口約一・八メートル、奥行き約一・六メートルのイビを三段状に設置、最上段に野石三個を立ててそれぞれイビとし、各イビの前に



石製香炉一個ずつを置く。イビ三個のうち、中央は主神アガйнаイカニ、向かって左側はニヌパンマティダ（子方母天太）、右側はヤマトウガム（大和神）をそれぞれまつるためのものだという。なお、イビの右端にもリユウグ（竜宮）の神を遙拝するための場所を設ける。この拝所にはサスという神女が一人配置されているが、その継承については母親から娘へのラインを辿るようである。

祭 神

①アガйнаイカニ ナカスクバリ、イズスクバリ両集落の守護神である②ニヌパンマティダ 不詳③ヤマトウガム 不詳

主な祭祀

①三月頃、木もしくは土の酉、卯のいずれかの日、ムギブズ（麦まつり）②五月頃、右と同日、アーブズ（粟まつり）③六月頃、右と同日、ユースタミ（豊穣祈願）

〔本永 清〕

ミルク御嶽（弥勒御嶽）

所在地 城辺町字西里添西底原
立地・構造・由来

ナカスクバリ、イズスクバリのほぼ中間地。台地状になった森の中に、ウブタキに隣接して位置する。ガジュマルの太木が目立つ域内に、出入り口を西に向け、三坪ほどの祭祀場が開けている。そこには間口一・六メートル、奥行き一・七メートル、石づくりによる二段状のイビがあり、前方をのぞく三方を小高い石垣で囲んでいる。上段中央に、野石一個を立ててイビとし、



その前にコンクリート製の香炉一個を置くが、これが主神ミルクガム（弥勒神）をまつるためのものだという。一方イビの東側にもイビシ二個石製香炉二個をそれぞれセットにして置くが、向かって左側がヤマトウガム（大和神）、右側がリユウグヌス（竜宮主）へ向けて拝むためのものだという。この拝所には女神サスは配置されていない。

祭 神

①ミルクガム 豊穣を司る②ヤマトウガム 不詳③リユウグヌス 竜宮から豊穣をもたらす神

主な祭祀

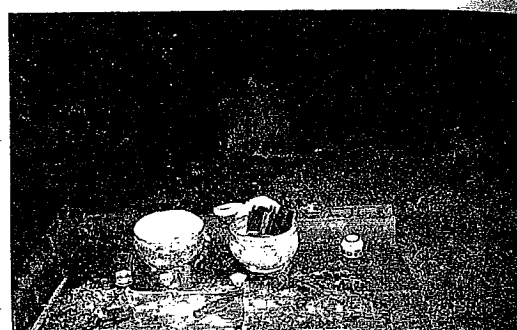
①三月頃、木もしくは土の子の日、ムギブズ（麦まつり）②五月頃、右と同日、アーブズ（粟まつり）③六月頃、右と同日、ユースタミ（豊穣祈願）④十二月頃、右と同日、トウスナギ（年末祈願）

〔本永 清〕

ビマル御嶽

所在地 城辺町字西里添東与那武岳
立地・構造・由来

アガイユナンダキ集落の南前方に小高い丘があり、その麓に鍾乳洞がある。その鍾乳洞の中に、高さ六〇センチメートルほどの石筍が一個形成されていて、その石筍を神体として、同集落の住民が拝んでいる。石筍の前に陶製香炉二個を並置するが、もとは向かって左側の一個だけであったという。



ここには子授けの神ビマルが鎮座すると信じられているため、宮古一円からも参拝者が絶えない。同拝所の祭神について、古くは慶世村恒任著『宮古史伝』の中に「子方母天太が生んだ十二方位神の一人で、産児出生を掌る」という主旨の説明があり、また、稲村賢敷著『宮古島庶民史』の中にも「神名不伝なるも御神体は高さ二尺許、周囲五尺程の乳房形の石で民間信仰として御産の神として崇敬している」と記述している。この拝所には神女サスが一人配置されている。

祭 神

①ビマルガム フファクヤキカム（子を乞い受ける神）とも称し、子宝を授ける神②リユウグ 竜宮の神

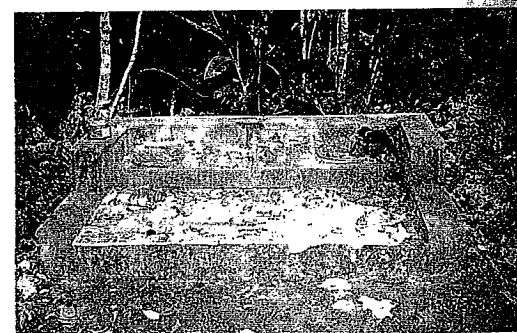
主な祭祀

①三月頃、木もしくは土の卯の日、タティバン（年始祈願）②四月頃、右と同日、ムギブズ（麦まつり）③五月頃、右と同日、アーブズ（粟まつり）④六月頃、右と同日、シツ（節）⑤八月頃、右と同日、ムーブズ（芋まつり）⑥十二月、右と同日、トウスナギ（年末祈願）

〔本永 清〕

アカドウス（赤股）

所在地 城辺町字西里添東与那武岳
立地・構造・由来



アガズユナンダキ集落のやや南前方、道路沿いに位置し、同集落の住民が拝んでいる。出入り口を南に向け、約三十五坪大の祭祀場には、やや東隅に間口一・八メートル、奥行き一・五メートル、コンクリート造りで三段状のイビが設置されている。最上段に石製香炉三個、陶製香炉一個を並置するが、向かって右側から二番目の香炉が主神アカドウス、その左側がヤマトウガム（大和神）、次がシマティダ（母天太）、ウヤティダ（父天太）夫婦神、一方、アカドウスの右側がルグ（竜宮）の神をまつるためのものだという。この拝所には神女サスが一人配置されている。

祭 神

①アカドウス シヌツヌシ（生命の主）とも称し、人間の生命を司る②ヤマトウガム 学問の神③シマティダ、アサティダ夫婦 太陽と月によって象徴される神④ルグの神 食べ物の福を授ける神

主な祭祀

①三月頃、木もしくは土の寅の日、タティバン（年始祈願）②四月頃、右と同日、ムギブズ（麦まつり）③五月頃、右と同日、アーブズ（粟まつり）④六月頃、右と同日、シツ（節）⑤八月頃、右と同日、ユークーニガイ（世乞い祈願）⑥十二月、右と同日、トウスナギ（年末祈願）

〔本永 清〕

ミルク御嶽（弥勒御嶽）

所在地 城辺町字西里添東与那武岳
立地・構造・由来

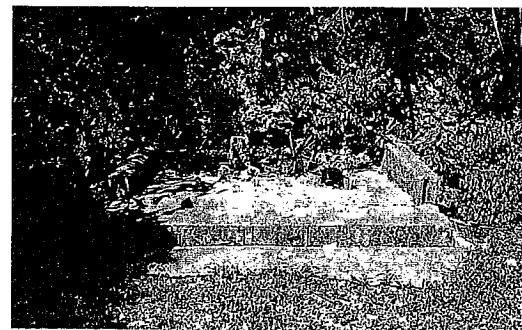
アガズユナンダキ集落の北後方の丘脈上に位置し、同集落の住民が拝んでいる。宮古島上水道組合の大型タンクの建設に伴って、現在地へ場所を移転したという。出入り口を南に向け、ソウシジュやガジュマルなど灌木に囲まれた約五〇坪大の祭祀場には、東隅にある巨岩を背に、間口約二・二五メートル、奥行き一・二メートル、コンクリート造りで二段状のイビが設置されている。最上段に野石二個を立ててイビシとするが、向かって左側が主神ミルクガム（弥勒神）、右側がミズヌヌス（水の主）をまつるためのものだという。この拝所にはかつて神女サスが一人配置されていたという。

祭 神

①ミルクガム ミルクユヌヌスとも称し、人間に豊穡をもたらす神②ミズヌヌス 飲料水を司る

主な祭祀

①三月、木もしくは土の子の日、タティバン（年始祈願）
②四月、右と同日、ムギブーズ（麦まつり）③五月、右と同日、アーブーズ（粟まつり）④六月、右と同日、シツ（節）⑤八月、右と同日、ムーブーズ（芋まつり）⑥十二月、右と同日、トウスナギ（年末祈願）



〔本永 清〕

ウス御嶽（大御嶽）

所在地 城辺町字西里添西与那武岳
立地・構造・由来

イズユナンダキ集落のやや南前方、道路沿いに位置し、同集落の住民が拝んでいる。出入り口を東に向け、約六〇坪大の祭祀場には、やや北隅に間口約五・六メートル、奥行き約一メートル、コンクリート造りで二段状のイビが設置され、上段のほぼ中央には屋根型の小祠も建立されている。小祠は横に三区画され、各区画にコンクリート製のイビシと香炉がそれぞれセットで置かれている。中央が主神ティンヌマツカニ（天の松金）、向かって左側がサラヌヌス（皿の主）、右側がアガイナズカニをまつるためのものだという。また、小祠の外側にもいくつかイビシ、あるいは香炉が置かれている。この拝所には神女サスが一人配置されている。

祭 神

①ティンヌマツカニ ティンヌシュー（天の主）とも称するが、その性格については未詳②サラヌヌス 神酒入れの皿を管理する③アガイナズカニ 帳の主だという④その他

主な祭祀

①三月、木もしくは土の酉の日、タティバン（年始祈願）
②四月、右と同日、ムギブーズ（麦まつり）、アーブーズ（粟まつり）、リュウグ（竜宮祈願）を一緒にまとめてとり行う③六月、右と同日、シツ（節）④その他



〔本永 清〕

ヤマトウガム御嶽（豊穡御嶽）

所在地 城辺町字西里添中山底
立地・構造・由来

ヤカヤマズク集落内の道路沿いに位置する。出入り口を東に向け、十七坪ほどの祭祀場が開けている。その祭祀場の西隅に、一坪ほどのコンクリート造りの祭祀小屋があり、中に入ると同じくコンクリートで段状にイビを設置してある。イビは三段から成る。最上段に、野石を三個並立させてイビシとし、中段には各イビシの直前にあたるところに凹みをつくって香炉の代用とする。下段はおそらく供物を並べるところであろう。各イビシについて述べると、中央が主神ピギタリ・ユヌヌス、向かって左側がヤマトウガム・クライヌス、右側がミズヌヌスをそれぞれまつるためのものだという。この拝所は伊波家の先祖（男性）が開基、同一族が拝んでいる。現在、この拝所にはサスという男性神役が一人仕えている。

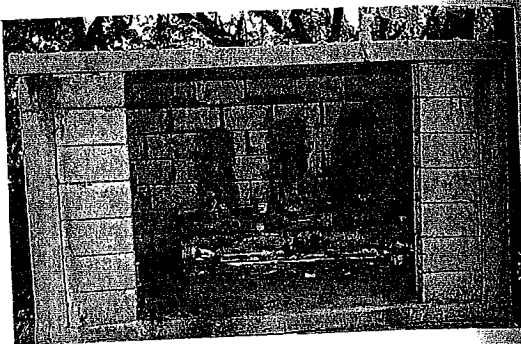
祭 神

①ピギタリ・ユヌヌス 豊穡を司る②ヤマトウガム・クライヌス 学問・出世の神③ミズヌヌス 水を司る

主な祭祀

①三月、木もしくは土の子の日、タティバン（年始祈願）
②五月、右と同日、ムギブーズ（麦まつり）とアーブーズ（粟まつり）をまとめてやる③月、右と同日、ユードミ（豊穡祈願）④十二月、右と同日、トウスバン（年末祈願）

〔本永 清〕



ヤーツチャー御嶽

所在地 城辺町字西里添中山底
立地・構造・由来

ヤーツチャー集落内に位置し、同集落の住民を中心に拝んでいる。三本のガジュマルの太木が目立つ域内に、約十五坪の祭祀場が開け、出入り口を西に向ける。そこには露岩を背に、コンクリートで間口約二・八メートル、奥行き約一・二メートルのイビを二段状に設置してある。イビはそのほぼ中央にガジュマルの太木が生長しているため、その太木によって両分断された形になっている。イビの上段、ガジュマルより西側に、イビシ二個、香炉二個をそれぞれセットで並置するが、向かって右側が主神ンマヌパヌヌス（子の方の世の主）、左側がミズヌヌス（水の主）をまつるためのものだという。一方、ガジュマルより東側にもイビシ二個、香炉二個をそれぞれセットで並置するが、これらのイビシ、香炉によってまつられる神名については定かでない。この拝所は伊良部島から来住したヤーツチャー家の人によって建立されたということで、そこに仕える神女サスには同家の系統の女性、もしくは同家の嫁が就任する習わしになっているようである。

祭 神

①ンマヌパヌヌス 豊穡神②ミズヌヌス 水の神

主な祭祀

①三、四月の間、木の午の日、ムギブーズ（麦まつり）②五、六月の間、右と同日、アーブーズ（粟まつり）

〔本永 清〕



アガイヌ御嶽

異称 イミウタキ
所在地 城辺町字長間（南根間地）
立地・構造・由来

ナカウタキの南方約三二〇メートルのガジユマル、テリハボク等が繁る林に位置する。農道より南東に一二〇メートルばかり畑道を行くと北西に向かう入口がある。東西に細長い約十二坪の祭祀場があり、ほぼ南向きの祭壇がある。祭壇はコンクリート造りで長さ約二メートルあり、四つに仕切られ、それぞれに神名が書かれている。それがイビに相当するもので、特に香炉は併置されていない。ウプウタキ同様北根間地、南根間地、田又の集落が祀る。



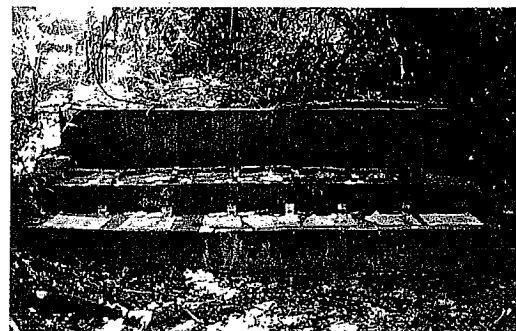
祭 神 ミルクガン、ズトウヌス、クルマヌス、リュウグガン
主な祭祀 三月・タテバン、ムギブーズ。五月・夏ブーズ。九月・シナフカ。十月・牛馬タスキネガイ。十一月・フーツキヨ一カ。

〔下地和宏〕

ナカ御嶽

所在地 城辺町字長間（田又）
立地・構造・由来

ウプウタキの東南方二五〇メートルのガジユマル、テリハボク、ヤブニツケイ等が繁る林に位置する。民家東の畑道を七〇メートルばかり行くと、南西に向いた入口がある。少々小高くなっており、約二〇坪の祭祀場が開けている。その東側に長さ約四メートルのコンクリート造りの祭壇が西側に向けて設けられている。その両側に老ガジユマルがある。祭壇は七つに仕切られ、それぞれに神名が書かれている。それがイビに相当するが、香炉は特別に併置されていない。この御嶽はシマヌパユヌヌスの中通りで、ウプウタキ同様北根間地、南根間、田又の集落が祀っている。



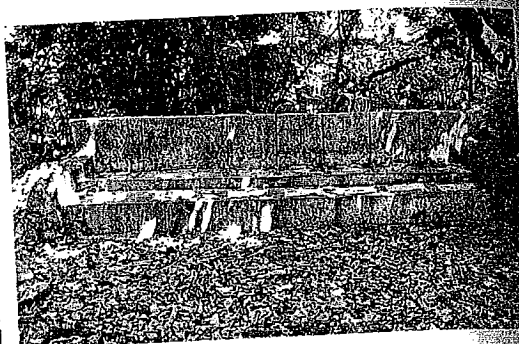
祭 神 祭壇に向かって右からシマヌパユヌヌス、テンヌマツガニヌヌパシマテダ、ミヌパナリカニ、ヌヌパバカボウ、アガリナリカニ、マラシシュウ
主な祭祀 三月・タテバン、ムギブーズ。五月・夏ブーズ。九月・シナフカ。十月・牛馬タスキネガイ。十一月・フーツキヨ一カ。

〔下地和宏〕

ウツ御嶽

所在地 城辺町字長間
立地・構造・由来

長南公民館の南東方約四百メートルにガジユマル、テリハボク、ヤブニツケイ等が繁る林に位置する。農道より北東に一二〇メートルばかり行くとほぼ南向きの入口がある。三〇メートルばかり入ると三方を野面の石積みと石灰岩で区切られた約三五坪の祭祀場がある。その北側に長さ約五メートルのコンクリート造りの祭壇がある。祭壇は七つに仕切られ、それぞれに神名が書かれている。これがイビに相当する。香炉はトビトリ主の一個所だけで、他は長方形のコンクリートを置き代用している。この御嶽はトウビトウイ御嶽の中通いで、北根間地、南根間地、田又が信仰している。豊年祭（夏ブーズ）にはサラビヤースアグが歌われる。



祭 神 祭壇左からヤマトガン、トビトリシュウ・ウミイミガ、ミズヌヌス、マンギヤイガン、テンテフクチョウヌヌス、テシヌヌス、シグトヌスマバイガ
主な祭祀 三月・タテバン、ムギブーズ。五月・夏ブーズ、ダツマス。九月・シナフカ。十月・牛馬タスキネガイ。十一月・フーツキヨ一カ。

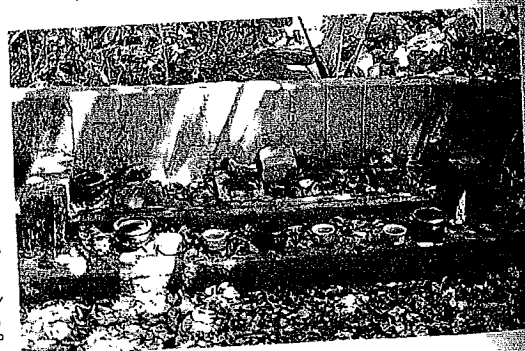
〔下地和宏〕

話 者 砂川康良

トムヌヌシュウ御嶽

所在地 城辺町字長間（北根間地）
立地・構造・由来

長南公民館敷地の裏側に位置する。老ガジユマルで覆われた約四坪の祭祀場でブロックで囲われている。北西に向かう祭壇は、三つに仕切られ、それぞれに神名が書かれている。これがイビに相当するが、特に香炉は併置していない。この御嶽は長間御嶽の中通いで、昭和二年字長間から北区と南区が分字したとき、トムヌヌシュウを勧請したという。それ以来この御嶽は長南集落の守り神として祀られる。夏ブーズはウプウタキ、ナカウタキ、アガイヌウタキの順で巡り、最後にこの御嶽で終わる。



祭 神 祭壇に向かって右から
主な祭祀 三月・タテバン、ムギブーズ。五月・夏ブーズ。

〔下地和宏〕

話 者 砂川康良

ティンヌシウ御嶽

所在地 城辺町字長間(山田)
立地・構造・由来

更竹集落から山田集落へ入る左手の道路脇にあり、集落の一番南側に位置する。拝所入口は、南東に開いており入口から十五メートル程進むと左側に大岩を背に二段に分けられたコンクリート造りの祭壇が設けられている。上段左側に「天之主」、右側には「かにめが」と記されており、「天之主」の前には自然石のイビ、「かにめが」の前には瓦の破片が安置されている。

下段にはそれぞれの前に陶製香炉が置かれ、北をむいている。祭壇の前は、七坪程の平坦な広場になっており、全体的にガジュマルで囲まれているような広場で、入口右側には二メートル弱の大岩が、広場まで続く。集落の祭祀には、必ず拝む御嶽である。

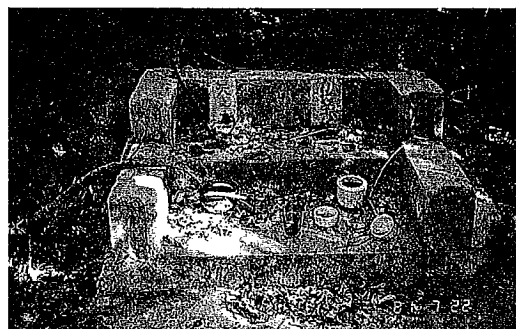
尚、豊年祭の時には、下地町のツヌジ御嶽や赤名宮まで拝みに行く人々もいるという。

祭 神 天ノ主マツガニ、カニメガウヤンマ(夫婦神)

主な祭祀 一月・正月ウガン、二月・タティバン、三月・麦ブーズ、四月・インザンツ(竜宮・海神祭)、五く六月・粟ブーズ(豊年祭)、ユースタミ(水ブーズ)、八月・パリマーズ(シナフカ)、十一月・フウスクゴ、十二月・トスノバン

話 者 上地カメ(城辺町字長間五九八番地)

〔砂辺和正〕



ユーヌヌス御嶽

所在地 城辺町字長間(山田)
立地・構造・由来

山田集落内の平良金盛宅と古謝広栄宅の間の道を七十メートル程北西に進むと畑地の中に、円形状にこんもりと木々に覆われた場所に着く。入口は、南側に開いており、アカギ、アコウ、オオバギなどの大木が目立つ、中は四十坪ほどの広場があり、北東隅に二段造りの幅、約三メートル、高さ、約八十センチのコンクリート製の祭壇が設けられている。上段左側から「うまてだ」、「世之主」、「みるく」、「天の若坊」、「てんでふ」、「リュウグ」、「水」と記され、それぞれの前には、瓦片がおかれ、下段には近代の白磁や青磁、染付け製の香炉が配置されており、祭壇は南西を向いている。

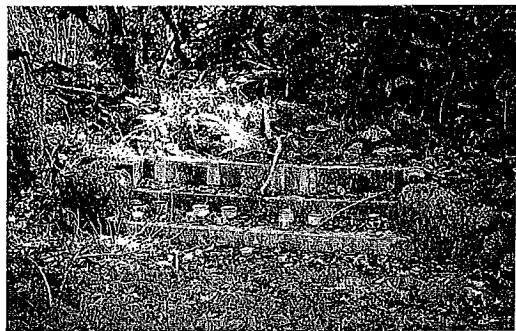
集落の祭祀には、必ず拝む御嶽である。

祭 神 うまてだ、世之主、みるく、天の若坊、てんでふ、水の神、リュウグウ

主な祭祀 一月・正月ウガン、二月・タティバン、三月・麦ブーズ、四月・インザンツ(竜宮・海神祭)、五く六月・粟ブーズ(豊年祭)、ユースタミ(水ブーズ)、八月・パリマーズ(シナフカ)、十一月・フウスクゴ、十二月・トスノバン

話 者 上地カメ(城辺町字長間五九八番地)

〔砂辺和正〕



里御嶽

所在地 城辺町字長間(山田)
立地・構造・由来

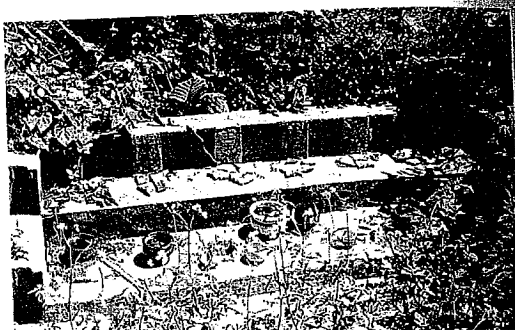
山田集落には、三か所南北に並んでいるように御嶽があり、北側に位置する御嶽が「里御嶽」で真ん中が「ユースヌス御嶽」、南側が「天之主御嶽」である。この里御嶽は、クワノハエノキ、アカギ、ガジュマル、アコウ等の巨木に覆われ、入口は南側に開いており、中は四十坪程の広場になっている。北クワズイモの群生が発達している。北東隅に二段造りの幅、約二・五メートル、高さ、約八十センチのコンクリート製の祭壇が設けられている。上段左側から「水ヌ神」、「にしめ主」、「主之神」、「やまと神」、「ういか主」、「まらせ」、「あづぬ主」と記され、それぞれの前には瓦片が置かれている。下段には、最近の香炉がそれぞれに配置され、祭壇は南西を向いている。前記した二か所の御嶽と同様に集落の各祭祀には、必ず拝む御嶽である。この御嶽は、飛鳥主のナカドウィも兼ねている。

祭 神 水之神、にしめ主、飛鳥主、やまと神、ういか主、まらせ、あづぬ主

主な祭祀 一月・正月ウガン、二月・タティバン、三月・麦ブーズ、四月・インザンツ(竜宮・海神祭)、五く六月・粟ブーズ(豊年祭)、ユースタミ(水ブーズ)、八月・パリマーズ(シナフカ)、十一月・フウスクゴ、十二月・トスノバン

話 者 上地カメ(城辺町字長間五九八番地)

〔砂辺和正〕



マラシ御嶽

所在地 城辺町字長間(山川)
立地・構造・由来

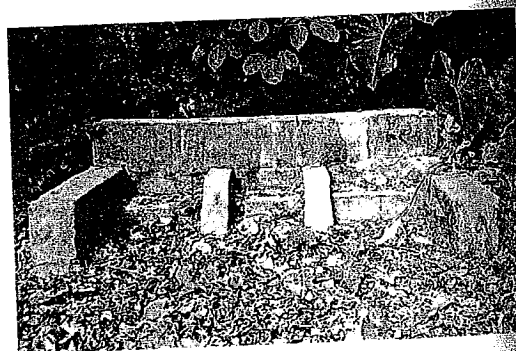
平良市増原の飛鳥御嶽が位置する同じ丘陵地の東はずれ、二十年程前に営業していた喫茶店「いずみ」の建物跡の前の道路を挟んだ反対側に位置する。その道路から二十メートル程畑脇を通って御嶽入口に向かう小道がある。更に入口から二十メートル程進むと左側に大岩を抱いたガジュマルが目につくが、祭壇はその右手三メートル程に設けられている。祭壇はコンクリート造りの一段造りだが、その背の上部に左側から「トビトリ主」、「ミズノ神」、「マラシ主」と刻まれている。イビシは、「マラシ主」の前には安置されているが、他の二か所はコンクリートに窪みを作っているだけである。祭壇の右側面上部には、「1963年旧4月25日工事」と刻まれ、祭壇の後方には、五メートル程の大岩がそびえ、岩をガジュマルやアコウなどの樹木が抱いている。御嶽の北東側三十メートル程に「マラシガ」と称されている井戸があり、各祭祀の際にはその水を利用していているという。

祭 神 マラシ主、トビトリ主、ミズノ神

主な祭祀 一月・正月ウガン、二月・タティバン、三月・麦ブーズ、五く六月・粟ブーズ(豊年祭)、ユースタミ、九月・シナフカ、十月・ミズダミ、火のダミ、十一月・ブーノヌス、十二月・トスノバン

話 者 仲間金市(城辺町字長間二七三番地の三)

〔砂辺和正〕



ユーヌヌス御嶽

異称 ムトゥ御嶽
所在地 城辺町字長間（与那浜）
立地・構造・由来

与那浜集落の北側、約五百メートル離れた丘陵地の西側頂上付近に位置する。この丘陵は、「ムトゥ御嶽遺物散布地」という周知の遺跡でもある。御嶽には県道・保良西里線（一周道路）から約百五十メートル北西に向かう農道があり、その農道から更に御嶽に向かう小道が百メートル程続いている。

御嶽の範囲と考えられるフラット面の奥に、高さ一メートル、幅約一・五メートル、奥行き八十センチ程のブロック造りの祠があり、西を向いている。中には、大小のコンクリート製の香炉が置かれており、右側の大きな香炉が「世の主」、左側の小さい香炉が「龍宮」の用だと思われている。祠の後部は開いており、石積が確認出来ることや周辺にも石積が残っているため、以前は石囲いの御嶽であったと思われる。この「世の主御嶽」は、長北地区で最高の格付けがされており、下地町の「ツヌジ神」と兄弟とも伝えられている。御嶽の東側には、「テリハボク」が植林されており、北側は海に落ち込むような絶壁になっている。



祭 神 世の主、リュウグウ
主な祭祀 五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ

〔砂辺和正〕

ヤマトウ御嶽

所在地 城辺町字長間（越地）
立地・構造・由来

越地集落の北東約百メートルに位置し、県道・保良西里線（一周道路）から北東に向かう農道があり、県道から農道への入口は若干の上り坂で五十メートル進むと、左側三十メートル程にソウシジュとデイゴの大きな木が目立つ、樹木がこんもりとした場所がある。入口は中間ほどに南西に開いており、五メートル奥に宮古でよく「夫婦岩」と言われているような岩が対を成してあり、その岩と岩の間の空間に大小のコンクリート製の香炉が置かれ、右側の大きな香炉が「大和神」、左側の小さい香炉が「龍宮」のものとされている。更に左側に近代の濃い青色の大小の香炉も置かれている。

年に二回の祭祀があり、集落の各家々が個々に拝んでいる。

祭 神 ヤマト神、龍宮
主な祭祀 五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ



〔砂辺和正〕

ニヌバカボウ

異称 アパラギ御嶽、ボウガマ御嶽
所在地 城辺町字長間（大瀬原）
立地・構造・由来

長北集落センターから東方に約二百メートルほど進むと、道路左側にデイゴの大きな木が目立つ約十五坪程御嶽がある。入口は、道路に隣接しており、石垣などの境界はない。中程に四坪ほどの空間があり、北側に二メートル弱の自然岩の立ち石があり、それをイビシとして利用している様で前にコンクリート製の香炉が一個置いてある。昔、大瀬原に美しい娘が住んでいたと言われ、その娘の屋敷跡なのか、娘が祭られている御嶽なのかは、定かではないが地元では「アパラギ御嶽」とも称されている。また、この御嶽では、千ばつが続くと、雨乞いのクイチャーを奉納したという。



祭 神 ニヌバカボウ
主な祭祀 五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ

〔砂辺和正〕

ユーヌカツ御嶽

所在地 城辺町字長間（屋敷原）
立地・構造・由来

屋敷原集落の北側に位置し、集落の北外れから約七十メートル程離れた場所の右側に御嶽への入口がある。入口から二十メートル程入ると、左側に四十センチ程の野面石の石垣に囲まれた十坪程の長方形の空間があり、三方向に祭壇が設けられている。北東側には、石垣に入り込むように「ユーヌ神」と記された二段造りのコンクリート製の祭壇があり上部に香炉も作られ、上段には自然石がイビシとし安置され南西を向いている。北西側には、二つに区切られたコンクリート製のイビがあり、左側に「大川神」、右側に「リュウグ」と記され「リュウグ」の前には、壺屋製の白碗が置かれている。南西側には、「ツヌジ神」と記された二段造りのコンクリート製の祭壇があり上段に石製香炉がコンクリートで取り付けられている。



祭 神 ユーヌ神、大川神、リュウグ、ツヌジ神
主な祭祀 五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ

〔砂辺和正〕

ミルク御嶽

所在地 城辺町字長間（屋敷原）
立地・構造・由来

屋敷原集落、「盛島商店」の北側に位置し、デイゴの巨木の根元にある。左側に「ミルク神」、右側に「水の神」と記されたコンクリート製の祭壇が北東向きにある。祭壇の前のコンクリート敷は、樹根の為に二つに割れ、それぞれの祭壇の施設として、独立しているように見える。どちらの前にも、コンクリート製の香炉が置かれ「ミルク神」の前の香炉には、五センチ程の礫が五く六個入っている。右側面上部には、「一九五三年旧八月」と記されている。祭壇の北側、四メートル程に石の配列が確認できるので、その間の六く七坪の空間が御嶽の敷地と考えられる。

年に二回の祭祀があり、集落の各家々が個々に拜んでいる。

祭 神 ミルク神、水の神

主な祭祀 五く六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ

〔砂辺和正〕



ティンヌシユウ御嶽

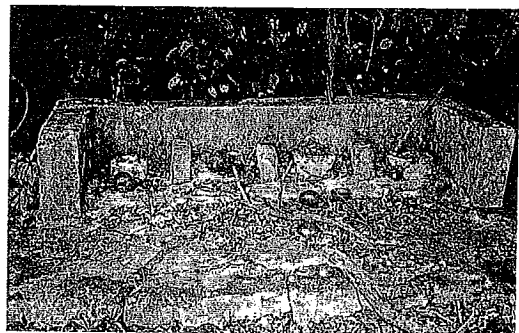
所在地 城辺町字長間（屋敷原）
立地・構造・由来

屋敷原集落、「盛島商店」の北側に位置し、デイゴの巨木の下にある「ミルク御嶽」が北側にあり畑を隔て、南側に位置する。入口は、東側に隣接しているきび畑と御嶽の石垣の間を通り、中程に入口が東側に開いている。入口の正面に自然岩を抱いたガジュマルがあり、その前方に高さ四十センチ、横二メートル程のコンクリート製の祭壇が設けられ、四つに区切られている。左側から「大和神」、「天ノ主神」、「飛鳥主」、右側は、「二神記され」、「子方バカボウ」、「子方ウマティダ」と記されている。それぞれの前には、石製香炉が置かれており、「天ノ主神」と「飛鳥主」の香炉には自然礫が数個入っている。また、この祭壇の四メートル左側に離れて、「阿司の主」と記された祭壇が設けられ、香炉も据えられている。三十坪程の御嶽の周囲は、野面石で囲まれている。

祭 神 大和神、天ノ主神、飛鳥主、子方バカボウ、子方ウマティダ、阿司の主

主な祭祀 五く六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ

〔砂辺和正〕



ツカサ御嶽

所在地 城辺町字長間（西方）
立地・構造・由来

長間公民館の北方約三百メートルのデイゴ、ガジュマル、マツ等が繁る林に位置する。農道から西方に七〇メートルばかり畑道と草木の中を行くと、約一〇坪の祭祀場がある。入口は南向い三方には部分的に高さ九〇センチの石積みが残る。北側の石垣に沿うようにコンクリート造りの長さ一・八メートルの祭壇がある。祭壇は三つに仕切られそれぞれに神名が書かれている。これがイビに相当し、コンクリートの香炉がそれぞれ併置されている。祭壇から離れた左側にはカッチャーヌカンが祀られ、長中、長北、長南の三集落が信仰する。この御嶽は飛鳥御嶽の中通いで長間集落で祀っている。

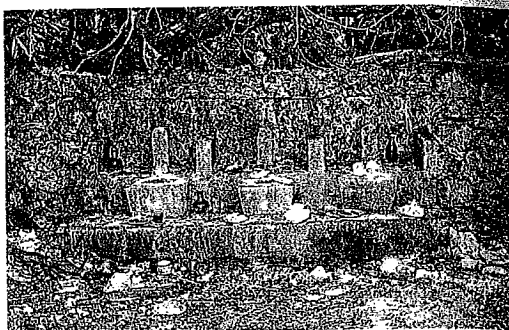
祭 神 祭壇向かって右からウマテダ、ニスミシユウ、トビトリシユウ

主な祭祀 三月きのとら・タテバン。ムギブーズ。五月か六月きのとら・夏ブーズ。八月きのとら・シツガンネガイ。十一月・フツキヨカ。

話 者 下地マツ（明治三十八年生）

伊計千代（大正十三年生）

〔下地和宏〕



ツカサ御嶽

所在地 城辺町字長間（西野嶺）
立地・構造・由来

長間公民館の北東方約二五〇メートル、長中集落の北東端、ガジュマル、ヤブニッケイ、オオバギ、センダン等が繁る林に位置する。農道から北に畑道を八〇メートルばかり行くとほぼ南向きの入口がある。更に三〇メートルばかり草木の緩傾斜を進んだ奥に約六坪の祭祀場がある。祭祀場の奥に高さ九〇センチの石垣があり、その中央ほどにコンクリート造りの祭壇（約二×〇・六メートル）が設けられている。祭壇にはコンクリート製の三つのイビと香炉が併置してある。イビには向かって左からツカサ神、天照大神、リウグ神の神名が書いている。

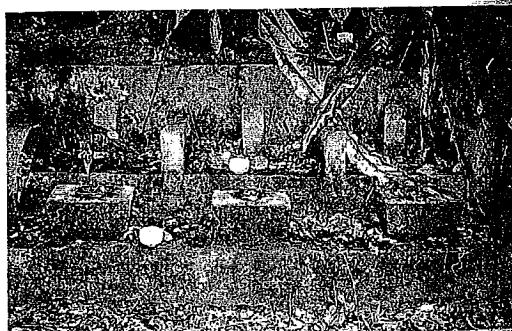
祭 神 ツカサガン、テダヌカン、リウグガン

主な祭祀 三月きのとら・タテバン。きのとら・ムギブーズ。三月きのとら・インザネツ。五く六月きのとら・夏ブーズ。六月きのとら、う・ンナフカ。八月きのとら・シツガンネガス。

話 者 下地マツ（明治三十八年生）

伊計千代（大正十三年生）

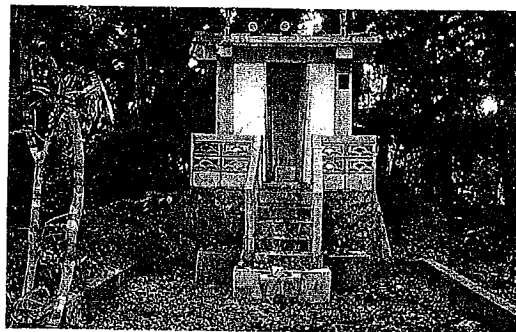
〔下地和宏〕



長間御嶽

異 称 トウムズヌシウガウタキ
所在地 城辺町字長間（長中）
立地・構造・由来

長間中区公民館の道を隔てて南方に所在する。東西約二五×南北約三〇メートルの御嶽で、松林・イスノキ・オオバギ・ヤブニツケイ・テリハボク・黒木・クロツグなどの木々が茂り、入口は北方に向かう。入口にはコンクリート製の鳥居が建ち、その右手前方には、拝殿改築の記念碑があって、表



には「改築記念碑」裏には「村建 西暦一八一四年 皇紀二四七四年 甲戌年八月 一九五二年壬辰三月十五日建之」と記されている。鳥居から拝殿まではコンクリート敷きの参道で、一五メートルほど進むと低いコンクリート塀で囲われた神域があり、その神域内に拝殿が設けられている。拝殿には台座（二×二・五、高さ約一メートル）があって、六段の階段が設けられ、その最下段にコンクリート製の香炉が置かれている。拝殿の形態は切妻造り（二×一・三、高さ二メートル、コンクリート建）で、中には「忠導氏 友利與人 うやき屋大主之碑」と記されたコンクリート製の碑（二〇×四、高さ四二センチメートル）がブロックの上に安置され祀られている。

この御嶽には、長間村の創建に貢献したトウムズヌシウ（友利の主）が祭神として祀られている。「友利の主」とは「友利首里大屋

子・忠導氏おやけ屋の大主」のことである。博学で和漢の学に通じた人物で、一七四八年に在番筆者・明有文長良により謹撰された『宮古島記事仕次』原本の著者でもある。『宮古島記事仕次』の前文には、「友利の主」について「ここに忠導氏おやけ屋の大主という人あり。友利首里大屋子に任じられる。博学にして古を好む長者なり。暇の日、番字を以て宮古島の古事を誌さる。その事に最尽せり。（中略）大主が誌す所の物語を以て、その言葉の繁きものは是を茹、略せるものをばこれを補い、番字・和字を雜えて、これを校正して宮古島記事仕次という。是れ則ち、大主のいにしえをこのむの雅意を本として後の識者を待つものならじ」と記されている。

『雍正旧記』（一七二七年）と『球陽』によれば、長間村の創建は一七二五年である。この長間村の創建について、『雍正旧記』は「昔、西銘間切に飛鳥という支配者がいて、西方の伊佐良という村を攻め取る考えでいたが、逆に伊佐良の思千代按司に依頼された弓の名手・宇慶目曾礼の矢を受けて失命した。城は滅び人々も離散したが、その後、雍正三（一七二五）年に旧城の隣りに長間村を組立てた」と記している。また、『球陽』は一七三一年の条で「雍正乙巳の年（一七二五年）に大神村から七二名を長間の地に移住させて一村を設けた。この時の長間村は他村の与人・目差が兼務した。けれども、大神村は田地が狭く海に出て魚をとることを専業としていて、この長間村に移住しても、専ら漁業を好み、田畑の耕作を疎かにするため人々は貧苦となり、その多くが飲食に不足をきたした。それで他村からまた二百余名の人々をこの村に移住させ、与人・目差を設置して勸農整俗に当たらせたと記し、更に一八二二年の条では「今の長間村は用水・土壌とも悪く、そのため熱病にかかる者が多く住民も減少して村として運営

ウイカヌス御嶽

異 称 ウイカザー
所在地 城辺町字長間（西野嶺）
立地・構造・由来

しかたのため、神域用水の便利が喜屋敷地方に村を移して欲しい旨の要請が在番・頭からあったのでそれを准じた」と記している。これに基づき、一八一三、四年頃、長間村は喜屋敷地方の現在地に移されているが、『宮古島往復文書』によれば、この間、長間村には他村から一七五三年に四五戸、一七六六年にも三六戸の移籍が行われたが、風気が悪く熱病などで人口が増えないため、一七七九年〜一七八一年には用水の便利な山川辺りへ村を移転する計画も検討されたようである。この長間御嶽ではツカサンマ（女一人）・ウサギンマ（女一人）・ツカサドウム（女二人）・サラヌヌス（男一人）・ンキイザス（男一人）など、六人の神役を中心に種々の祭祀行事が執り行われている。祭 神 トウムズヌシウ（友利の主・友利首里大屋子・忠導氏おやけ屋の大主）

主な祭祀 一月 ショウガツウガン（年始めの祈願）

六月 アーブーズ（粟の初穂祭）

八月 ダキイマス（赤子の誕生報告祝い）

九月 ユークー（豊穣祈願）

十二月 プトゥキバン（年末の感謝祈願）

話 者 島尻トヨ・島尻恵吉（城辺町字長間二四三八の三）

〔砂川玄正〕



長間公民館の東方約三二〇メートルの高台にガジユマル、テリハボク、マツ等が繁る林に位置する。農道に接した北向きの入口から南へ約七〇メートル草木の中を行くと約一五坪の祭祀場が開けている。その東側に高さ一・三メートルのコの字形の石垣がある。その中に長さ一・八メートルのコンクリート造りの祭壇がある。西側に向いた祭壇は二つに仕切られ、神名を書いたコンクリート造りのイビと香炉が併置されている。

部落の祭祀行事は最初にウイカヌス御嶽で祈願をする。次にツカサ御嶽、トゥビトウイシユウ御嶽、ニヌババカボウ御嶽、トウムヌーシユウ御嶽（長間御嶽）、ユクミシユウ御嶽と順に巡るといふ。現在はウサギザス不在のためとだえている。

祭 神 アルズガン、テンヌシユウ

主な祭祀 三月・タテバン、ムギブーズ。五月か六月・アーブーズ。

八月・シツガンネガイ

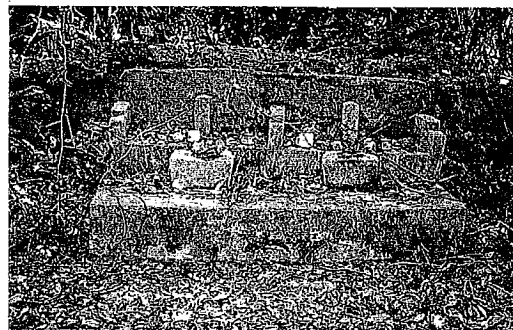
話 者 伊計千代（大正十三年生）

〔下地和宏〕

ユクミシユウ御嶽

異 称 スグトウザー
所在地 城辺町字長間（東方原）
立地・構造・由来

長間公民館の南方約三二〇メートル農道沿いのガジュマル、テリハボク、マツ等が繁る林に位置する。入口は北向きで約十五坪の祭祀場があり、正面奥に高さ〇・九メートルの石垣が残る。その石垣に接してコンクリート造りの長さ一・八メートルの祭壇を設けてある。祭壇は二つに仕切られ、それぞれコンクリート製のイビと香炉を併置してある。向かって右側のイビにはマパイ天、スグト主、左側はユクミ主と書かれている。仕事座の神はキンミ主（計り）、マヌヌ主（升）という。祭 神 ユクミシユウ、マパイテンスグトヌス
話 者 伊計千代



〔下地和宏〕

キヤーギカンドウヌ御嶽

所在地 城辺町字長間（キヤーギ）
立地・構造・由来

長間郵便局の北方約二百メートルにタブノキ、ヤブニッケイ、オオバギ、ガジュマル等が繁茂する林の中に位置する。桑畑を東に約四〇メートル入るとほぼ南向きの入口がある。樹木に覆われた参道約三〇メートル奥に切り石囲い一〇坪程の祭壇がある。手前に七五×二〇センチの石柱が対をなして立つ。祭壇に右側にキヤーギ金殿主、中央にユクミ主（中通イ）、左側にミルク神（中通イ）三神を祀る。キヤーギ金殿主のイビにはアーチ型の石組が施されている。それぞれコンクリート造りの香炉が併置されている。石囲いの右側外にはカズ神（中通イ）を祀るイビと香炉が設けられている。同御嶽はキヤーギ集落および出身者が祀っている。祭 神 キヤーギカンドウヌシユウ、ユクミシユウ、ミルクガン、カズガン
主な祭祀 三月・麦ブーズ。五〇六月・粟ブーズ。十月・芋ブーズ。
話 者 下地メガ



〔下地和宏〕

高腰御嶽

異 称 高腰神社
所在地 城辺町字比嘉
立地・構造・由来

比嘉公民館前の道路を長北集落へ向かう途中、約一キロメートル地点の右側に周りが土地改良され、松の木と鳥居だけがぼつんと取り残されているように見える場所があり、そこが「高腰御嶽」である。道路から鳥居まで約三十メートルほど、ゆるやかな登坂になつており、鳥居から十メートル奥のソテツの前にコンクリート製の祭壇が設けられており、「高腰按司」を祀っていると言われている。祭壇は、南西を向いているが御嶽の背後には、「高腰城址」が在る丘陵地があり、そこに向かつて拝んでいるようにも思える。祭壇の右側に小道があり、十メートルの間にイビが二カ所ある。



伝承では、「高腰按司」の兄弟を祀っているとも言われているが、住民の話でも本当に兄弟を祀っているのか定かではないという。祭 神 高腰按司
主な祭祀 三月・麦ブーズ、五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ

タミ

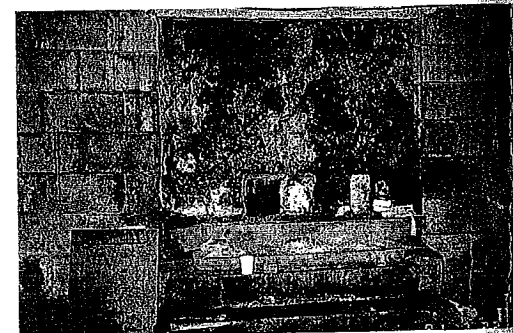
話 者 安谷屋ヨシ（城辺町字比嘉一三番地）

〔砂辺和正〕

イラバズ御嶽

所在地 城辺町字比嘉
立地・構造・由来

比嘉集落の下方の町道を北西に約二百メートルの地点の右側に樹木が鬱蒼とした場所があり、前方に鳥居が立っている。鳥居は、南西方向に開いており、鳥居からゆるやかな登り坂を十二メートルほど進むとコンクリートで造った五段の階段があり、その奥に高さ二メートル、幅約三メートル、奥行き二・九メートルのコンクリート造りの建物がある。建物の奥は、一・一メートル×一・五メートルに開口しており、自然石が露出している。その前に三段に造られたコンクリート製の祭壇が設置されており、上段にイビシが三個、安置され、中段には香炉が三カ所取り付けられている。また、左右側壁も一・五メートル×〇・九メートルに開口している。また、左右側壁には、「一九六一年三月二九日竣工」・「伊良波津神社新築御寄付芳名」と記され、氏名と金額がそれぞれ三段に記されている。「イラバズ」とは、御嶽の名前であって、祭神名なのかどうかは比嘉集落の住民でも判らないという。祭 神 未詳
主な祭祀 三月・麦ブーズ



話 者 安谷屋ヨシ（城辺町字比嘉一三番地）

〔砂辺和正〕

ミュー御嶽

所在地 城辺町字比嘉
立地・構造・由来

比嘉集落の北側百メートルに位置し、畑と畑の間を御嶽に通じるコンクリート敷の参道が八十メートル程ある。入口には、高さ一・七五メートル、幅四〇センチ×三〇センチ角の石灰岩の切り石の角柱が左右に立ち、南西に開いている。入り口付近は、ガジュマルの枝が覆い被さるように生えているので、昼間でも薄暗く感じる。幅広の石段を八段登り切ると右側に迫り出した自然岩があり、その下部の岩陰に二段に作られたコンクリート製の祭壇が設けられ南を向き、上段左側に四七センチ×三六センチの楕円状の香炉と右側に三三センチ×二五センチコンクリート製の香炉が二個、備え付けられている。この祭壇が御嶽の祭神である「火の神」を祀る場所である。その左側七メートル離れた所にアコウの樹根を背に二段造りのコンクリート製のイビがあるが、そこは「高腰御嶽」のナカドゥイであり、東南を向いている。

祭 神 火の神

主な祭神 三月・麦ブーズ

五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ
話 者 安谷屋ヨシ（城辺町字比嘉一三番地）



ウイカ御嶽

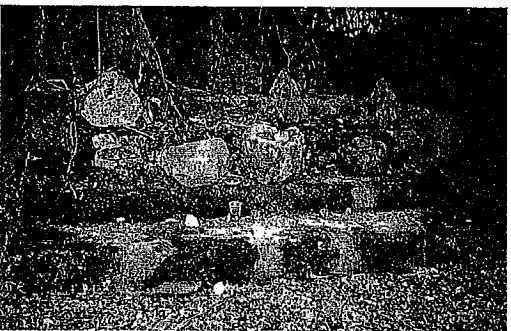
所在地 城辺町字比嘉
立地・構造・由来

比嘉公民館のすぐ裏手に位置し、入口は、公民館の左側の里道を四〇メートル程北東に進むと右側にキビ畑の脇を南西に向かう御嶽への小道がある。その小道の六〇メートル程先、右側に御嶽の入口が北東に開いており、右手にフクギの大木と左手にテリハボクの大木が目を引き、入口から二〇メートル程の地点に切り石を組んで造られた高さ〇・六メートル、幅二・五メートル、奥行き一・二メートルの三段の祭壇が設けてあり、上段に自然石のイビシが三個、安置されており、中段には、石製香炉がイビシの前に置かれている。祭壇の後方には、ガジュマルの巨木が生え、ガジュマルと祭壇の間には高さ〇・八メートルの略角柱状の立ち石があるが、それがイビシとして拝んでいるのかは定かでない。更にガジュマルの後方には、長さ約二五メートル、高さ一メートル程の野面積の石垣が残っている。この「ウイカ御嶽」は、「学問の神様」を祀っている。で、合格祈願の生徒やその家族が拝みに来るといふ。

祭 神 学問の神

主な祭神 三月・麦ブーズ

五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ
話 者 安谷屋ヨシ（城辺町字比嘉一三番地）



ウイカ御嶽

所在地 城辺町字比嘉
立地・構造・由来

比嘉集落の南東側に位置し、下地キヨ宅（字比嘉三二番地の三）から南東に向かう農道があり、八〇メートル程進むと、左側に御嶽への入口が南西に開いている。入口右手にフクギ、左手にクワノハエノキの大木が目立つ、農道から四段の石段があり、二〇メートルほど奥に高さ二メートル、広さが五メートル×五メートル四方の切り石で組まれた屋根のない建物がある。建物の四方は開口しており、奥は石組みでアーチ状に造られ、その前に三段に造られた祭壇が設けられ、上段の中心に高さ四〇センチ、幅二七センチのイビシがアンチされている。イビシの両側には陶器製の花瓶と燈籠がそれぞれ対で置かれており、イビシの前方には方形の陶質土器製の香炉、左側に円形の陶質土器製の香炉、右側には長方形の浅い陶器製の香炉が置かれている。下段には、脚付きの角盆が置かれており、その上に供えた捧げ物を翌日見に来て、捧げ物の広がり具合で豊作などを占ったという。

祭 神 ツカサ神

主な祭神 三月・麦ブーズ

五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ
話 者 安谷屋ヨシ（城辺町字比嘉一三番地）



トウユミシユウ御嶽

所在地 城辺町字比嘉
立地・構造・由来

比嘉集落の南西側約三百メートル、加治道集落からは北東側に位置し、両集落のほぼ中間地にあるこんもりとした山林の中に存在する。比嘉集落側からだど、「ツカサ御嶽」の南側の舗装された農道を南西へ進み、左側に樹木がこんもりとした場所がある。御嶽への入口は、舗装された農道から更に畑地の中の小道を百メートル進んだ地点にある。入口に入ると、左右に御嶽へと向かう道が分かれており、右側に進むと「アカドゥヌ御嶽」へ、左側へ進むと「トウユミシユウ御嶽」への参道である。「トウユミシユウ御嶽」は、入口から八〇メートルほど、北に進んだ地点にあり、直径約五メートルの円形状に野面積の石囲いの空間がある。南側に一・五メートル幅で出入口が開いており、北北東側奥に、高さ約八〇センチ、上部一五センチ、底部六〇センチの略三角形のイビシがある。イビシの前には石製香炉が一個置かれている。

祭 神 トウユミ主

主な祭神 三月・麦ブーズ

五〇六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーヌタミ
話 者 安谷屋ヨシ（城辺町字比嘉一三番地）



アカドウ又御嶽

所在地 城辺町字比嘉
立地・構造・由来

比嘉集落の南西側約三百メートル、加治道集落からは北東側に位置し、両集落のほぼ中間地にあるこんもりとした山林の中に存在する。比嘉集落側からだと、「ツカサ御嶽」の南側の舗装された農道を南西へ進み、左側に樹木がこんもりとした場所がある。御嶽への入口は、舗装された農道から更に畑地の中の小道を百メートル進んだ地点にある。入口に入ると、左右に御嶽へと向かう道が分かれており、右側に進むと「アカドウヌ御嶽」へ、左側へ進むと「トウユミシユウ御嶽」への参道である。「アカドウヌ御嶽」は、入口から三十メートル進んだ地点にあり、高さ一・六メートル、幅四メートル、奥行き三メートルの切り石で建てられた屋根のない建造物があり、奥に三段の祭壇が設けられている。祭壇は、南西方向に向いており、上段には瓦片が安置されている。両側にも瓦や自然石を利用した簡単な遙拝施設が造られている。



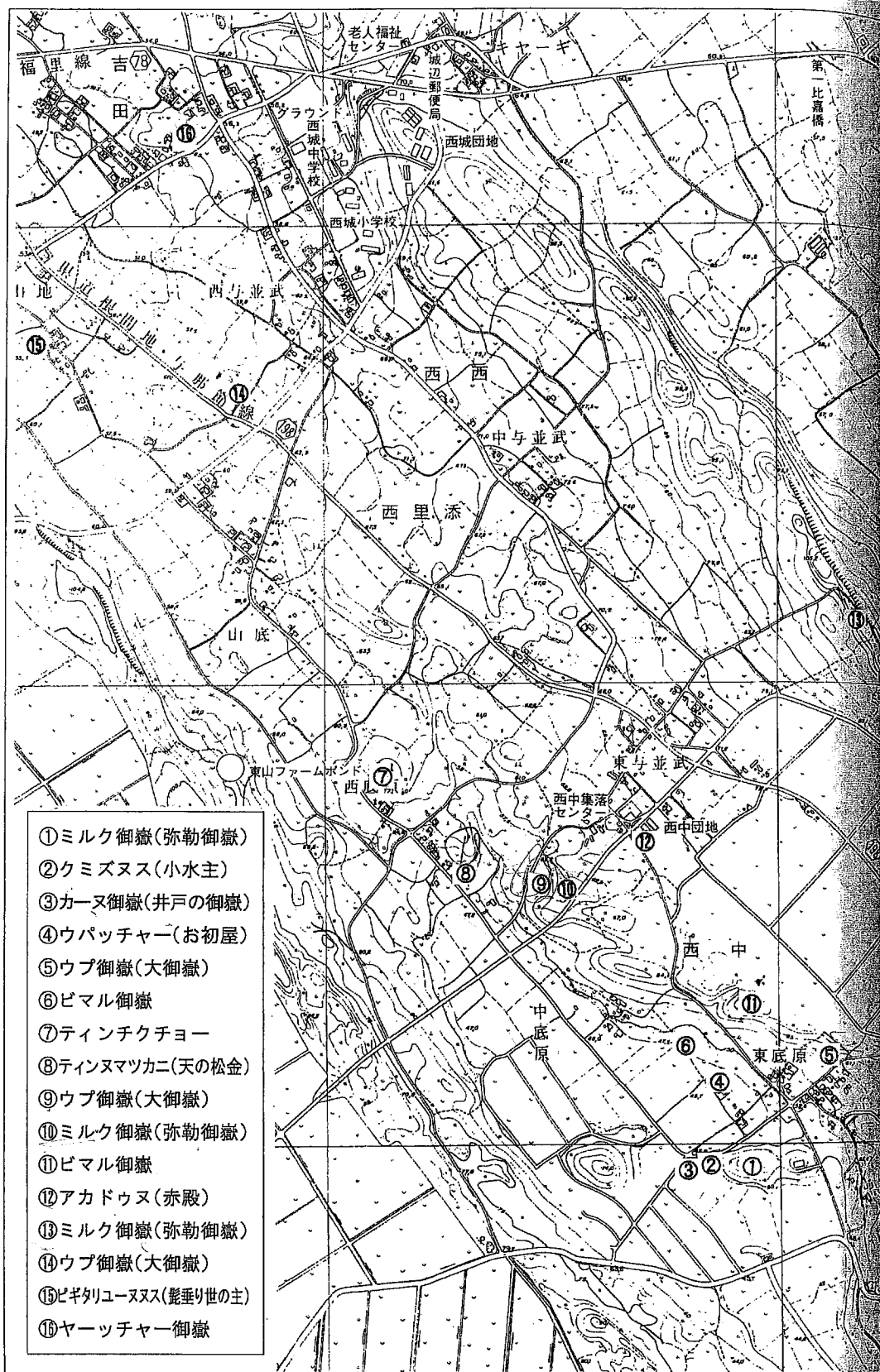
祭神
アカドウヌ

主な祭祀 三月・麦ブーズ

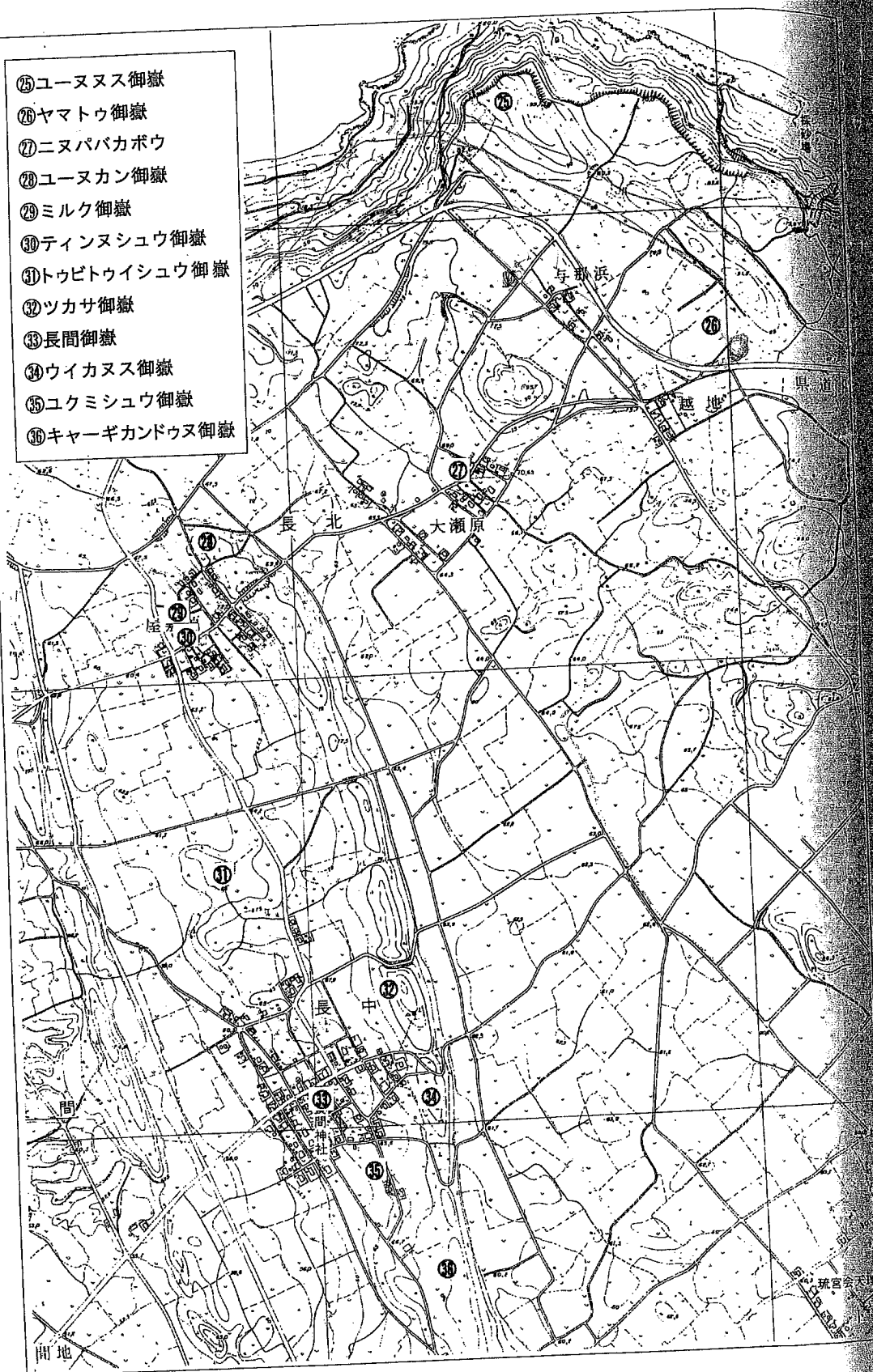
五、六月・粟ブーズ（豊年祭）、ユーマタミ

者 安谷屋ヨシ（城辺町字比嘉一三番地）

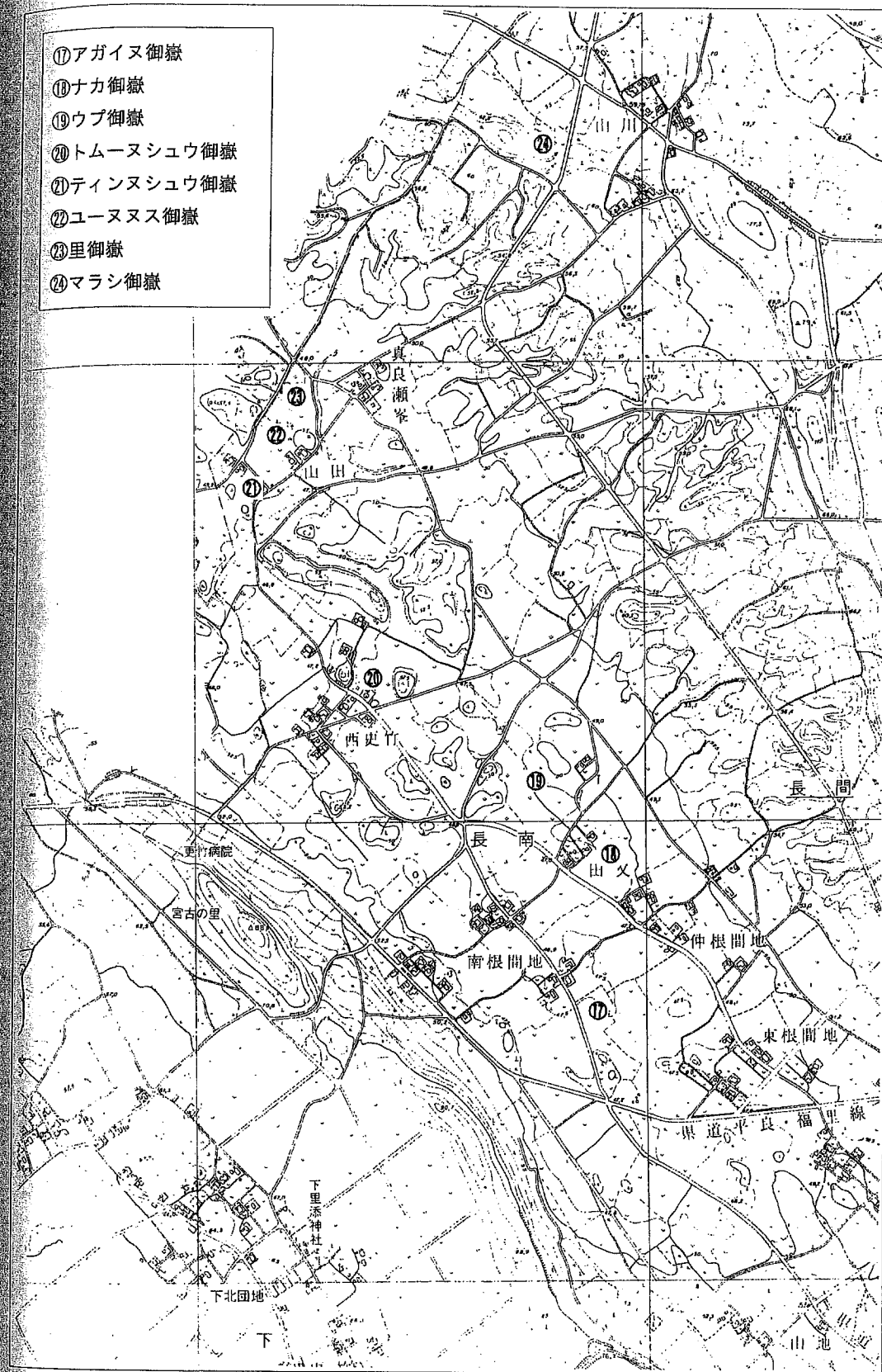
「砂辺和正」

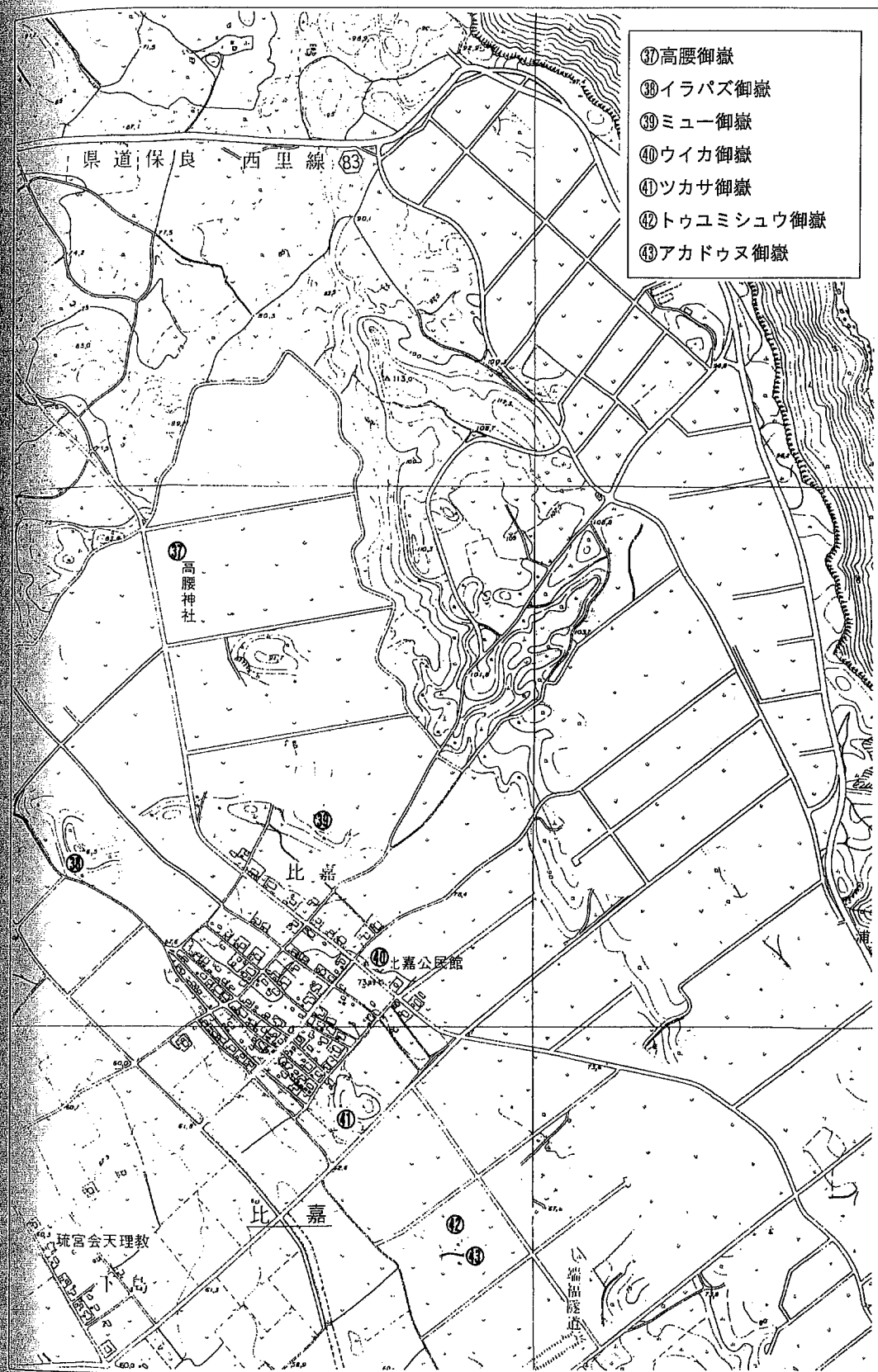


- ②⑤ ユーヌヌス御嶽
- ②⑥ ヤマトウ御嶽
- ②⑦ ニヌバカボウ
- ②⑧ ユーヌカン御嶽
- ②⑨ ミルク御嶽
- ③⑩ ティンヌシュウ御嶽
- ③⑪ トウビトウイシュウ御嶽
- ③⑫ ツカサ御嶽
- ③⑬ 長間御嶽
- ③⑭ ウイカヌス御嶽
- ③⑮ ユクミシュウ御嶽
- ③⑯ キャーギカンドウヌ御嶽



- ①⑦ アガイヌ御嶽
- ①⑧ ナカ御嶽
- ①⑨ ウプ御嶽
- ②⑩ トムーヌシュウ御嶽
- ②⑪ ティンヌシュウ御嶽
- ②⑫ ユーヌヌス御嶽
- ②⑬ 里御嶽
- ②⑭ マラシ御嶽





砂川学区の御嶽(解説)

砂川学区は、字友利、字砂川、字下里添の三方字から成り立っている。字友利と字砂川は、元島と呼ばれる旧集落と集落跡のある古い歴史を有する地域であり、字下里添は平良の下里村の添村として近年村立てされた地域である。そのためか、御嶽の呼称も、友利、砂川の二カ字ではムトウと呼び、下里添では御嶽と称している。

字友利の範囲にあるムトウは、海辺の友利元島に数カ所、本集落内とその周辺に十数カ所所在している。

古くから祭祀がおこなわれていると伝えられるヤマダチムトウ(山立御嶽)、イスカキムトウ(高津間御嶽)、ンニマムトウ(嶺間御嶽)、キイキヤムトウ(金志川城)は、航海安全の神として城辺四カ村の人々に崇拝されたと御嶽由来記に記されている。

字砂川の範囲にあるムトウは、砂川(うるか)元島といわれる旧集落跡の西北側の嶺上比屋山に集中して十数カ所あり、後方台地の本集落内とその周辺に十数カ所所在している。

上比屋山遺跡(一九五六年県指定史跡)内のマイヌヤムトウ(前ヌ屋御嶽)と、ウイピヤムトウ(上比屋御嶽)は、多くの伝説を有し、古くから航海安全を司る神として、城辺四カ村の人々に崇敬されたと御嶽由来記に記されている。

字下里添の御嶽は、村立ての際に、集落繁栄、子孫繁盛を祈願するために、各村の世果報の神、農耕神、学問の神等多くの神を

本集落毎に祀り、通称所としての性格を持つた村所として崇拝され、今日に至っているといわれている。

校区内三方字の御嶽の大半は、建物はなくただ、森の中の古木や御神木といわれる老木の根本、そのほか、わずかな石積みやブロック積みなどにイビを祀り、香炉を置いて周辺の広場で祭祀をおこなっているが、友利、砂川二カ字のクムイニガイ(籠り願イ)をする御嶽では、クムイヤー(籠り屋)といわれる十平方メートル程のコンクリートスラブ建ての小屋が建てられ、数名の願イ人(ツカサウマヤサス)達が寝泊まりできるようにになっている。

その中で字砂川の上比屋山遺跡内にあるウイピヤムトウの祭場、マイウイピヤー、クスウイピヤー、ウイウスの三棟は、一九八一年に県の有形民俗文化財に指定され、石積み茅葺きの昔ながらの姿が保たれて、ニガツグムイ、ナーパイ、ハチガツグムイ(シツマツリ)などの祭祀行事がムトウに属する人々によって執り行われている。

祭祀組織としては三方字とも、次の四つの種類に分類することができる。

- ① ムトウ(御嶽)の神を自己の守護神として祀っているサスを有するムトウ(御嶽)
- ② 集落行事の際、ツカサ、ニガイウマが祈願をし、集落祭祀の対象となるムトウ(御嶽)
- ③ ①と②両者の性格を持つムトウ(御嶽)

④サスを有さず、集落祭祀の対象ともならず、ただ里の神としての性格をそなえているムトウ（御嶽）

年間の主な祭祀は次の通りで、三カ字とも共通している。

- ①正月願イⅡパツコウウサギ・トスヌウキⅡ、②健康祈願Ⅱ各種のタスキニガイⅡ、③航海安全・豊漁祈願Ⅱサニツ・竜宮願イⅡ、④五穀豊穰・豊年祈願Ⅱプーイ・シツマツリ・ムスルン・十五夜願イ・ンナフカⅡ、⑤集落繁栄・魔除け・厄除けⅡスマフサラ・ナーパイ・ユウヌタミⅡ、⑥年の納め願イⅡトスヌバン・トスヌウサミ

〔宮里久男〕

ニヌパウマムトウ

所在地 城辺町字友利

立地・構造・由来

友利集落センターの西通りを北向きにすすむと、集落の端に当たる砂川玄英宅（字友利一九五番地）がある。その砂川家の屋敷の西方の一角に雑木が四、五本生えており、木の根元の狭い空間に大小十数個の石が無造作に置かれている。この自然石がイビとして祀られ祭祀が行なわれているニヌパウマムトウである。



友利集落の子の方角（ニヌバ）の守護を司る里の守護神ニヌパウマ（女神）を祀つてあるという。祭祀は集落の役員が中心になって行なっているようである。

祭 神 ニヌパウマ（女神）

主な祭祀 タスキニガイ 一月・六月・十二月

プーイニガイ 三月・四月・八月

話 者 友利ツネ（城辺町字友利一九二）

〔宮里久男〕

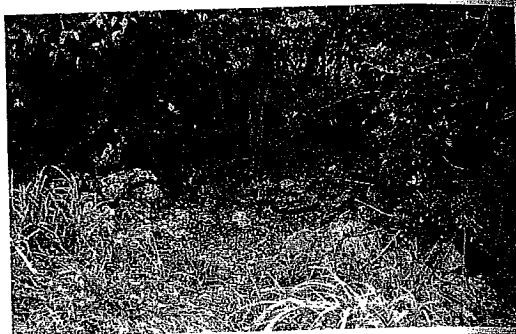
ヤマダチムトウ（山立御嶽）

所在地 城辺町字友利友利集落内

立地・構造・由来

友利集落センターの西の通りを北へ一〇〇メートル程すすんだ左手の畑の一角に雑木に囲まれた拝所がある。

建物はなく、自然石のイビが数個祀られている。このヤマダチムトウは、御嶽由来記には山立御嶽と記され、祭神は「おたはる」（女神）で、航海安全を司る神として城辺四カ村が崇拝したという。御嶽由来記によれば、昔、



友利村の上平屋に一人の男の子がいた。幼い頃に両親に死なれ、身寄りもなく住む家もなく、木の下岩の陰を宿とし、山の木を伐つてたきぎとして村人に売り、水汲みで手間賃を得たりして暮らしていた。正直者で親への敬慕の情を忘れず天国にいる両親への祈願を怠らなかつた。

ある日のこと、漁に出たところ、どこから漕ぎ出てきたとも知れぬ小舟に乗った美しい女が現れたかと思うと、女はいきなり「私の夫になつて下さい」と言った。男は驚いて、「私は幼い時分に親を亡くし、みなしごの身であるから夫婦になどなれません」と告げた。

ところが、女はあきらめずに言い寄つたため、男も折れて、親が住んでいた山立の古屋敷へ案内した。女は不思議な力の持ち主で一晩で家を建て、いつ作ったのか毎日ごちそうを並べた。おかげで二人とも

長生きした。この御嶽で暮らした女は、いつか大船に乗って南島へと旅立つて行った。

夫婦には女の子が居て、名を「おたはる」といった。おかげで子孫繁昌し、彼女の白髪頭となるまで長生きした。死んだ「おたはる」を山立に葬つたところ、死体が消え神となって現れたと言ひ伝えられていると記されている。

また、伝承によれば、昔、友利村の上平屋という所に、一人の男が幼少の頃から両親を失ない、家もなく、木の下や岩陰に寝泊まりして、隣村の手伝いをして暮らしていた。男は生れつき心のやさしい正直者であった。男がある日、浜へ漁に出かけて行ったところ、これまで見たこともない美しい女が小舟に乗って来て、「私は前世の縁であなただの妻になる」と頼みこんだので、両親が残してくれた旧屋敷のある山立という所に連れて行き一夜を明かした。

彼女は天女の変化であつたので、一夜のうちに立派な家ができ、また少量の米の入った袋を持っていたが、それが一生の間食べられ、夫婦とも長生きして子孫も繁昌した。天女の名前を「ウカマハル」といい、その死がいは山立に葬られたが、どこともなく消え失せたので、ここに拝所をつくり山立の神として祀つたと伝えられている。

祭 神 おたはる（女神）・伝承ではウカマハル

主な祭祀 ユーダミニガイ（二月、八月）、プーイニガイ（三月、四月、六月）、タスキニガイ（一月、六月・十二月）

話 者 友利盛義（城辺町字友利八三）

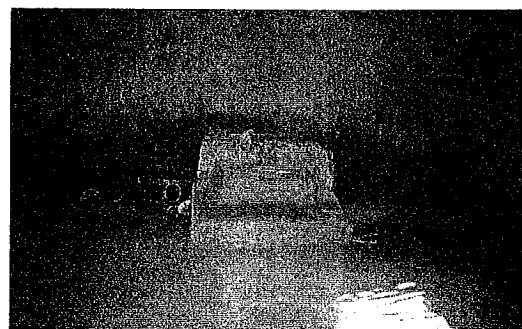
参考文献 『平良市史』第三巻資料編1（一九八一年）

〔宮里久男〕

アマリファームトウ

異 称 アマリファア御嶽
所在地 城辺町字友利友利集落内
立地・構造・由来

友利集落の北部で通称ウブンツ（大通り）といわれる古くからの主要道路沿いにミニニヤーと呼ばれる旧家砂川家がある。砂川家の西隣りに一〇平方メートル程の面積をもつコンクリートスラブ建ての拝所が、アマリファームトウである。南向きに建てられた拝所の南側が出入口になり、北の壁寄りにコンクリート造りの祭壇があり、イビが祀られ香炉がつくられている。東方にあるシニマムトウ（嶺間御嶽）の祭神、アマリファア（女神）の遙拝所として砂川家の先祖が建立したという。年中の祭祀は、親ムトウであるシニマムトウのニガイが終ってから、ニンジュ（ゆかりの人々）や、集落役員の手によっておこなわれることである。



祭 神 アマリファア（女神）
主な祭祀 タスキニガイ（一月、六月、十二月）
プーイニガイ（三月、四月、六月）
話 者 砂川義博（城辺町字友利二〇八）

〔宮里久男〕

ウイミヤガマムトウ

所在地 城辺町字友利友利集落内
立地・構造・由来

友利集落センターの西隣り、道路をへだてた畑地の一角に、ガジュマルの木や雑木がこんもり茂った小さな森がある。そのほぼ中央に、自然石のイビが数個祀られているのが、ウイミヤガマムトウである。

ここには、ブンミヤムトウの祭神ウイカヌスとウイミヤガマの夫婦神がトウマイガン（泊り神）として祀られているという。

伝承によれば、その昔、人頭税を納めるのに苦労をした村の婦女子が、ブンミヤの機織場で身をけずるような大変な苦しみの中で、上布を織り上げ、人頭税を完納した喜びと感謝の祭りを、このムトウで行なったと言ひ伝えられている。



祭 神 ウイカヌス（男神）・ウイミヤガマ（女神）の夫婦神
主な祭祀 タスキニガイ 一月・六月・十二月
プーイニガイ 三月・四月・八月
話 者 下地茂（城辺町字友利一の一）

〔宮里久男〕

ナカダチャムトウ

所在地 城辺町字友利友利集落内
立地・構造・由来

友利集落センターの裏通りを東の方向に二、三〇メートルすすむと住宅地の中に広さ一〇平方メートル程のコンクリートスラブ建の拝所がある。

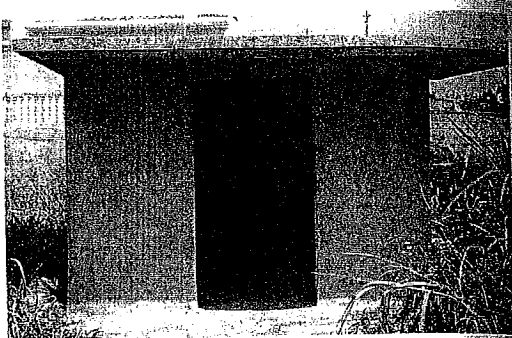
ここが数多い友利集落内のムトウの中でも八月シツウガンが最も盛大に行なわれるナカダチャムトウである。

南向きの出入口が一個所あり、奥の北壁寄りにコンクリート造りの祭壇があつて、自然石のイビが祀られ香炉が置かれている。

祭神 ミヤークワーズは女神で、友利元島遺跡内にあるウパーンムトウの祭神ウパーンシユウの妻にあたるといわれているが、なぜ夫婦別々に祀られているか由来については不明である。

祭 神 ミヤークワーズ（女神）
主な祭祀 シツウガン 八月、タスキニガイ 一月・六月・十二月
プーイニガイ 三月・四月
話 者 砂川武信（城辺町字友利三八四）

〔宮里久男〕



ブンミヤムトウ

所在地 城辺町字友利本字集落内
立地・構造・由来

友利集落のほぼ中央（県道二〇一号線沿い）に集落センターがある。その前庭広場は元村番所（ブンミヤ）跡であるといわれ、東北側には樹齢数百年と思われる福木の老木が聳えている。

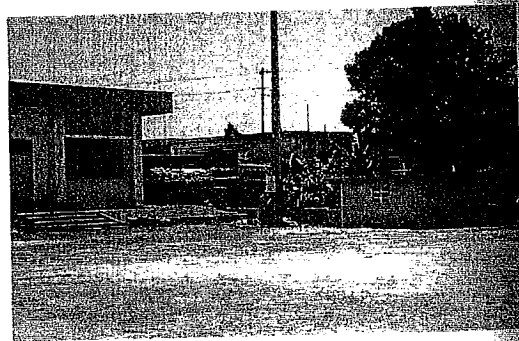
その福木の根元寄りに面積約二〇平方メートルの軒の低いコンクリートスラブ建ての拝所がある。ここが友利のブンミヤムトウである。出入口は、南向きの一カ所で奥の北壁寄りにコンクリート造りの祭壇があり、イビが祀られている。

友利集落内には数多くのムトウがあるが、年中の祭祀はブンミヤムトウでとりおこなわれた後に各ムトウではニンジュ（ゆかりの人々）や集落の役員等によっておこなわれるという。ブンミヤムトウの大きな祭事に一年越しにおこなわれる八月の豊年祈願祭がある。

祭 神 ウイカヌス（男神、夫）・ウイミヤガマ（女神、妻）
主な祭祀 二月籠り願イ、三・四月プーイ願イ、タスキ願イ
八月豊年祈願祭、八月・十月ンナフキヤ

話 者 下地茂（城辺町字友利一の一）

〔宮里久男〕



マヤムトウ

所在地 城辺町字友利友利集落内
立地・構造・由来

友利集落センターの西の通りを南へ二〇〇メートル程すすんだ右手の畑地にコンクリートスラブ建の平屋（約二〇平方メートル）の拝所がある。ここがマヤムトウで、友利集落内のムトウの中では、ニンジュ（ゆかりの人々）の多い拝所といわれ、年中の祭祀には地元をはじめ、隣りの砂川集落の人々も数多く参加するという。

建物は南向きに造られ、北壁に添って祭壇が設けられてイビが祀られている。二月、八月には、クムイニガイ（籠り願い）等の祭祀が行なわれている。

祭 神 マヤマド・ウツヌシウ（男神、夫）

ツカサガン・ウブヌヌス（女神、妻）

主な祭祀 タスキニガイ 一月・六月・十二月

プーイニガイ 三月・四月・八月

クムイニガイ 二月・八月

話 者 下地マズル（城辺町字友利二一）



〔宮里久男〕

イスカギムトウ（高津間御嶽）

所在地 城辺町字友利友利集落内
立地・構造・由来

友利集落センターの前の道路（県道二〇一号线）を友利元島向けに二〇〇メートル程進むと、左手にこんもり茂った森がある。その森の中に面積二〇平方メートル程のコンクリートスラブ建の拝所があり、建物の北壁寄りに祭壇が設けられてイビが祀られている。

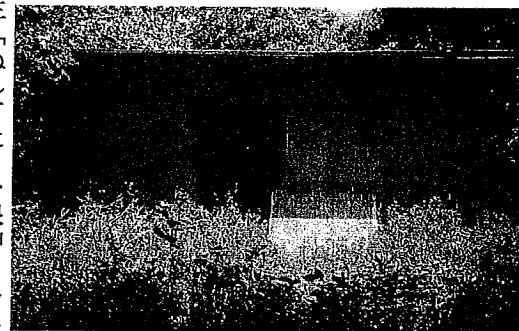
地元の人々は、「イスカギムトウ」と呼んでいるが、御嶽由来記には「高津間御嶽」として記録されている。記録によれば、祭神はぬしてたで航海安全の神として城辺四力村崇敬す。昔城の主「ぬしてた」を根神としたとの伝えありと記されている。伝承によると、イスカギムトウにはアサティダ（男神）、ウマティダ（女神）の夫婦がおり、その娘ウマニヤーズを砂川（うるか）のウイビヤに嫁にやることにしたが、せめて朝と晩の食事だけでも親子同時に食べるようにと、食事の時刻になると煙を焚きそれを合図に食事をしたといわれている。ウイビヤムトウの東側にも同じように合図のために煙を焚いたといわれる場所があるという。

祭 神 ティダガナスアサヌ主（夫）・ウマティダ（妻）

バカティダ（子）

主な祭祀 タスキニガイ（一・六・十二月）、クムイニガイ（二・八月）、プーイニガイ（三・四月）

話 者 下里栄作（城辺町字友利二二三）



〔宮里久男〕

タカハナムトウ

所在地 城辺町字友利
立地・構造・由来

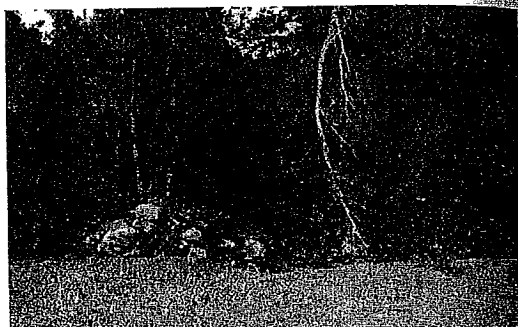
友利本集落の東南方に位置するタカハナムトウと、ンニナムトウに隣接する拝所で、畑の中のガジュマルの木に囲まれた範囲の狭い地域にある。

由来や祭神が不明だが、集落祈願の拝所に入っている。

祭 神 未詳

主な祭祀 プーイ願い、タスキ願い

話 者 友利一九二・友利ツネ



〔宮里久男〕

タカハナムトウ

所在地 城辺町字友利
立地・構造・由来

友利集落の東方のはずれで、友利集落遺跡に隣接した高台に所在する。

集落や海が見渡せる高台にあることから、タカパナの呼称がついたという。ガジュマルの老木の下に南向きに祭壇が設けられ、イビが祀られている。

里の守護神（寅の方）を祀った拝所といわれている。

西隣りには、友利集落出身の戦没者を祀った慰霊の碑が建立されている。

祭 神 タカパナのユ一の神

主な祭祀 タスキニガイ 一月・六月・十二月

プーイニガイ 三月・四月・八月

話 者 砂川武信（城辺町字友利三八四）



〔宮里久男〕

ニマムトウ（嶺間御嶽）

所在地 城辺町字友利
立地・構造・由来

友利集落の北寄りにウブンツ（大通り）といわれる通りがある。その通りを東向けに進み、集落のはずれを元島方面に二〇〇メートル程進んだ右手の原野に面積二〇平方メートル程のコンクリートスラブ建の拝所がみえる。この拝所を地元の人々はニマムトウと呼び、御嶽由来記には嶺間御嶽と記し祭神、あまれふう泊主（男女神）で航海安全の神として城辺四力村で崇敬すとある。由来記によれば、昔、友利村の後ろのあまれ山の麓に戸数わずかの村があった。或る夜、突然の津波が押し寄せて人も家も流されてしまった。ただ一人難を逃れた「大津かき」（うぶつかさ）は、山の上に小屋を建てて独りで暮らしていた。

その頃、船が難破して平安名崎の宮渡浜に流れ着いた大和人がいた。彼は人家を尋ね歩いてようやく「大津かき」にめぐり会い、夫婦となった。子や孫に恵まれ、「あま村」の村立てがなされたという。彼等夫婦の住んでいた所が嶺間山で、あま村はどの辺であったか定かでないといわれている。

また、伝承によれば、昔、友利村後方のアマリ山の麓に小さい村があったが、ある年の大津波で流されてしまった。



キヌギヤムトウ（金志川御嶽）

所在地 城辺町字友利元島集落内
立地・構造・由来

友利元島集落の北寄りで、友利本集落南東からの入口付近にあたる友利家の宅地内に、コンクリート造りの祠とコンクリートスラブ建の平屋の中にイビが祀られている。ここは、およそ五〇〇年前、平良の仲宗根豊見親に劣らない程の勢力を誇った金志川豊見親の屋敷跡だといわれている。

雍正旧記によれば、金志川城は、長さ一七間、横一六間、門は卯辰の方角へ向かう。破壊状態が少ないうめ石垣の根柢は残っている。城主は金志川豊見親、童名をなきたつと言った。正徳八（一五二三）年琉球王朝へ入貢の折、航路安穩の為に大般若経六百巻を頂戴して持ち帰り、子孫へ伝えたという。八重山島征討の時、仲宗根豊見親に従軍して忠義を立てた。ところが、その帰途、崎原かワらの告げ口で、多良間島で仲屋豊見親や兼盛らに討たれた。金志川豊見親は船神として、また航海安全の神として祀られているという。

また、宮古島記事仕次（一七四八年）によれば、嘉靖年間（一五二二〜一五五六年）の出来事といえます。宮古の忠臣仲宗根豊見親の長男仲屋金盛豊見親という人は、先年、八重山島の大浜赤蜂が謀叛した時、父の豊見親とともに従軍し、敵の大將を討ち取る大手柄をたてた。



アマリファアは、薪取りに一匹の大きな雄犬とアマリ山に行っていたため、難を逃れてアマリ山の嶺下に小さい家を建てて犬と住むようになった。

その頃、一人の大和人が、保良のミヤードウ（宮渡）の浜に流れ着き、人家のある所を尋ねていたが、犬の足跡のあるのを見つけ、犬が住んでいるのなら人間も住んでいる筈だと思い、その足跡をたどって行くと、アマリ山の嶺下で一人の女が住んでいるのに巡り合った。

大和人は、女に話によって大津波のあった事を知り、「お前の夫は居るか」と聞くと、女は、「わたしの夫は、座れば高く立てば低いという変わったものです」と答えたので、大和人はそれが犬であることを知り、刀で犬を切り殺した。大和人とアマリファアは夫婦になり、子孫も繁昌したという。

この大和人は、宮古で初めて農具を普及し、農業を広めたといわれ、大和神と称されているという。

祭神 ヤマトガム・スマヌス（大和神島の主）・カンカ主（男神）・アマリファア（女神）

主な祭祀 クムイニガイ（二月、八月）、プーイニガイ（三月、四月、六月）、タスキニガイ（二月、六月、十二月）

話者 砂川義博（城辺町字友利二〇八）
参考文献 『平良市史』第三巻資料編Ⅰ（一九八一年）

〔宮里久男〕

さらに、与那国島の鬼虎といわれる大剛の者が琉球王朝に従った。たまたま、父とともに従軍し、鬼虎を討ち取り手柄を立てた。二度にわたる金盛豊見親の忠勤は世の中に広まった。

仲宗根の豊見親の長男金盛、二男祭金、三男知利真良、外様として金志川の金盛（この人は与那国島から帰島の時、多良間島で病死したという。）金盛の弟那喜太知、後に金志川豊見親と称する。堀川親登賀、上比屋首里大屋子、大川盛もたら、多良間島むたばるの保命。これらは一騎当千の強者である。中でも金志川兄弟は智勇兼備えた人物で、仲宗根の豊見親のために随分と働いた。那喜太知は仲宗根豊見親の直系の子ではないので金志川豊見親と称し、城辺の首長となりました。仲宗根豊見親の死後、金志川豊見親の威勢をねたんだ仲屋勢頭という佞人は、中屋金盛豊見親に、「金志川豊見親は自分の威勢をもつてあなたをないがしろにするばかりか、後日、乱を起こそうと謀んでおります。そうならないうちに金志川豊見親を排除しないとゆゆしき大事となりますよ。」と誠しやかに言いました。非常に驚いた金盛豊見親は、「金志川は智勇兼備えた武者である。どのようににたぶらかせばいいのか」と言うと、仲屋勢頭は、「野原の後にある溝こしという所は後方險しく、前方は平坦になっています。ここで宴を設け金志川豊見親を招待すれば必ずやって来ます。その時、兵を待ちぶせさせて討ち取ることです。もし、金志川に異心がなければ遅れ来るでしょう。その時は巧言をもつてもてなし、後日あらためて企みを考えることです。」と申し上げた。金盛豊見親も金志川豊見親が民に帰服するのを見るにつけ、嫉妬の心を持っていたので仲屋勢頭の企みを受入れた。

仲屋勢頭は、また、金志川豊見親の下に参り、「中屋の金盛豊見親

は最近あなたのことを疑っております。それで、野原で宴を設けあなたを招待してその事実を確かめたいと考えているようです。その時は迷わずに参り、異心なきことを金盛豊見親に申し上げた方がいいでしょう。もし断わったりすれば、あなたへの疑いは深まるばかりでしょう。」といった。金志川豊見親は、「何の疑わしいことがあるというのだ。私は仲宗根の豊見親から重なる恩義を受けているのです。不肖の身ではあるが豊見親の名を許されて骨肉の間柄とさえ恩義に思っているのですよ。雑魚どものさん言だろうが、私に異心のない事を申し上げれば疑いは晴れるであろう。」といった。

仲屋勢頭という人は、甘言をもって人をたぶらかすので、現在でも二枚舌の人を仲屋勢頭とさげすんでののしっている。ある日、金志川豊見親の下に使者が訪れ、「中屋の金盛豊見親は、のどかな春の日に誘われて野原のあたりで、のんびりとくつろいでおります。眺めもすばらしいので、兄弟の交わりを深めようと思ひ宴席を設けてあります。それでお迎えに参りました。」と告げた。金志川豊見親はかねてより聞き及んでいたので、使者とともに馬を走らせた。

中屋の金盛豊見親がいつもより丁寧にもてなしたので、金志川豊見親は疑心は晴れたものと思ひ安心して酔ってしまった。宴席もたけなわになった頃、金盛豊見親が盃を投げ捨て、「者ども出でよ」と叫ぶと、隠れていた兵が一斉に現れた。びっくりした金志川豊見親は、「私に異心がないことは太陽が照る如しである。あやまって後悔するでないぞ」と言ったが聞き入れられず、兵どもは剣を抜いて討ちかかった。金志川豊見親はやむを得ず兵どもに立ち向かったが、自分に異心のないことを了解してもらうために、後の断崖から身を投じてしまった。

ツブガームトウ

所在地 城辺町字友利元島集落内
立地・構造・由来

友利元島集落の南方で、イムギヤール公園に隣接した坪所がツブガームトウである。

御神木のガジュマルの老木を囲むようにして石垣が半円型に積まれ、その中に祭壇が設けられてイビが祀られている。ツブガームトウは、豊作祈願のンナフキヤール祭りが、友利、砂川両集落の各ムトウのツカサウマによって行なわれる所として、地域の人々に知られている。

ンナフキヤールとは、丙午の日から乙卯の日までの十日の期間のことです。八月と十月の年二回行なわれる豊作祈願である。

八月のンナフキヤール祭りはンカインナフキヤール（迎えのンナフキヤール）、十月のンナフキヤール祭りはウフンナフキヤール（送りのンナフキヤール）といわれている。

祭 神 マツダヌス、イワヌカム（女神）

主な祭祀 タスキニガイ 一月・六月・十二月

プーイニガイ 三月・四月

ンナフキヤールニガイ 八月・十月

話 者 下地マヅル（城辺町字友利一）

〔宮里久男〕



金志川豊見親は人を思う気持ちにあふれ、赤子のように民をいつくしんだので、むかしの目黒盛豊見親の生まれ変わりだといって人々は父母のように慕っていた。ところが、ざん言する者のためにあえなく滅ぼされた事を惜しみ悲しむ者はあつとを絶たず、豊見親の居所をあがめ尊んで、今に金志川城といつて多くの人々が心から崇敬している、と記されている。

祭 神 豊見親金盛（兄神）・豊見親那喜多津（弟神）・ウブパー（母神）

主な祭祀 タスキニガイ 一月・六月・十二月

プーイニガイ 三月・四月・八月

話 者 下里栄作（城辺町字友利二二三）

〔宮里久男〕

ウパーンシユウ

所在地 城辺町字友利元島遺跡内
立地・構造・由来

友利元島遺跡（現友利元島集落の南西側）、イムギヤール公園の西方に所在する。入口付近に植えられた三本のガジュマルの枝が、高さ二・五メートル程で四方に伸び、自然に天井をつくって直射日光をさえぎり、建物のような感じを与えている。およそ四〇平方メートルの敷地の北西側の奥まった所に祭壇があり、イビが祀られ香炉が置かれている。ここには、ウパーンシユウ（男神）が祀られ、妻のミヤークワーズは、友利本集落内にあるナカダチャームトウに祀られているという。

祭 神 ウパーンシユウ（男神）

主な祭祀 タスキニガイ 一月・六月・十二月

プーイニガイ 三月・四月

シツニガイ 八月

話 者 砂川武信（城辺町字友利三八四）

〔宮里久男〕



チンチフムトゥ

所在地 城辺町字友利
立地・構造・由来

イムギヤ公園の西方にある友利あま井（県指定有形民俗文化財）の東方、雑木の生い茂った森の中に所在する。森の中の岩を背にした空地に、自然石のイビが数個祀られている。

ニンジュ（ゆかりの人々）は、友利、砂川両集落にまたがっているようである。

祭神を、チンチフ・ウチャウヌスと
いうことから、友利、砂川両集落の元島時代に集落の役人（会計の仕事をした人）を、祀ってあるといわれている。

祭 神 チンチフ・ウチャウヌス（男神）

主な祭祀 タスキニガイ 一月・六月・十二月

プーイニガイ 三月・四月

シツニガイ 八月

話 者 宮島フミ（城辺町字砂川三六）



〔宮里久男〕

友利あま井

所在地 城辺町字友利
立地・構造・由来

字砂川と字友利の境界にあつて、友利元島遺跡の西側に隣接する自然洞窟の井泉である。

近年まで、友利、砂川集落の人々に生活用水として利用されていたが、上水道の普及によつて現在は利用されなくなった。

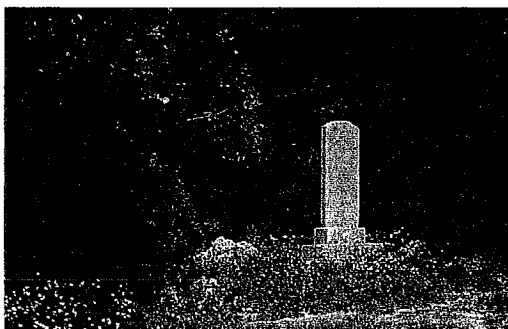
昭和五十六年三月、有形民俗文化財として県の指定を受け、保護されている。

十数年前までは、近隣の友利、砂川、新里集落の人々によつて祭祀が行なわれていたようであるが、現在は友利、砂川集落の役員によつて祭祀が行なわれている。

祭 神 あま井水の主

主な祭祀 シツニガイ 八月

話 者 友利ツネ（城辺町字友利一九二）



〔宮里久男〕

ピイダヌヤムトゥ

所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

上比屋山遺跡の南東方に砂川（ウルカ）元島遺跡がある。その遺跡の南より海岸辺りに所在するのがピイダヌヤムトゥである。

雑木の茂る森の北側寄りに自然の洞穴があつて湧水がありピイダヌヤムトゥと呼ばれた。十七世紀までの元島時代の人々にとつて貴重な飲料用水、生活用水であつたといわれている。近年まで湧水はあつたといわれる。

そのピイダヌヤムトゥの水の主を祀つたのがピイダヌヤムトゥである。建物はなく、古木の根っこに切り石の祭壇があり大きめ祀られている。

砂川村の境界を示すといわれる切り石のような

メートル前後）が置かれている。

ヌヌス（水の主）

プーイ・シツニガイ、五月粟プーイ

砂川一五二）

〔宮里久男〕



ウイダティムトゥ

所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

上比屋山遺跡内のウイピヤムトゥウ祭場（県指定民俗文化財）から、五〇メートル程南側に位置するコンクリートスラブ建ての拝所が、ウイダティ（上立）ムトゥである。

面積二〇平方メートル程の建物は、南向きに出入口が一個所あり、奥の北側の壁寄りにブロック造りの祭壇があつて、イビが祀られている。

マイウイピヤの祭神ウマニヤーズとクスウイピヤの祭神サーネブズの二男を祀つてあるという。

このウイダティムトゥは、上比屋山遺跡内にある数多くのムトゥの中でニンジュ（ゆかりの人）が多いといわれる。

祭 神 ツカサガン（男神）

主な祭祀 二・八月クムイ、三・四月プーイ、六月タスキ、ユードミ

ニガイ、シツニガイ（九・十月）

話 者 松元メガ（城辺町字砂川二二二）



〔宮里久男〕

マイウイビヤムトウ

異 称 ウマニアーズムトウ
所在地 城辺町字砂川（前原）
立地・構造・由来

砂川（うるか）集落本字の南方に位置する上比屋山遺跡内で南よりにある祭場である。



上比屋山一帯は、一九五六年（昭和三一）に上比屋山遺跡として琉球政府の指定を受け、史跡として保護されている。この一帯には数多くのムトウがあるが、その中で、マイウイビヤ、クスウイビヤ、ウイウスの三棟が、ウイビヤムトウの祭場として、一九八一年（昭和五六）に県指定有形民俗文化財になっている。

家屋の構造は、側壁が琉球石灰岩の石積みで、高さ二〇〇〜二三〇センチメートル程度の軒の低い造りになり、二本の中柱で昔ながらの茅葺きの屋根を支えている。ほぼ南向きで出入口は二箇所あり、内部面積は三〇平方メートル前後である。家屋内部には北側の壁にそってイビを祀った石組みの祭壇があり香炉が置かれている。

このムトウで行われる二月グムイ（籠り）、ナーパイ、八月籠り（節祭り）などの主な行事には、ムトウに属する人々が数日間籠り、籠り家の前庭における舟漕ぎ儀礼、ニリーやビヤシーを歌う儀礼がある。『雍正旧記』（一七二七年）によれば、昔、天てくこ・ぶなざらという夫婦が上平屋の地に住んでいた。

クスウイビヤムトウ

異 称 サーネブズムトウ
所在地 城辺町字砂川（前原）
立地・構造・由来

砂川（うるか）集落本字南方に位置する上比屋山遺跡内でウイビヤムトウ祭場（一九八一年県指定有形民俗文化財）の三棟のうちの中央がクスウイビヤムトウである。家屋の構造は、隣接するマイウイビヤムトウやウイウスムトウと同じく琉球石灰岩の石積み茅葺きで、内部の祭壇も同様な造りになっている。



やがて、もどつて来た妻は、そのことに気が付いて、「あなたは、鍋を開けて見たのですね。もう、一緒に暮らすわけにはいきません」と言つて、「津波が来ないように縄を張りなさい。それから、女はダイフを持ち、男は舟を漕ぐまねをしなさい。そうすれば津波は起きません」と津波除けの方法を教えて、天に昇っていきました。それから、津波除けの「ナーパイ」がはじまった。と、伝えられています。

祭 神 ウマニヤーズ（女神）

主な祭祀 二月グムイ、三月ナーパイ、三・四月プーイ

八月グムイ（シツマツリ）、十二月トウスヌウサミ

話 者 島田初枝（城辺町字砂川三六）砂川マツカマ（城辺町字砂川一五二）

〔宮里久男〕

男の子が一人いて、名を「さあね大ち」といった。その子が七歳の頃、他村へ用足しに行っている間に津波が起き、村中の人も家も残らず押し流されてしまった。「さあね」が戻ってみると、村はすっかりなくなり、父母の行方も知れず途方に暮れていた。

身寄りもなく泣きながら歩きまわっていた姿をあわれに思った喜佐真按司は、彼を引き取って養育した。さあねが一五、六歳になった頃、みなこさの浜へ出ていると、沖から小舟に乗った美しい女が漕ぎ寄せて来たかと思うと、「私はむまの按司というもので、あなたの妻になるために竜宮の神様から使わされて来た。」と告げた。さあね大いに驚き、「あなたのような美しい人と賤しい身分の私とでは夫婦としてつりあいません」と涙に手をついてことわった。しかし、女は、「私は竜宮の神の命を受けて来ているのだから遠慮は無用ですよ、さあ、あなたの両親が住んでいた所へ案内して下さい。」と重ねて言うので、さあねは仕方なく上平屋山へと連れて行つた。もはや村の跡方もなくなって荒れ果てた地に家を建て、夫婦の生活を始めた。男七人女七人の子宝に恵まれた。子供たちが成人した頃妻の「むまの按司」が言った。「私はあなたを助けるべく夫婦として一緒に暮らして来ましたが、子供たちも大きくなりましたので竜宮へ帰ります。この世で縁を結んだお礼に津波除けの法を授けます。三月初酉の日には毎年女たちはたいくを浜に差し、男たちは船漕ぎのまねをするようになったと記している。また地元の古老の話によると、昔、津波が起こり、村々が押し流されてしまいました。それを見た天の神さまは、ひとりの娘を地

サーネブズと両親天テクコ、ボナサラを祀る。サーネブズが成人になると、龍宮よりウマニヤーズがつかわれ、二人は夫婦になった。

ウマニヤーズが鍋に水を入れ煮炊きをするだけで御馳走ができ、二人は働かず何に何不自由なく暮らしていた。サーネブズは、煮炊きを見てはいけなと禁じられていたが、その約束を破ったために二人は離別し、別々の家で暮らすようになったと伝えられている。

祭 神 天テクコ（男神）・ボナサラ（女神）・サーネブズ（男神）

主な祭祀 二月グムイ、三・四月プーイ、六月タスキ、八月グムイ

（シツ）、九・十月シナフキヤ、十二月トウスヌウサミ

話 者 島田初枝（城辺町字砂川三六）

〔宮里久男〕

ウイウスムトウ

所在地 城辺町字砂川（前原）
立地・構造・由来

砂川（うるか）集落本字南方の上比屋山遺跡（県指定史跡）内にあるウイビヤームトウの祭場（県指定有形民俗文化財）の三棟のうち北方に位置する。側壁が琉球石灰岩の石積みで中柱が一本の茅葺きの建物である。出入口は南向きの一個所で奥の壁側に祭壇があり自然石のイビが祀られ香炉が置かれている。このムトウには、クスウイピヤの祭神サネブズと、マイウイビヤの祭神ウマニヤーズの長男ウイウス（カニドゥヌとも称する）が祀られている。カニドゥヌとは一般的に宮古全域に見られる農耕神で、鉄器の伝来をもたらした農耕に飛躍的發展をもたらしたとして人々から崇められている。ウマニヤーズは、穀物の種子を宮古に始めてもたらした神として知られ、その子カニドゥヌは農耕に励み穀物の普及に努めたといわれる。ナーバイ祭りではカニドゥヌがニリーとして歌われている。

祭 神 ウイウス・カニドゥヌ（男神）

主な祭祀 二月グムイ、三・四月プーイ、八月グムイ（シツマツリ）、七・九月ンナフキヤ、十二月トウスヌウサミ
話 者 砂川寛章（城辺町字砂川六七二）



〔宮里久男〕

フファディラムトウ

所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

県指定史跡上比屋山遺跡内で最も高台にあるウイウスムトウの西隣りに所在する。

拝所の建物はなく、古木の根っこに手頃の自然石を積み上げた祭壇があって、数個の石のイビが祀られている。香炉も石造りである。

ムトウデラといわれるムトウは、同遺跡内でフファディラから三、四〇メートル東方にあるが、ムトウニンジュウによる祭祀は現在行われていない。

フファディラの祭祀で異色なのがパツカシヨウガツのニガイである。砂川集落のムトウニガイではここだけであるが、由来は不明である。

砂川家（イツナムガマ）の一族によって現在も祭祀が行われている。

祭 神 テインテイフチヨウヌヌス（男神）

主な祭祀 一月パツカシヨウガツニガイ、六月タスキニガイ、八月シツニガイ
話 者 砂川エミ子（城辺町字砂川一三五）

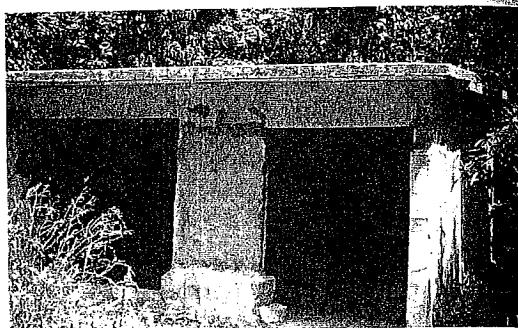


〔宮里久男〕

マイキサマムトウ

所在地 城辺町字砂川（前原）
立地・構造・由来

県指定史跡である上比屋山遺跡（北方（集落側））より入ると、史跡標示板の手前一〇メートルの所に右手に折れる自然道がある。その道を三〇メートル程進むと、樹木の中にコンクリートスラブ建の平屋（約一五平方メートル）がある。ここがマイキサマムトウである。裏手（北側）には同じような規模のクスキサマムトウがある。拝所の中には奥の壁寄りに祭壇が設けられ自然石のイビが数個祀られている。



この一帯は、キサマアズの屋敷跡といわれ、マイキサマムトウにはアズの子パツマル（初丸）とウイビヤから嫁いだといわれるブナザラの夫婦神が祀られているという。

祭 神 パツマル（男神）・ブナザラ（女神）

主な祭祀 二月グムイ、三月プーイ、四月プーイ、六月タスキ、八月グムイ・九月スバウガン・十二月トウスヌウサミ
話 者 砂川清一（城辺町字砂川二五）

〔宮里久男〕

クスキサマムトウ

所在地 城辺町字砂川（前原）
立地・構造・由来

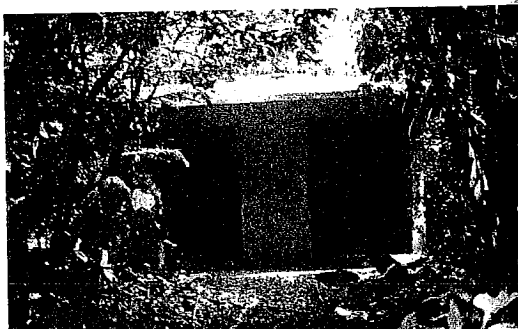
県指定史跡である上比屋山遺跡（北方（集落側））より入ると、史跡標示板の手前一〇メートルの所に右手に折れる自然道がある。

その道を三〇メートル程進むと、樹木の中にコンクリートスラブ建の平屋（約一五平方メートル）が二軒並んでいる。その中の北側の拝所がクスキサマムトウである。拝所の中には奥の壁寄りに祭壇が設けられ、自然石のイビが数個祀られている。

この一帯は、キサマアズの屋敷跡といわれ、クスキサマムトウにはマイヌヤから婿養子に來たといわれるキサマアズとアズツカサ神が祀られているという。

祭 神 キサマアズ（男神）・ツカサ神（女神）

主な祭祀 二月グムイ、三月プーイ、四月プーイ、六月タスキ、八月グムイ・九月スバウガン・十二月トウスヌウサミ
話 者 砂川徳三郎（城辺町字砂川二三九）



〔宮里久男〕

マイヌヤームトゥウ(前之屋御嶽)

所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

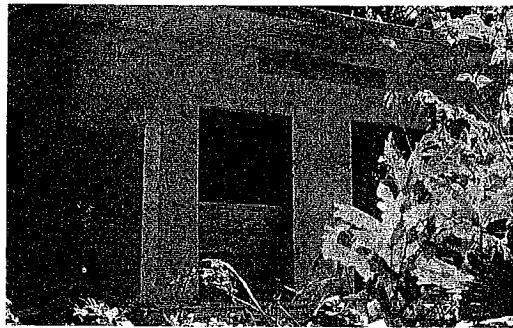
砂川(うるか)集落本字南方の上比屋山遺跡北入口の左手に、古木に囲まれた屋敷跡らしい入口の階段石、柱の土台石、囲いの石積みなどの跡が残った拝所がある。ここが砂川大殿(うるかうぶとうぬ)の屋敷跡であるといわれるマイヌヤームトゥウである。

一九五六年に、この一帯が上比屋山遺跡として琉球政府より史跡の指定を受けた当時は、昔ながらの石積み茅葺きのムトゥであったが、いつか現在のコンクリートスラブ建てになっている。南向きに建てられて出入口は二カ所あり、奥の壁に添うて祭壇がありイビが祀られている。雍正旧記によれば、昔、砂川村の主で砂川大とのという人が、砂川船を初めて造ったので、航海安全を祈る神として中古の頃まで祭られていたとある。

祭 神 ウルカウプトゥヌ・バカドゥヌ(男神)・ウプアム(女神)

主な祭祀 二月グムイ、三・四月プーイ、六月タスキ、八月シツウガン、九・十月シナフキヤ、十二月トゥスヌウサミ

話 者 砂川盛太郎(城辺町字砂川七〇)



〔官里久男〕

カムマザームトゥウ

異 称 砂川神社
所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

砂川集落本字を通る国道三九〇号線と県道二〇一号線の交差点を友利集落方面に一〇〇メートル程進み、右手に曲がって三〇メートル程行くと、近代的な鉄筋コンクリート造りの鳥居、拝殿、神殿、手洗所、それに玉石と古いトラパーチンの石垣が見えてくる。

境内には村立ての時に植えられたと思われるイスノキとフクギの老木が、力強く根を張り枝を茂らせている。この聖域は、古くはカムマザームトゥウと呼ばれ、ブンミヤームトゥウ(砂川公民館)と共に、砂川(うるか)集落の拝所として集落民の心の拠り所となっている。

時代の変遷に伴い、一九一九(大正八)年に砂川神社に改名され、一九三九(昭和一四)年に茅葺きの社屋が、郡内の多くの篤志家、集落民の寄付、青年男女の労力奉仕によって、神社風に木造瓦葺きの社殿に改築建立された。年月は立ち、台湾産の檜材で造られた鳥居が、一九五五(昭和三〇)年に鉄筋コンクリート造りになり、拝殿と神殿も一九六七(昭和四二)年に現在の鉄筋コンクリート造りに改築された。一九八八(昭和六三)年に、神社整備事業が計画され、鳥居の改築、拝殿・神殿の改装、手洗所改築、境内の整地、芝張り等がなされ



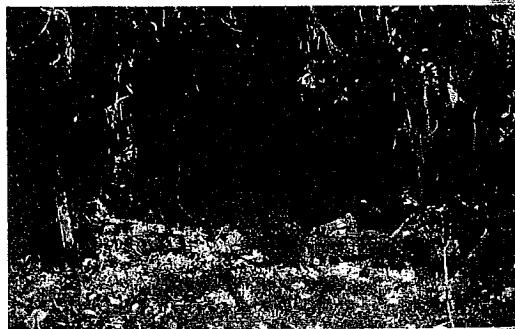
ウヤヌリカムトゥウ

異 称 親の塚御嶽
所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

砂川集落(本字)の南方に位置する宮古製糖株式会社城辺工場の北側道路沿いに、ガジュマルの老木に囲まれたミヤーカーらしい跡がある。

約一メートル×七〇センチメートル厚さ三〇センチメートル程の石灰岩の切石が数個乱雑に置かれている。ガジュマルの根っこにある切石がイビになり香炉はない。

古老の話によれば、昔、二人の豊見親が権力争いで、石積みを競い合ったが、ここに石積みをした豊見親は負けてしまったとのことである。



祭 神 スマヌヌスザラドゥヌ(島主座良殿)(男神)、アウガマ(阿武娥麻)、クイガマ(恋娥麻)(女神)
主な祭祀 六月タスキニガイ、八月シツウガン(豊年祈願祭)
話 者 砂川マツカマ(城辺町字砂川一五二)

〔官里久男〕

祭 神 テシヌマツウプシユウ(天の松大主)(男神)
主な祭祀 三・四月プーイ、六月タスキ、十二月トゥスヌウサミ
話 者 砂川カナ(城辺町字砂川一五五の二)

〔官里久男〕

ブンミヤームトウ

所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

砂川集落（本字）の西方に砂川公民館がある。その公民館の建物の中でホール北西の角に棚が作られイビが祀られている。ここがブンミヤームトウである。人頭税制の時代は、ここが村の婦女子のブーを紡ぎ、布を織る作業の場であり、粟や上布等の上納の場でもあったという。

ブンミヤームからシーニンヤーム（青年会場）、公民館と名称の変化する中でその時代を反映して、集落民の寄りの場合、教育文化・経済生活を支える中心施設となり併せて祭祀の大元になってきた。

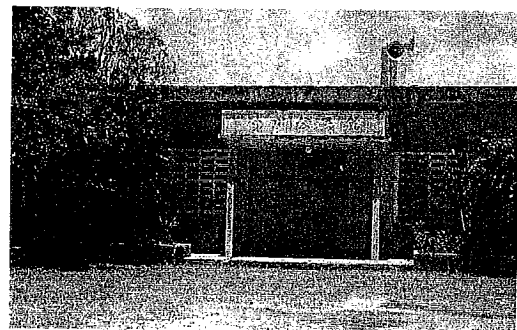
二月グムイニガイや、六月タスキニガイには、このムトウで集落役員やニガイイスヤによって作られた供物が、集落内の主なムトウに供えられて、集落繁栄・家内安全・健康・豊作を祈願する。

祭 神 ウイカヌス（主）・チヨウヌヌス（主）（男神）

主な祭祀 二月クムイニガイ、三・四・六月プーイニガイ、タスキニガイ、八月シツウガン、ユーダミニガイ・パマウガン、十二月トスヌウサミ

話 者 砂川マツカマ（城辺町字砂川一五二）

〔宮里久男〕



ミヤードウムトウ

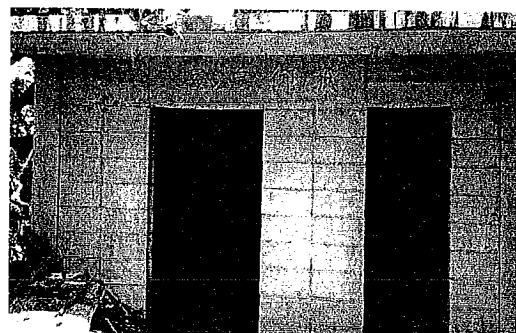
所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

砂川集落（本字）の東北のはずれで、国道三九〇号線を福里方面に向かった左手に小さな森がある。その森の中にデイゴの古木数本と、御神体といわれる岩があり、拝所は、その岩をブロックの壁で包みこんだ形のコンクリートスラブ建てである。出入口は南向きに二カ所あり、中には北壁添の御神体の岩の西側に、コンクリート造りの祭壇と香炉が設けられている。

城辺町字砂川二二一番地の池村好雄氏著書『うるか古今記』によれば「一三世紀の頃、保良平安名宮戸邑に、宮戸太ウノパナイスカニ、ウマ天太、バカボーという兄弟が住んでいた。後年、ウマ天太とバカボーは、一族数名を率いて砂川（うるか）邑に移り住み子孫繁栄した。これが高真座一族の始祖である。バカボー（若坊）は、ウマ天太の後を継いで按司となった。後裔によってウマ天太は西（イズ）高真座にウマ天太オパツ神として、バカボーはバカ按司トザラ神として後（シバラ）高真座に祀られた。

保良宮戸を始祖とする高真座一族は、近年まで保良宮戸に行つて祭祀をおこなっていたので、その苦勞は大変なものであった。

ある年のウガンの日、一族の帰りの道中、羽の鳥が道案内をするか



ユクイムトウ

所在地 城辺町字砂川
立地・構造・由来

砂川集落（本字）の西端で、県道二〇一号線を平良市方面に向かう右手の方に雑木の繁るこんもりした森がある。その森の中に周囲四、五メートルの空地があり、南西側に小さな石のイビが祀られている。

このユクイムトウは、砂川集落の子の方角（北）の守護神の宿る社といわれて、人々の信仰を集め砂川集落の種々の祭祀行事は、このムトウでも同じようにおこなわれている。建物がないために雨期の二月グムイニガイには、仮りの幕舎の社がつくられる。

農用地整備事業のために敷地がずいぶん狭くなっているが、集落の人々は大事に守り続けている。

祭 神 ビギタラユヌヌス（農業神）（男神）

主な祭祀 二月グムイ、三・四月プーイ、六月タスキ、八月シツウガン、九・十月ンナフキヤーム、十二月トスヌウサミ

話 者 砂川エミ子（城辺町字砂川一三五）

〔宮里久男〕



のように上空に舞い、砂川（うるか）邑の近くの森の大岩に止まる。たそして一族の行手をささげるかのように、大岩の上空を旋回し大岩に止まること数回に及んだ。

一族の者達は、「これはアサ天太をウマ天太、バカボーの近くに祀るようにとの神のお告げである。」と解し、その森を中泊（ナカドウーイ）にして、保良宮戸のアサヌ主天太ナイスカニを祀ったという。

また、城辺町字砂川一七番地の松村清章の話によると、「昔、大津波が砂川（うるか）元島をおそったとき、難をのがれた高真座（タカマザ）の一族と仲真座（ナカマザ）の一族が集まって、どこに島立てをするか話し合っていた。そのとき、鳥が人々の集まっている上空を、ガアーガアー鳴きながら、今のミヤードウムトウの木に止まったり、とび立ったりのくり返しをしていたので、人々は、これは神のお告げだと付近に島立てをし、鳥が止まっていた所に御嶽をつくり、村の守り神として拝むようになった。」との伝承もある。

祭 神 アサ天太ウノパナイスカニ（男神）

主な祭祀 二月グムイ、三月プーズ、四月プーズ、六月タスキ、八月シツマツリ、十二月トスヌウサミ

祭祀の日は寅（トラ）の日

話 者 砂川マツ（城辺町字砂川一六七）

〔宮里久男〕

パイヌサト御嶽

異 称 フヒヤーマ御嶽
所在地 城辺町字砂川最寄
立地・構造・由来

砂川小学校前の県道(二〇一号线)から南側に位置する集落がフヒヤーマと呼ばれ、フヒヤーマ(来間島)から来た人々によって村立てがなされたのでその名がついたといわれている。

そのフヒヤーマ集落の西方に、パルガー(飲料用水溜池)の跡らしきものがあり、それに隣接して建立されているのがパイヌサト御嶽である。南北に通ずる農道から西側に出入口があり、小面積の森の中に西南の方角に向けたコンクリート造りの祭壇があつてブロック造りのイビが祀られている。建物はなく、祭壇の前の五メートル四方の空地が拝所である。水の主の祭壇は場所がちがいに北向きに設けられている。守護神のピギタラユヌヌス・ミズヌヌスの外に多くの仲取りの神が祀られ遙拝所となっている。

祭 神 ピギタラユヌヌス・ミズヌヌス

主な祭祀 正月ウガン、プーイ(三・四月)、タスキ(六月)、シツニガイ(八月)、ンナフキヤー(九・十月)、トウスヌウサミ(十二月)

話 者 狩俣メガ(城辺町字砂川六四一)



〔宮里久男〕

ニスヌサト御嶽

異 称 サーダヤー御嶽
所在地 城辺町字砂川最寄
立地・構造・由来

砂川小学校の北西の方に広がる集落がサーダヤーと呼ばれ、伊良部島の佐和田の人々が来て村立てをしたといわれている。

その集落の東方、砂川小学校の裏手にあるこんもり茂った森の中に建立されているのがニスヌサト御嶽である。

南向きの参道を一〇メートル前後進むと、六、七メートル四方の拝所につきあたる。祭壇は南向きにコンクリートで造られ、中央には屋根付きのイビが祀られている。外に六個程のイビが祀られており、拝所の建物は無い。守護神のピギタラユヌヌス・ミズヌヌスの外に多くの仲取りの神が祀られ遙拝所になっている。近くにパルガー(飲料用水溜池)もあつたが今は見当たらないとのことである。

祭 神 ピギタラユヌヌス・ミズヌヌス

主な祭祀 正月ウガン、プーイ(三・四月)、タスキ(六月)、シツニガイ(八月)、ンナフキヤー(九・十月)、トウスヌウサミ(十二月)

話 者 川満カマド(城辺町字砂川六二六一)



〔宮里久男〕

アガイヌナイヌカニ御嶽(東成金)

所在地 城辺町字下里添北区東与那原
集落内

立地・構造・由来

下里添北区東与那原集落の南東、砂川最寄集落から西城学区へ向かう町道の右手(東側)で、ガジユマルやソーシジュ等の雑木が茂る東西二〇メートル×南北三〇メートル程の森の中に所在する。出入口は森の南西側からの一個所で、一〇メートル程北へ進むと六メートル四方の空地があり、空地の北側にある大きな岩を背にしてコンクリート造りの祭壇とイビが祀られている。建物はなく祭壇の手前の空地が拝所になっている。

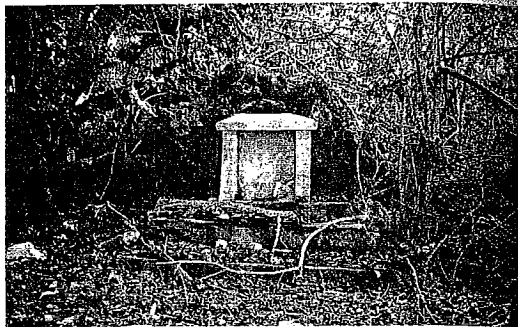
祭神の東成金天の松金は、三〇〇年前の大親時代の役人だったといわれているが定かではない。周辺の人々と下里添北区集落役員によって祭祀がおこなわれている。

祭 神 東成金天の松金(男神、夫)・マツメガ(女神、妻)

主な祭祀 パツコウウサギ、タテイバン、スウダスキ、竜宮ダスキ、プーイ、シツ、ユウヌタミ、ンナフカ、トスヌバン

話 者 下地玄祥(城辺町字下里添六三三)

〔宮里久男〕



ウツ御嶽

所在地 城辺町字下里添北区(東与那原支部)

立地・構造・由来

下里添北区の東端に位置する東与那原集落の東はずれに所在する。

五、六〇メートル西側に砂川最寄集落と西城学区を結ぶ町道が通っている。雑木の繁る森の南口にコンクリート造りの鳥居があり、北に二五メートル程参道を進むと一〇メートル四方の空地がある。その空地の東方に三段造りのコンクリートの祭壇があり、東那利金百帳主と刻まれたブロックのイビを中心に五つのイビがある。向かい合わせになる西方には、二段造りの祭壇があり下里添北区の各御嶽のイビが祀られて遙拝所となっている。

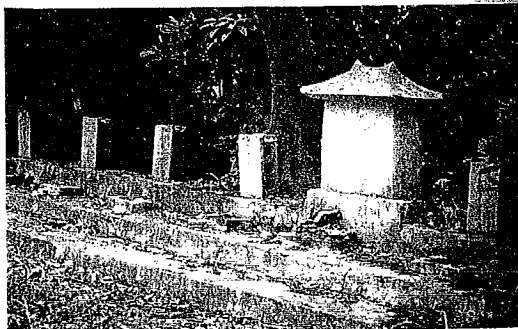
近年まで東与那原の住民は数多く参加し、シツウガンの皿ピヤースニガイが盛大に行われていたが、最近では行事が簡素化されている。

祭 神 アガイナイカニモヌチヨウヌス(東那利金百帳主) 外多くの守護神

主な祭祀 パツコウウサギ(正月ウガン)、タテイバン、スウダスキ、プーイ、シツ、ユウヌタミ、スマフサラ、ンナフカ、トスヌバン

話 者 下地玄祥(城辺町字下里添六三三)

〔宮里久男〕



パルガー御嶽

所在地 城辺町字下里添南区花切集落

内

立地・構造・由来

下里添南区花切集落の中心部に下南公民館がある。県道二〇一号线を砂川小学校前から平良市に向かう道中の左手約二〇〇メートル南側である。

公民館の敷地の南東の方にデイゴとヤシの木に囲まれた御嶽がある。ここがパルガー御嶽である。東方向きにコンクリート造りの祭壇がありイビが祀られている。香炉もコンクリート造りになり祭壇の手前約三メートル四方の空地はコンクリートで固められている。建物はない。

周辺には、数十年前までパルガー（飲料用水溜池）と、カーズク（農業用水、生活用水、家畜用水の沼）があって、花切集落の人々の生活に役立っていた。上水道の普及により沼は埋めたてられパルガーは水が溜まらなくなってしまう。この御嶽の祭祀は、トウダキ御嶽の祭祀のあとにおこなわれるという。

祭 神 パルガー水の主力ニドゥヌ（男神）

主な祭祀 正月ニガイ、トスヌウキ、タティバン、パツダスキ、プーイ、スウダスキ、トスヌバン

話 者 佐和田恵統（城辺町字下里添七四）



トウダキ御嶽

所在地 城辺町字下里添南区花切富竹

集落内

立地・構造・由来

下里添南区花切集落の県道二〇一号线沿いの国仲商店東道路（北区更竹と結ぶ町道）を、北方富竹集落方面へ進むと前方右手に、東西約七〇メートル×南北約八〇メートルの広い面積を有する森がある。

ガジュマルやクスの木、センダン等多くの雑木がうっそうと茂った森のほぼ中央部分が約一五メートル四方の広場になり拝所となっている。出入口は西方と東方からあり、西方が表口になっている。拝所の建物はなく、数種の樹木の大きな枝や小枝が自然の屋根をつくって直射日光を遮って恰好の社となっている。祭壇は簡単なコンクリート造りで、広場の中央に向かってそれぞれのイビが祀られている。広場南側のイビがムトウイビといわれ、ピギタラユーヌヌス、テンヌマク、ナーリマクの夫婦神が祀られている。並んですぐ隣りにイストウヌ・トウザラ神、その東側にティンテフチョウヌヌス、北方にニヌパウマテダ、その脇に大和神クニヌシュウ、少しはなれた所にミルク神が祀られている。

また東方には、水の神ナナカフツヌバキヌヌスが祀られ、そこでは線香は焚かないという。



このトウダキ御嶽は、下里添南区花切集落の人々が村立てのとき、拝所と定め守護神を迎え祀った聖域であるといわれている。

明治三十五年四月、新里小学校の分教場がこの御嶽の東側に設置され、明治四十一年の花切尋常小学校創立まで教育が施された砂川学区の教育発祥の地でもある。

祭 神 ピギタラユーヌヌス・テンヌマク・ナーリマク夫婦神・イ

ストウヌ・トウザラ神・テンテフチョウヌヌス・ニヌパウマテダ・大和神クニヌシュウ・ミルク神・水の神ナナカフツヌバキヌヌス

主な祭祀 トウスヌウキ（正月ウガン）、タティバン、スウダスキ、

竜宮ダスキ、プーイ、シツ、ユウヌタミ、ムスルン、ンナフカ、トウスヌウサミ

話 者 塩川政子（城辺町字下里添一〇八一）

〔宮里久男〕

アメクユーヌヌス御嶽

所在地 城辺町字下里添北区東与那原

集落内

立地・構造・由来

下里添北区東与那原集落の西部で、町道（上区線）を東与那原方面から西へ向かうと道路沿い右手に所在する。

ガジュマルやデイゴ等の老木が数本茂り、南端にコンクリート造りの大きな鳥居が南向きに建てられている。

鳥居をくぐると、広々した境内となり、北寄りに南向きのコンクリートの祭壇が設けられて、中央のコンクリート造りの大きなイビには、「天

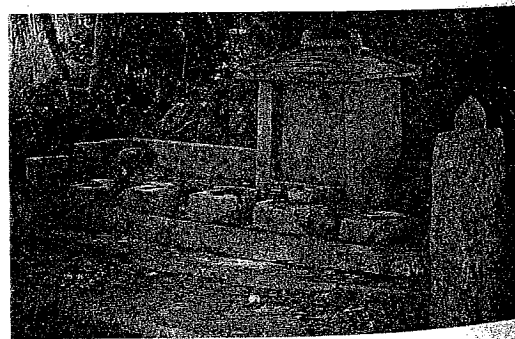
久世の主、十方馬日加那志」と二行に刻みこまれたのが読み取れる。イビの手前にはコンクリート造りの香炉が祭壇にはめこまれている。この御嶽は、周辺に居住する天久系一族と松川系一族によって、里の守護神として崇められ祭祀がおこなわれているという。

祭 神 天久世の主・十方馬日加那志

主な祭祀 パツコウウサギ、タティバン、スウダスキ、プーイ、シツ、ユースタミ、トスヌバン

話 者 松川寛忠（城辺町字下里添七一九）

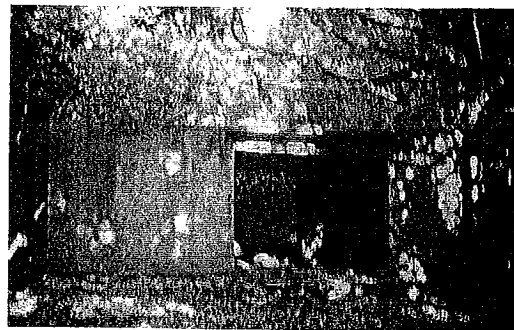
〔宮里久男〕



マラシ御嶽

所在地 城辺町字下里添北区中組
立地・構造・由来

下里添北区のほぼ中心部にあたるニーマヤー里（中組）の北の嶺に所在する。亜熱帯特有の樹木が繁茂する嶺の中腹に社が建てられている。南側に出入口がありコンクリート造りの鳥居が建てられている。鳥居をくぐり三メートル幅の参道を二五メートル程奥に進むと広場があり東北の方角に二〇平方メートルのコンクリートスラブ建てのウガン所があつて、建物の北裏側にある岩を抱くような恰好で祭壇が造られている。中心のイビはひととき大きく、両側に六個のイビがある。広場の西側には小さな祭壇が設けられ集落内の各御嶽の遥拝所になっている。祭神のマラシシユウカニドゥヌは、農業の神・学問の神として崇められ、御嶽内にはそのほかの多くの神の分身が祀られている。



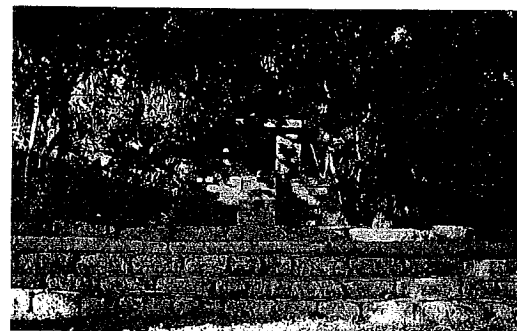
祭 神 マラシシユウカニドゥヌ（真良瀬主金殿）外多くの守護神
主な祭祀 パツコウウサギ、タティバン、スウダスキ（三月）、竜宮ダスキ（三月）、プーイ（四・五月）、シツニガイ、ユウヌタミ、スマフサラ、ンナフカ、トスヌバン
話 者 仲間幸夫（城辺町字下里添一〇〇二一五）

〔宮里久男〕

フンミヤー御嶽

異 称 下里添村御嶽・下里添神社
所在地 城辺町字下里添北区
立地・構造・由来

下里添北区は、城辺町の西南部に位置し、東西約四キロメートルに細長く延びる行政区でそのほぼ中心部に更竹支部がある。明治の初期に下里村の添村として村立てした時、この地に村番所が置かれ敷地内に島の主を祀ったのが下里添村御嶽の始まりといわれる。



御嶽は南向きに大きな鳥居が立ち、一〇〇平方メートル余の広い敷地の中央には四段の階段上に高さ一メートル程の祭壇が設けられている。御神木といわれるガジュマルの老木がその威容を誇り、周囲に福木、松、木麻黄が茂って神々しい御嶽の雰囲気をかもしだしている。西隣りには公民館の建物があり、南東側は集落民の憩いの広場になっている。毎年旧暦八月十五日には、集落民総出の豊年祈願祭が行われているが、町の無形民俗文化財に指定されている「上区の獅子舞」は、保存会によって御嶽の神に奉納され集落の発展、豊作が祈願される、この行事は、人頭税制の頃、粟や上布を完納した時の喜びを分かち合い祝ったのが始まりだといふ。

祭 神 スマヌヌス（島の主）
主な祭祀 八月豊年祭、プーイニガイ、タスキニガイ
話 者 砂川松吉（城辺町字下里添一〇〇二一四三）

〔宮里久男〕

ティンヌマツガニ御嶽

所在地 城辺町字下里添北区更竹集落
立地・構造・由来

下里添北区の更竹集落にある下北構造改善センターの約一〇〇メートル南方を通る町道（上区線）沿い南側の、ガジュマル、ソーシジュ、センダン等の雑木の茂る小さな森の中にある。



出入口が東方と南方から二箇所あり、東方の出入口から五メートル程の所に一五平方メートル位の空地があり、南西の方角向きにコンクリート造りの祭壇が設けられ、数個のブロック造りのイビが祀られている。建物はなく、祭壇の前の空地が拝所になっている。更竹集落の里の守護神として崇められ、集落の人々によって月々の祭祀がおこなわれている。

祭 神 ティンヌマツガニ（男神）
主な祭祀 パツコウウサギ（正月ウガン）、スウダスキ、プーイニガイ、イ、シツ、トスヌバン
話 者 仲間幸夫（城辺町字下里添一〇〇二一五）

〔宮里久男〕

マクの神御嶽

所在地 城辺町字下里添北区更竹集落
内
立地・構造・由来



下里添北区更竹集落の西方で、町道（上区線）の北側に、ガバンマヤー（上原家）の古い屋敷がある。そのすぐ西隣りにガジュマルやテリハボク等の茂る小さな森があり、出入口は南方からの一個所で、参道を二十数メートル進むと森の北寄りに南西向きにコンクリート造りの祭壇が設けられている。イビはブロックでコンクリートにはめこまれている。建物はなく祭壇の前の五メートル四方の空地が拝所になっている。更竹集落西部方面、主に上原家一族とその周辺に人々の里の守護神として崇められ、年毎の祭祀がおこなわれているという。

祭 神 マクの神ブナ（女神）
主な祭祀 パツコウウサギ（正月ウガン）、スウダスキ、プーイ、シツ、ユウヌタミ、トスヌバン
話 者 仲間幸夫（城辺町字下里添一〇〇二一五）

〔宮里久男〕

マイガー御嶽（前井）

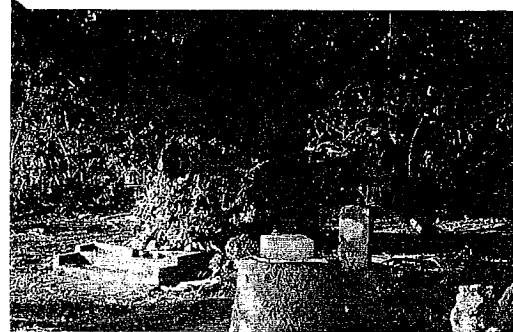
所在地 城辺町字下里添北区更竹集落
北方

立地・構造・由来

下里添北区更竹集落の北方で特別老人ホーム宮古の里の東方に、天然記念物として町の文化財の指定を受けた前井と御神木その周辺の植物群落がある。御神木といわれるアコウの木とガジュマルの合体した老木の根元に、コンクリートの祭壇がありイビが祀られている。これが前井御嶽である。すぐ近くにある前井は、付近の住民の飲料水として利用されていた洞窟井であったが、大正八年に縦穴式井戸に改築され、上水道が普及されるまで更竹集落や周辺の人々の命の水として重宝がられてきたといわれている。祭神ウミイミガ、ウヤンマについては次のような話が伝えられている。絶世の美人といわれたウミイミガは、多くの男性につきまとわれ、悩みに明け暮れていた。彼女は美女なるが故に、苦しみ悩み不幸になることを嘆き、「今後、自分のような美女が生まれないように、またあまり醜女も生まれないように、自分はこの井戸の守り神になろう」と、自らの命を絶ったという。

祭 神 ウミイミガ・ウヤンマ（女神）

主な祭祀 パツコウウサギ、スウダスキ、プーイ、シツ、トスヌバン
話 者 仲間幸夫（城辺町字下里添一〇〇二五）



ウザンミ御嶽

所在地 城辺町字下里添北区ウザンミ集落内

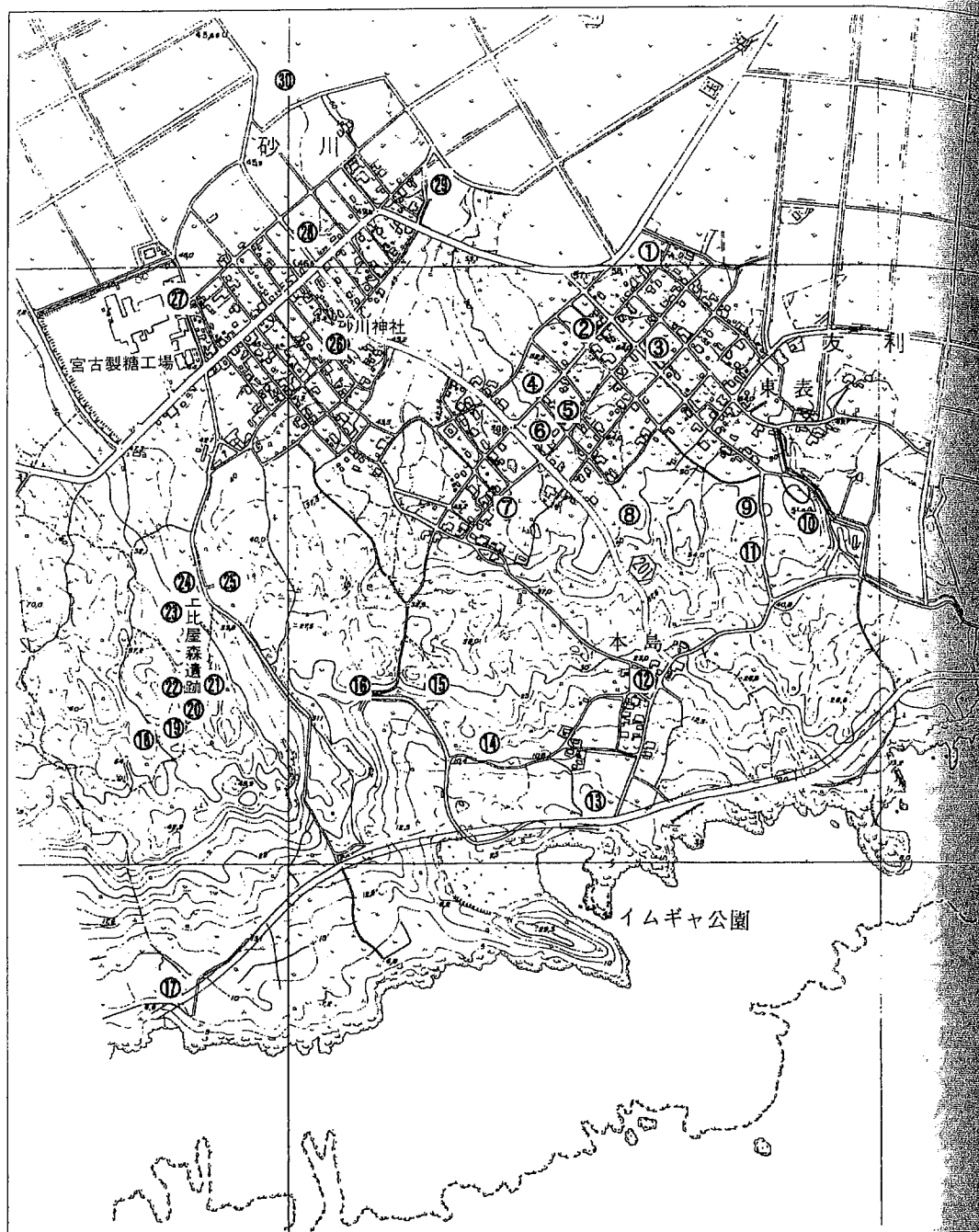
立地・構造・由来

下里添北区ウザンミ集落西方で、町道（上区線）を平良市に向かう道中右手に所在する。東西約五〇メートル×南北約八〇メートルの広い面積を有し、ガジュマル、ソーシジュ、センダン等の雑木が茂り、東北寄りに拝所がある。出入口（幅三メートル）は東方に向かい、参道を西に進み右手に折れて一〇メートル四方の広場に達する。広場の寅の方角に西向きにコンクリート造りの祭壇が設けられ、イビが祀られている。建物はなくこの広場が拝所になっている。

下里添村の村立てと同時に、ウザンミ集落の人々によって、ピギタラユヌヌス、天の松金（男神）として祀ったという。近年まで年中の祭祀は他の地域と同じように、月毎におこなっていたが現在はプーイとタスキニガイは年一回にまとめ、シツニガイは別におこなっているという。

祭 神 ピギタラユヌヌス（男神）・天の松金（男神）

主な祭祀 パツコウウサギ、タスキニガイ、プーイ、シツ、トスヌバン
話 者 砂川松吉（城辺町字下里添二一四三）



- ①ニヌガワマムトウ
- ②ヤマダチムトウ（山立御嶽）
- ③アマリファムトウ
- ④ウイミヤガマムトウ
- ⑤ナカダチャムトウ
- ⑥ブンミヤムトウ
- ⑦マヤムトウ
- ⑧イスカギムトウ（高津間御嶽）
- ⑨クバガムトウ
- ⑩タカバナムトウ
- ⑪ニムトウ（嶺間御嶽）
- ⑫キヌキムトウ（金志川御嶽）
- ⑬ツブガムトウ
- ⑭ウパーンムトウ
- ⑮チンチフムトウ
- ⑯友利あま井
- ⑰ビイダヌヤムトウ
- ⑱ウイダティムトウ
- ⑲マイウイビヤムトウ
- ⑳クスウイビヤムトウ
- ㉑ウイウスムトウ
- ㉒フアティラムトウ
- ㉓マイキサマムトウ
- ㉔クスキサマムトウ
- ㉕マイヌヤムトウ（前之屋御嶽）
- ㉖カムマザムトウ
- ㉗ウヤヌツカムトウ
- ㉘ブンミヤムトウ
- ㉙ミヤードムトウ
- ㉚ユクイムトウ

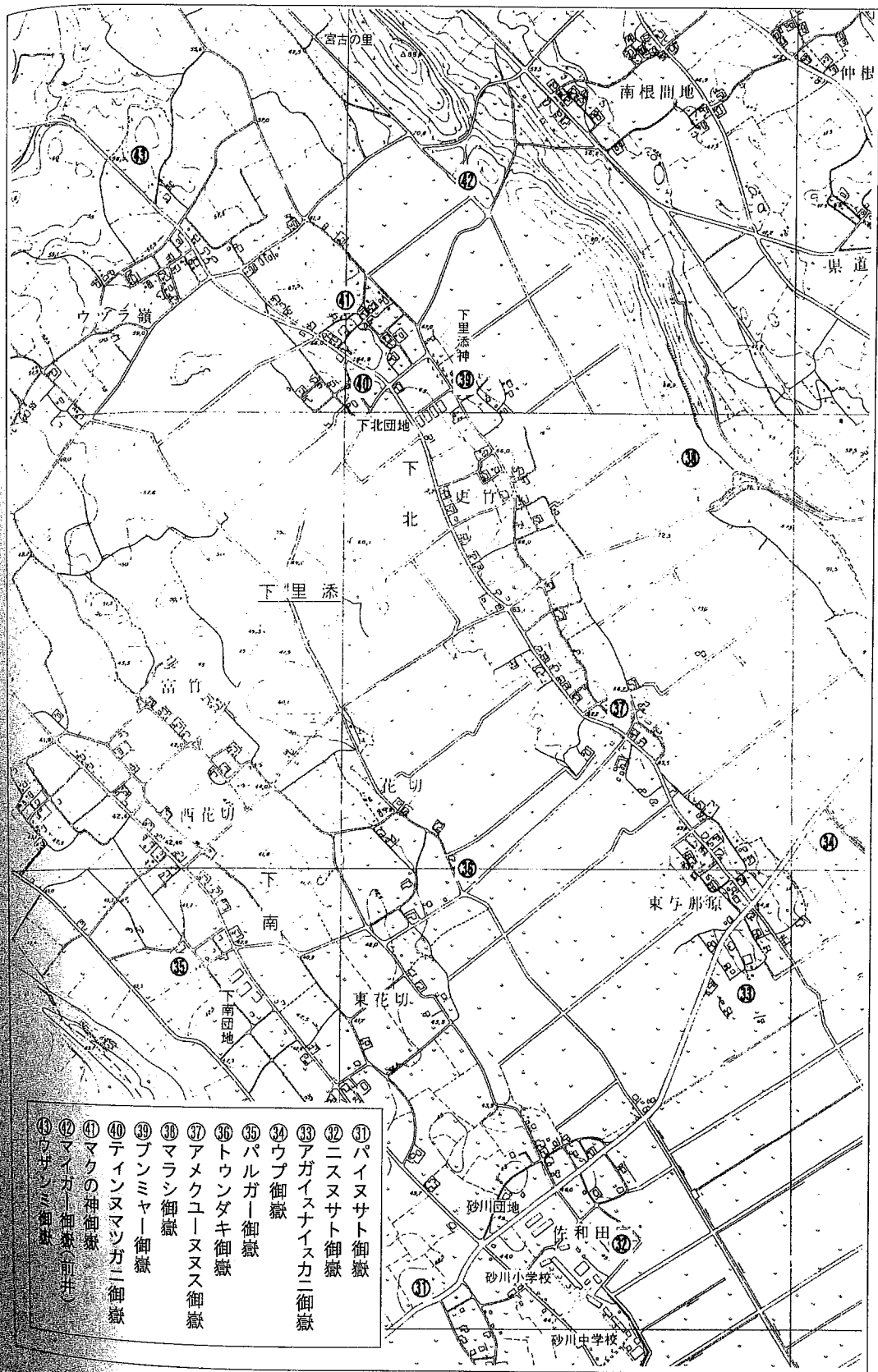
〔宮里久男〕

城辺学区の御嶽（解題）

城辺町の城辺学区は福中・福東・福北・福西・福南・加治道・西東・仲原など八つの区域から形成されている。近世時代この区域は福里村（福中・福東・福北・福西・福南）、比嘉村（加治道）、西里添村（西東）、友利村（仲原）の四村からなり、福里村・西里添村・友利村は砂川間切、比嘉村は平良間切に属していた。内、城辺学区の中心である福里村は一八七四（明治七）年に創られた比較的新しい村である。この福里村の村立てについて、『富川親方宮古島規模帳』（一八七四年）は「西里村の数か所の最寄は、遠方である上、人居も多く、諸事の指図も届きかねて内々の煩わしさも多い。それに百姓たちも甚だ難儀に及んでいたので、最寄の内、九か所を分けて前竹という所へ新しく村立てするよう申し付けてある。指図方に励み、以前のように繁栄させるよう熱慮してうまく治めること」「西里村の最寄から分村した新村は福里と唱え、西里村と同様に反布・穀物とも村位を上位に定めて、砂川間切に所属させた」と記している。

これらの四か村は一九〇八（明治四十一年）年の特別町村制で城辺村に組み込まれ、更に一九四七（昭和二十二年）年七月一日、城辺村の町昇格に伴って、城辺町字福里・字比嘉（加治道）・字西里添（西東）・字友利（仲原）となった。

今回の城辺学区内の御嶽調査では四一か所の御嶽が確認された。内、福里字では福中で五か所・福東で八か所・福北で八か所・福西で三か所・福南で六か所・比嘉字（加治道）では三か所、西里添字（西東）では六か所、友利字（仲原）では二か所の御嶽が所在分布している。城辺学区内には雑木の茂る丘陵が多く、大半の御嶽が丘陵の頂上付近や丘陵麓の雑木林の中に所在し、自然の巨石や奇石などをイビとして利用している。鳥居を有する御嶽は皆



無で、その殆どがイビのみ或いは祠や祭壇を設けて、周囲を神木・石垣・セメント塀などで囲った御嶽となっている。

祭神は多様で、内、比嘉村の南方に所在するアカドウヌ御嶽の祭神（アカドウヌは七兄弟の一人で豊穰を司る神）は、加治道・西東・福南・福西の区域にも御嶽が設けられ遙拝されている。祭神ティンティクチウヌヌス（女神・豊穰神）を祀る御嶽は加治道・西東・福東に分布、祭神ティンヌマツカニ（男神・豊穰神）を祀る御嶽が福中に二か所、祭神ウブンヌマを祀る御嶽が福東に二か所、仲原には友利村の嶺間御嶽の「祭神あまれ大つかさ」を遙拝するバイヌアマリファ・ニスヌアマリファ御嶽が所在する。

この嶺間御嶽について『御嶽由来記』（一七〇五年）は「昔、神代に友利村の後ろのあまれ山の麓に孤村があった。この村はある夜津波に襲われて滅亡し荒原となったが、一人あまれ大つかさは津波の難を逃れ、あまれ山の崖の上に草庵を結び一人暮らししていた。その頃に平安名崎の宮渡の浜に大和人が漂着、人家を尋ねるうち大つかさに逢い、夫婦の縁を結んで子孫繁昌した。これよりあまれ村は再興した。嶺間山は彼の夫婦の根所と伝えられている」とその由来を記している。

これらの御嶽にはサスヌンマと称される神女がおり、中心となって御嶽の祭祀行事を司っている。サスヌンマは大方が村里の女性の中から神くじを以て選出される。

御嶽の主な祭祀行事としては、一月にショウガツコウ（年始めの祈願）、三、四月にムギブズ（麦の初穂祭）、五、六月にアイブズ（粟の初穂祭）、スマフサラ（悪霊払い）、六月にミズダミ（雨乞祈願）、イムザニツ（豊漁祈願）、八月にユヌタミ（豊穰祈願）、九月、十一月にンナフカ（物忌祈願）、十二月にトウスヌバン（年末の祈願）など種々の祭祀行事が執り行われている。

〔砂川玄正〕

ツカサヤ御嶽

所在地 城辺間字福里(福西)
立地・構造・由来

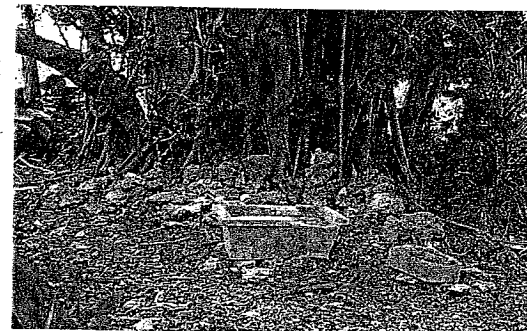
福西集落内にある。城辺町役場から東へ約六〇メートルほど離れて隣接したところに、ガジュマルの巨木がそびえ立っている。そのガジュマルの真下には、出入り口を西へ向けて、約十五坪ほどの祭祀場が開けている。そして、その祭祀場の南隅に、無数の小石を地面に敷くように並べて、約半坪大のイビを設置してある。イビのすぐ前には、コンクリート製の大香炉二個を置くが、向かって右側はウンキヌス・チョウヌヌス(運命主・帳の主)、左側はミズヌヌス(水の主)を拝むための香炉であるという。このウタキは福里大字レベルの拝所であるため、同大字を形成する福中・福東・福西・福南・福北の五集落が共同で各種の祭祀を実施する。

祭 神

①ウンキヌス・チョウヌヌス。同神はひとの生命や運命を司るという。②ミズヌヌス。水を司る神であるという。

主な祭祀 ①一、二月頃 シンカイムルム(迎えの虫払い)②三月丑の日 ルーグアキ(龍宮明け)③三、四月頃 ウヤギムルム(送りの虫払い)④四月寅の日 ムギブズ(麦まつり)⑤五、六月頃寅の日 アーブズ(粟まつり)⑥八、九月頃寅、卯の両日 シンカインナフキヤ(迎え)⑦一〇、十一月頃寅、卯の両日 ウヤギ(送り) シンナフキヤ

〔本永 清〕



アカドウヌ

異 称 ウブムトウ(大元)
所在地 城辺町福里(後前竹)
立地・構造・由来

福西集落の背後の丘脈上、城辺町立福里公園内の一郭に位置する。ガジュマル、モクダチバナ、アコウなど木々の茂みの中に、出入口を東と西に向け、一〇坪ほどの祭祀場が開けているが、イビは北隅に二か所、西隅に二か所、それぞれ野石を敷き並べて設置してある。各イビの上には、それぞれイビシとして小石を立てるのみで、香炉は置いてない。ここは福西集落の創始の頃の拝所だと言われている。福西集落内のほとんど全戸、およびそこからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう。神女サスについては益田家系統の女性から神くじによって選出するという。

祭 神

北隅のイビに主神アカドウヌ(豊穡神)をまつる。西隅のイビ二か所のうち、向かって右側はウガンウタキへのナカドウズ(遥拝所)、左側はガクモンザ(学問座。学問の神をまつる場所)だという。

主な祭祀

①元日から一月七日の間に、ショウガツゴ②三、四月頃 甲寅の日 ムギブズ③五、六月頃甲寅の日 アーブズ④六月頃乙卯の日 ユヌタミ

話 者 狩俣カマド



インクジャーク

異 称 タチスウタキ(立石御嶽)
所在地 城辺町字福里(西方)
立地・構造・由来

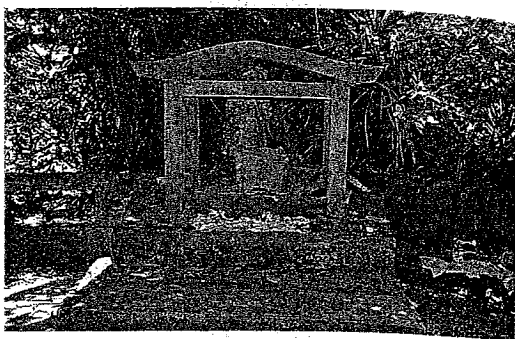
福西集落の北のはずれの地にある。デイゴ、ガジュマルの巨木が目立つ城内に、一五坪ほどの祭祀場がブロック塀で囲んであるが、出入口を北に向け、西の一隅にコンクリートの小祠が立つ。小祠の中に、高さ約八〇センチメートル棒状の野石一基を立て、この石をイビシとして拝んでいる。タチスウタキの異称はこの野石を立てたことによるものという。伊良部島から来住したカナスヤ(屋号)の先祖がこの御嶽を開基、もとは同島にまつるイラウビヤーズを遥拝するための場所だったという。福西集落内のほとんど全戸、およびそこからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう。神女サスについてはカナスヤ系統の家から神くじによって選出するという。

祭 神

イラウビヤーズという豊穡神のほか、ルーグ(竜宮)の神 トウビトウイシユ(飛鳥翁)を遥拝するため、それぞれ香炉を置いてある。

主な祭祀 ①元日から一月七日の間に、ショウガツゴ②三、四月頃 甲寅の日 ムギブズ③五、六月頃甲寅の日 アーブズ④六月頃乙卯の日 ユヌタミ

〔本永 清〕



アカドウヌ

異 称 ウブウタキ(大御嶽)
所在地 城辺町字福里(東川久道)
立地・構造・由来

カークド集落のやや南のはずれに、ガジュマル、オオバギ、アダンなどの自生する場所がある。そこには木々の茂みの中に、出入口を南に向け、二〇坪ほどの祭祀場が開けているが、東の一隅に野石を敷き並べてイビを設置してある。イビの上には石製香炉一個を置く。また、イビの両側に大ソテツを一本ずつ植えてある。カークド集落、ティラヤサトウ内のほとんど全戸、およびそこからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう。同神女についてはカークド・パカヤ出身の成人女性から神くじによって選出する。

祭 神

アカドウヌカニ。単にアカドウヌともいうが、同神はユヌヌス(豊穡の主)だという。

主な祭祀

①三月甲寅の日 ムギブズ②六月甲寅の日 アーブズ。なお、このウタキではかつて、ショウガツゴ(元日)、イムザニツ(四月)、ウブユダミ(六月)、スマフサラ(同)、ブキダミ(同)、シツブズ(同)、シンカインナフキヤ(九月)、ウヤギンナフキヤ(十一月)などの祭祀も実施されていたという。

話 者 伊良部カマド

〔本永 清〕



アガズナイカニ

所在地 城辺町字福里（北川久道）
立地・構造・由来

カークド集落の南のはずれに、デ
イゴ、ガジュマルの太木が目立つ場所
がある。そこには出入口を南に向け、
一〇坪ほどの祭祀場が開けている。北
の一隅に野石を敷き並べてイビを設置、
その上に陶製香炉一個を置く。カーク
ド、ティラーヤー両サトウ内のほ
とんど全戸、およびそこからのイディ
パイたちが同拝所に参集し、神女サス
を中心に各種の祭祀をとり行なう。な
お、同神女の選出については両サトウ・パカヤー出身の成人女性に限
るという一定の条件があるが、現サスは長底集落の出身である。前サ
スであった姑の推薦によりその後任となったが、あとから同拝所のサ
スを名の者が頻出したため、再度神くじによる承認をうけることにな
ったという。

祭 神 アガズナイカニ

主な祭祀 ①三月乙卯の日 ムギブーズ②六月乙卯の日 アーブーズ
なお、このウタキではかつて、ショウガツゴ（元日）、
イムザニツ（四月）、ウブユードミ（六月）、スマフサラ
（同）、プーキダミ（同）、その他の祭祀も実施されていた
という。

話 者 伊良部カマド



〔本永 清〕

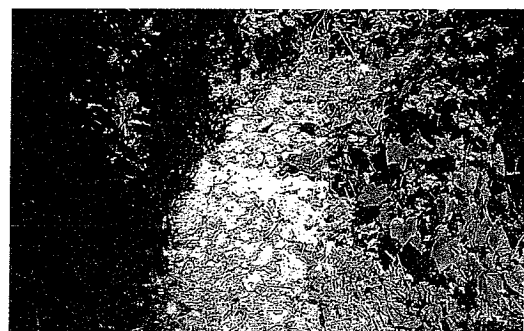
ウガムヤー御嶽

所在地 城辺町字福里（北川久道）
立地・構造・由来

ティラーヤーと称するサトウ（里）
内の畑中にある。オオバギ、ヤブニツ
ケイ、モクタチバナなど木々の茂みの中
に、出入口を西に向け、一〇坪ほど
の祭祀場が開けている。そこには東の
一隅に、野石を敷き並べてイビを西向
きに設置してある。イビの上には、ほ
ぼ中央にイビシ一個を置くのみである
が、かつては陶製香炉も一個あったと
いう。ウガムヤー御嶽の呼称は、大神
島から人々がここへ定期的にやってきて
拝んでいたことによるものである。し
かし、いつのまにかこの拝所は放置さ
れたため、ティラーヤーサトウ内の住
民が全戸で協議して、神の鎮座する場
所をそのまま捨てておくわけにもいか
ないということで拝み始めたという。た
だし、ここをサトウレベルの御嶽に位
置づけてよいかどうかについては、今
しばらくこの拝所に対する住民の意識
変化の後を見きわめる必要がある。こ
こには神女サスは配置されていない。

祭 神 未詳

主な祭祀 ①三、四月頃甲寅の日 ムギブーズ②五、六月頃甲寅の日
ムギブーズ。その他、ショウガツゴと称して、元日に赤
飯を供えて拝む。



〔本永 清〕

カムヤマ（神山）

異 称 ニスヌムトウ（北の元）
所在地 城辺町字福里（東嶺原）
立地・構造・由来

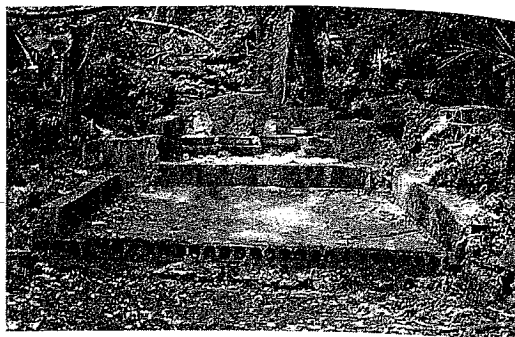
ンミバリ集落の背後にある丘の上に、
ガジュマル、センダン、オオバギなど
の自生する場所がある。そこには、出
入口を西に向け、一五坪ほどの祭祀場
が開けているが、その東の一隅にコン
クリートで段状にイビを設置してある。
イビの上には、イビシ三個、香炉四個
を並置する。ただし、もと香炉の数は
二個だったという。ンミバリサトウ内
のほとんど全戸、およびそこからのイ
ディパイたちが同拝所に参集し、神女サ
スを中心に各種の例祭をとり行なう。
なお、同神女の選出についてはンミバ
リ・パカヤー（地縁集団）出身の成人
女性を対象に神くじによって決める
という。

祭 神

ティンヌマツカニとその妻カニミガ。両神は豊穰を司る。
主な祭祀 ①元日 ショウガツゴ②二月乙卯の日 ムギブーズ③五
月乙卯の日 アーブーズ④六月（祭日未定） ウブユード
ミ⑤十一月甲寅の日 ウヤギンナフキヤ。なお、このウタ
キではかつて、イムザニツ（五月）、シツブーズ（同）、ス
マフサラ（六月）、プーキダミ（同）、ジューダヤマス（八
月）、ンカイナフキヤ（同）、トウスヌバン（十二月）な
どの祭祀も実施されていたという。

話 者 下地メガ（明治三十一年、ンミバリ生まれ。女性）

〔本永 清〕



タキマキ御嶽

所在地 城辺町字福里（東嶺原）
立地・構造・由来

ンミバリ集落の北のはずれに、アコ
ウ、オオバギ、ヤブニツケイなどの自
生する小さな林がある。その林中に、
出入口を西に向け、一〇坪ほどの祭祀
場が開けているが、南の一隅には野石
を敷き並べてイビを二か所設置してあ
る。向かって右側のイビに、イビシ三
個、香炉二個、左側のイビに、イビシ
五個、香炉三個を並置する。ンミバリ
サトウ内のほとんど全戸、およびそこ
からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心
に各種の例祭をとり行なう。なお、同神女の選出についてはンミバ
リ・パカヤー出身の成人女性を対象に神くじによって決める
という。

祭 神

ボーガマという男神。その他、数神をまつる。
主な祭祀 ①元日 ショウガツゴ②二月乙卯の日 ムギブーズ③五
月乙卯の日 アーブーズ④六月（祭日未定） ウブユード
ミ⑤十一月甲寅の日 ウヤギンナフキヤ。なお、かつては
イムザニツ（五月）、シツブーズ（同）、スマフサラ（六
月）、プーキダミ（同）、ジューダヤマス（八月）、ンカイ
ナフキヤ（同）、トウスヌバン（十二月）などの祭祀も
実施されていたという。

話 者 下地メガ（明治三十一年、ンミバリ生まれ。女性）

〔本永 清〕



ヌグスクアズヌシユ

(野城按司の主)

所在地 城辺町字福里(東嶺原)
立地・構造・由来

ンミバリの東海岸にヌグスク(野城)とよばれる湧泉があるが、その水源のすぐ上の石垣に、霊石一基を置いて拝んでいる。むかし、投網漁を終えた野城城主ヌグスクアズヌシユが海から上がってくると、近くの砂川牧の子牛が一頭アダンの茂みの中に入っているのを見て、あとを追って行くと湧泉があった。この湧泉の発見はヌグスクの住民を大いに喜ばせた。のちに、ヌグスクアズヌシユはこの湧泉のそばにまつられることを願い出て、住民が拝み始めたという。現在、野城城はなく、その住民もどこへ行ってしまったかわからない。ンミバリの住民が拝み始めた時期も不明であるという。



祭 神

野城城主ヌグスクアズヌシユ・ポーヌシユ。投網漁の達人であつたという。また、平安名村のママヤという美女とのロマンスは有名で、伝説でも語られ、民謡でもうたわれている。

神 役

サス一名が配置されている。

祭 祀 九月から十一月にかえて、みずのとうの日を選んで、年一回まつりを行う。

話 者

伊良部カマド

〔本永 清〕

ウガム御嶽

所在地 城辺町字福里(西嶺原)
立地・構造・由来

西嶺原の北はずれ、原野の中にガジユマル、オオバ、ウゲスなど灌木の茂みが見えるが、近づくとも茂みの北側から参道が延びて、約十五坪ほどの祭場につきあたる。祭場の北隅には約二坪ほどのコンクリート造りの建物が立ち、正面廂の下壁に「昭和43年12月6日(旧10月17日) 福南部落」と建立年月日と施工した部落名が刻まれている。かつてここには茅葺き小屋が立ち、台風で破壊されるたびに新しく葺き替えねばならなかったため、建物の管理を任されていた福南部落が相談してコンクリート造りに建て替えたという。建物の中には北壁に即して、霊石三基、香炉一個を並べたイビ(祭壇)が設置されている。福里大字の御嶽であるため、同字を形成する福東・福中・福西・福南・福北五部落の全戸が拝んでいる。この建物の管理責任は福南部落にある。また、福北・ンミバリサトウ(里)の御嶽でもある。



祭 神

ウンキヌス・ミユニヌス(運命主・御船主)

神 役

かつてサスヌンマ一名が配置されていたが、現在はいないという。

主な祭祀

①二月きのとうの日、ムギブーズ(麦まつり) ②五月きのとうの日、アーブーズ(粟まつり)

話 者

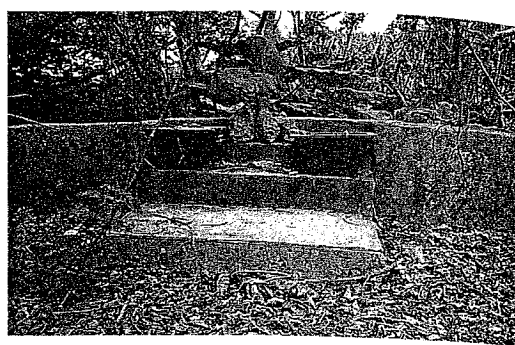
下地メガ(明治三十一年、福北生まれ。福北在住。女性)

〔本永 清〕

ミルク(弥勒)御嶽

所在地 城辺町字福里(西嶺原)
立地・構造・由来

西嶺原の北はずれ原野の中にウガンウタキと隣接してガジユマル、アコウ、オオバギなど灌木の茂みが見えるが、ここには南端に鳥居が立ち、中へ入るとブロック塀で囲んだ約五〇坪ほどの祭場がある。そして、ほぼ中央にはコンクリート造りの約三坪ほどの建物が、さらに建物から離れて置くには、ブロック塀にくっついて中央、左、右、両隅にイビが設置されている。ただし、もとは中央のイビだけだったという。中央のイビには霊石三基、鉄製の香炉二個が置かれている。福里大字のウタキであるため、同字を形成する福東・福中・福西・福南・福北五部落の全戸が拝んでいる。同ウタキの管理責任は福北部落にある。また、福北・ムミバリサトウ(里)のウタキでもある。



祭 神

ミルクティン・ミルクミガ(弥勒天・弥勒ミガ。ミガは女性的一般の呼称)

神 役

サス一名が配置されている。

主な祭祀

①二月きのとうの日、ムギブーズ(麦まつり) ②五月きのとうの日、アーブーズ(粟まつり)

話 者

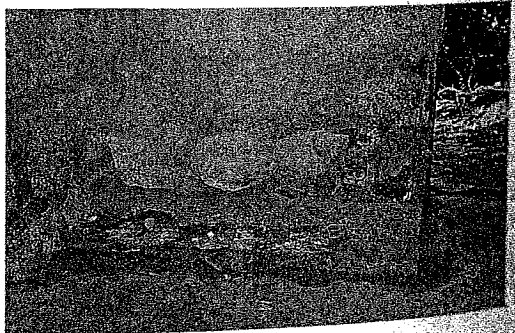
下地メガ(明治三十一年、福北生まれ。福北在住。女性) 長浜金次郎

〔本永 清〕

クールフ

所在地 城辺町字比嘉(朝五路)
立地・構造・由来

パイカズドー集落の北のはずれにある台地上に位置する。オオバギ、テリハボク、ヤブニツケイなど木々の茂みの中に、出入口を北に向け、一〇坪ほどの祭祀場が開けているが、そこには東隅にコンクリートの祭祀小屋を建立してある。小屋の中には、南壁の下にイビを設置、その上にイビシ二個、香炉三個を並置する。イビは屋外にも一か所設けられているが、そこにはイビ一個を置くのみで、香炉はない。パイカズドー・イズサトウ(西里)内のほとんど全戸、および同サトウからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行う。なお、神女サスについては同サトウ・パカヤー出身の女性から神くじによって選出するという。また、同サトウでは人口の過疎化と高齢化のため、例祭の維持が困難になりつつあるという。



祭 神

ティンヌマツカニ、ナアリマツミガという男女神をまつる。屋外にあるイビはルーグ(竜宮)の神を遥拝するための場所だという。

主な祭祀

①元日 ショウガツゴ ②四月乙卯の日、ムギブーズ ③五月頃乙卯の日、アーブーズ ④八月乙卯の日、ユースタミ ⑤一二月下旬、トウスヌバタニガズ

話 者

友利ウシ(明治四十一年、加治通生まれ。女性)

〔本永 清〕

ティンティフク・チョウヌヌス

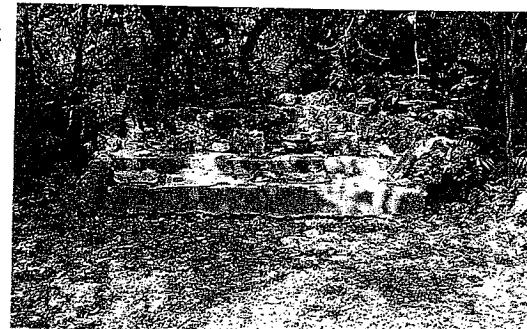
異称 アガイヌウタキ（東の御嶽）
ニミガヌウタキ（嶺の御嶽）
所在地 城辺町字比嘉（北加治道）
立地・構造・由来

パイカズドー集落の南のはずれに、センダン、オオバギ、ヤブニツケイなど灌木に覆われた小高い丘がある。その丘の中腹あたりに、出入口を北に向け、五坪ほどの祭祀場が開けている。そこには東の片隅にある小岩のそばに、野石を敷き並べてイビを設置、その上に、イビシ三個、香炉五個を並置する。

パイカズドー・アガイサトゥウ（東里）内のほとんど全戸、およびサトゥウからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行う習わしである。しかし、前サスの他界後、現在に至るもその後任が選出されていないため、ここ数年間、各種の例祭は各戸から集まった者たちだけで神前に供物をそなえ、祈願しておわるといふ。なお、同サトゥウでは人口の過疎化と高齢化のため、例祭の維持がだんだん困難になりつつあるという。

祭 神 ティンティフク・チョウヌヌス

主な祭祀 ①元日 ショウガツゴ ②三月初めの日 ムギブーズ③五月頃初めの日 アーブーズ（別称ナツブーズ）④八月乙卯の日 ユーヌタミ⑤年末 トウスヌバン
話 者 上里カメ（大正三年、加治道生まれ。女性）



〔本永 清〕

アカドウヌ

所在地 城辺町字比嘉（西方）
立地・構造・由来

ニスカズドー集落の東端の地にある。アコウ、フクギ、アダンなど木々の茂みの中に、出入口を南西に向け、一五坪ほどの祭祀場が開けている。そして、そこには西隅にある小岩のそばに、イビを三か所設置してある。中央のイビに香炉三個、左右の各イビにそれぞれ香炉一個を設置する。また、出入口付近にもイビを二か所設置、それぞれに香炉一個を設置する。ニスカズドー集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行う。なお、神女サスについてはニスカズドー・パカヤー出身の女性から神くじによって選出する。

祭 神

中央のイビに主神アカドウヌ、向かって左側のイビにカズヌカンまつる。右側のイビは比嘉大川に鎮座するアカドウヌ、他一神を遥拝するためのものだという。また、出入口付近に設けた各イビも遥拝場所だというが、その対象とする神々は定かでない。

主な祭祀 ①元日 ショウガツゴ ②四月乙卯の日 ムギブーズ③六月乙卯の日 アーブーズ④八月乙卯の日 ユーヌタミ⑤年末 トウスヌバン
話 者 砂川マツカマ（明治四十四年六月、〇日、福里生まれ。女性）



〔本永 清〕

アカドウヌ

異称 ウフウタキ（大御嶽）
所在地 城辺町字福里（東高阿良後）
立地・構造・由来

タカアラダス集落・中サトゥウ背後の森中に位置する。ガジュマル、センダン、キヤーギなど木々の生い茂る域内に、出入口を南に向け、四〇坪ほどの祭祀場が開けている。イビはその北隅に、野石を段状に積み上げて南向きに築いてある。イビの上には、ほぼ中央にイビシ、香炉を三個ずつセットにして並置、それから右端にもイビシ一個を置いてあり、それぞれ特定の神と関係づけられている。ここはタカアラダス集落創始の頃の拝所だと伝えている。タカアラダス集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集して、神女サスを中心に各種の例祭をとり行う。なお、神女サスについては、同集落（パカヤーと称す）出身の成人女性から神くじによって選出するという。

祭 神 イビシ、香炉の三セットのうち、中央に主神アカドウヌシ

ユーをまつるが、同神は七兄弟神の一人で、豊穰を司るといふ。向かって右側は旅の神、左側は諸神をまつる。それからイビの右端にあるイビシはルীগ（竜宮）の神を遥拝するためのものだという。

主な祭祀 ①三月甲寅の日 ムギブーズ②五月甲寅の日 アーブーズ
話 者 平良カニミガ（明治三〇年、タカアラダス生まれ。女性）

〔本永 清〕



ヤマトウ御嶽

異称 イミウタキ（小御嶽）、マドウウタキ、サトゥヌウタキ
（里の御嶽）
所在地 城辺町字福里（東高阿良後）
立地・構造・由来

タカアラダス集落・中サトゥウ背後の森中に、アカドウヌウタキに隣接して位置する。ガジュマル、テリハボク、オオバギなど木々の生い茂る域内に、出入口を西に向け、四坪ほどの祭祀場が開けている。イビはその南隅に、野石を敷き並べて北向きに設置してある。イビの上には、ほぼ中央にイビシ、香炉を二個ずつセットにして並置、それから右端にもイビシ一個を置いて、それぞれ拜んでいる。中サトゥウ内のほとんど全戸、およびサトゥウからのイディパイたちが同拝所に参集し、各種の例祭をとり行う。ここには神女サスは配置されていない。

祭 神 池間島にあるウパルズウタキの祭神ウパールズを招聘してまつるといふ。同神については、この拝所の例祭のときに

唱える祝詞の中で「ユーヌヌス（豊穰の主）、ウンキヌス（運命の主）、カラダヌス（身体主）」と説明している。イビの右端にあるイビシはルীগ（竜宮）の神を遥拝するためのものだという。

主な祭祀 ①三月乙卯の日 ムギブーズ②五月乙卯の日 アーブーズ
話 者 平良カニミガ（明治三〇年、タカアラダス生まれ。女性）

〔本永 清〕



ティラスカニシユ

異称 サトウヌカム(里の神)

マドウウタキ

所在地 城辺町字福里(西高阿良後)
立地・構造・由来

タカアラダス集落・西サトウの西前方に位置する。オオバギ、モクタチバナ、ヤブニツケイなど木々の茂みの中に、出入り口を南に向け、五坪ほどの祭祀場が開けている。イビはその北隅に、野石を敷き並べて西向きに築いてある。イビの上には、ほぼ中央にイビシ三個を並置、以前は香炉も並置していたというが、その香炉は割れてしまつて現在補充されてない。イビの右端にもイビシ一個を置いてある。西サトウに最初住みついたナカマヤ(屋号)の先祖が平良の荷川取から神を招聘してまつたのは始まりであると伝えている。西サトウ内のほとんど全戸、および同サトウからのイディパイたちが同拝所に参集し、各種の例祭をとり行なう。ここには神女サスは配置されていない。

祭 神 平良の西仲宗根にある真玉御嶽の祭神ティラスカニシユを招聘してまつるが、同神は「宮古全体を照らし、豊穣を司る」という。右端のイビシはルグ(竜宮)の神を遥拝するためのものである。

主な祭祀 ①三月乙卯の日 ムギブーズ②五月乙卯の日 アーブーズ
話 者 平良カニミガ(明治三〇年、タカアラダス生まれ。女性)



〔本永 清〕

ニヌバカボー

異称 サトウヌカム(里の神)

マドウウタキ

所在地 城辺町字福里(西高阿良後)
立地・構造・由来

タカアラダス集落・西サトウの北端の地に位置する。オオバギ、ヤブニツケイ、モクタチバナなど木々の生い茂る域内に、出入り口を東に向け、五坪ほどの祭祀場が開けている。そこには北隅に、野石を台状に積んでイビを南向きに設置してある。イビの上には、ほぼ中央にイビシ、香炉を二個ずつセットにして並置、それから右端にもイビシ一個を置いて、それぞれ拝んでいる。この拝所についてはユヌヤ(家号)の先祖が宮国から神を招聘してまつたのは始まりであると伝えている。西サトウ内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、各種の例祭をとり行なう。この拝所には神女サスは配置されていない。なお、各例祭の前日、ユヌヤの子孫たちが祭祀場の清掃などにあたるといふ習わしである。

祭 神 ニヌバカボーという女神をまつるが、神の性格については不明。右端のイビはルグ(竜宮)の神を遥拝するためのものだという。

主な祭祀 ①三月乙卯の日 ムギブーズ②五月乙卯の日 アーブーズ
話 者 平良カニミガ(明治三十年、タカアラダス生まれ。女性)



〔本永 清〕

ティンヌシユ・ナズカニ

異称 ウフウタキ(大御嶽)

所在地 城辺町字福里(イズヌバタ)

立地・構造・由来

イズヌバタという廃村跡があり、畑中に位置する。一本のガジュマルの巨木がそびえ立つ域内に、出入口を東に向け、五坪ほどの祭祀場が開けている。西隅に野石を敷き並べてイビを設置、そのほぼ中央にイビシ三個、石製香炉三個、左右両端にもイビシ一個を置いて、それぞれ拝んでいる。現在、イズヌバタ住民の多くは県道一九三号線(平良城辺線)沿いに集団移住し、加治道自治会に編入されている。しかし、集落の移動後も、住民どうしの御嶽信仰の紐帯は維持されていて、毎年定期的にこのウタキに参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう習わしである。

祭 神 中央にあるイビシ三個のうち、一個はティンヌシユ・ナズカニという神をまつたものだというが、他の二個については祭神名不明。また、左右両端のイビシのうち、右は古井戸のそばにまつるミズヌカン、左は隣村のフナカヤー住民の守護神アカドウスを遥拝するためのものだという。

主な祭祀 ①三、四月甲寅の日 ムギブーズ②五、六月甲寅の日
話 者 野佐キヨ



〔本永 清〕

ティンティフク・ムムチヨ

所在地 城辺町字福里(イズヌバタ)

立地・構造・由来

イズヌバタという廃村跡があり、その背後の森中に位置する。そこには、出入口を南西に向け、五坪ほどの祭祀場が開けているが、南の一隅にある小岩のそばに、野石を敷き並べてイビを設置してある。イビの上には、ほぼ中央にイビシ三個、石製香炉三個、左端にイビシ二個、右端にイビシ一個を置いて、それぞれ拝んでいる。現在、イズヌバタ住民の多くは県道一九三号線(平良城辺線)沿いに集団移住し、行政的には加治道自治会に編入されているが、集落の移動後も、住民どうしの御嶽信仰の紐帯は維持されていて、毎年定期的にこの御嶽に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう習わしである。

祭 神 中央にあるイビシ三個のうち、一つは主神ティンティフク・ムムチヨをまつたものだというが、他の二個については祭神名不明。左端のイビシ二個は隣村のフナカヤー住民の守護神アカドウス、右端のイビシは古井戸のそばにまつるミズヌカンを遥拝するためのものだという。

主な祭祀 ①三、四月甲寅の日 ムギブーズ②五、六月甲寅の日
話 者 野佐キヨ



〔本永 清〕

アカドゥヌ

異 称 ウブウタキ（大御嶽）イヌヌ
ンミウタキ（西の嶺御嶽）
所在地 城辺町字西里添（西嶺）
立地・構造・由来

ユクダキ集落の北のはずれにある森中に位置する。ガジユマル、オオバギ、モクタチバナなど木々の茂みの中に、出入口を南に向け、四〇坪ほどの祭祀場が開けている。そこには東の一隅に、加工石を段状に積んでイビを設置、その上にイビシ二個、香炉二個を安置して拝んでいる。ここは現在の西東集落



を形成する小集落の一つ、ユクダキの創始の頃の拝所だという。西東集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行う。なお、神女サスについてはヤマウツ（屋号）系統の女性から神くじにより選出する。

祭 神 アカドゥヌ・ユヌヌス、その妻マツカマをまつるが、両神は豊穰を司る。なお、アカドゥヌについては、むかし天降りした七兄弟神の一人だと言われている。

主な祭祀 ①三、四月頃甲寅の日 ムギブーズ②五、六月頃甲寅の日 アーブーズ③その他、大晦日と元日にも各戸で参拝する。

話 者 大城ツル（大正八年、与那節生まれ。女性）

ティンチク・チヨウヌヌス

異 称 キスナ（大岩）
所在地 城辺町字西里添（横竹）
立地・構造・由来

西東公民館のやや北隣に位置する。域内にある大岩のそばに、野石を敷き並べてイビを設置、その上に香炉三個を安置して拝んでいる。キスナの異称は、同拝所を大岩のそばに設けていることによるもので、キスが大岩の意、ナは愛称を表す接尾語である。西東集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスヌンマを中心に各種の例祭をとり行う。なお、同神女についてはヤナカヤ（屋号）系統の女性から神くじによって選出するとい



祭 神 香炉三個のうち、中央にティンチク・チヨウヌヌスという女神、向かって左側にマダマカニドゥヌという男神をまつるが、両神は平良にある真玉御嶽からのピキガム（引き神、招聘神）であるという。向かって右側にはユヌカム（豊穰神）をまつるとい

主な祭祀 ①三月乙酉の日 ムギブーズ②五月乙酉の日 アーブーズ③九月甲寅の日 ンカイナフキヤ④十一月甲寅の日 ウヤギンナフキヤ⑤その他、大晦日と元日にも各戸で参拝する。

話 者 砂川トシ（大正十四年、西東生まれ。女性）

ハイヌマニカリ

異 称 ニスヌキス（北の岩）に対し、
パイヌキス（南の大岩）と呼ばれている。

所在地 城辺町字西里添（ユクダキ）
立地・構造・由来

公民館の西北役百メートルの位置に、国道平良―仲原線に面して大岩が横たわった場所があるが、その大岩の根もとに香炉一個を置き、拝所としている。ニスヌキスとは東西に約五〇メートルの距離である。西東部集落の御嶽であるため、同部集落の全戸が拝んでいる。



祭 神 テインヌマツカニ。同神についてはサキヌヌス・ジョウスヌス（酒の主・醸成主）であると説明している。なお、同所にはムツピヌカン（道引きの神。道祖神？）も合祀されているという。

神 役 特定の神役は配置されていないが、各種のまつりでニスヌキス担当のサスヌンマがきて代役をつとめるという。

主な祭祀 ①三月きのとりの日、ムギブーズ（麦まつり）②五月きのとりの日、アーブーズ（粟まつり）③九月きのとりの日、ンカイ（迎え）ンナフキヤ④十一月きのとりの日、ウヤギ（送り）ンナフキヤ⑤その他、大晦日と元日にも各戸で拝む。

話 者 砂川トシ（大正十四年、西東生まれ。女性）

〔本永 清〕

ムイマシユー

異 称 ユナウス・ウブウタキ（ユナウス集落の大御嶽）
所在地 城辺町字西里添（与那節）
立地・構造・由来

ユナウス集落内に位置する。ガジユマル、デイゴ、オオバギなどの大木が目立つ域内に、出入り口を南に向け、一〇坪ほどの祭祀場が開けている。そこには東の一隅に、野石を敷き並べてイビを西向きに設置、その上にイビシ四個、香炉四個を並置して拝んでいる。ここは西東集落を形成する小集落の一つ、ユナウスの創始の頃の拝所だとい



う。西東集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう。なお、神女サスについては新垣家系統の女性から神くじによって選出するとい

祭 神 主神ムイマシユーのほか、アガイカニ・カミナ、ヤマトウドウヌを招聘してまつるが、イビの左端にもルグ（竜宮）の神を遷拝するための場所を設けてある。

主な祭祀 ①三月甲寅の日 ムギブーズ②五月甲寅の日 アーブーズ③九月甲寅の日 ンカイナフキヤ④十一月甲寅の日 ウヤギンナフキヤ⑤その他、大晦日と元日にも各戸で参拝する。

話 者 砂川トシ（大正十四年、西東生まれ。女性）

〔本永 清〕

ンギヌミ御嶽

所在地 城辺町字西里添（与那節）
立地・構造・由来

ユナウス集落内に位置し、ガジュマル、アコウ、デイゴなどの大木が目立つ域内に、約七坪の祭祀場が開けている。そこには大岩のそばに、野石を敷き並べてイビを設置、その上に香炉四個を並置して拝んでいる。西東集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう。この御嶽には神女サスが二人配置されているが、一人はマツカマ、他はイラウピヤズ・イキヌイタミガという祭神にそれぞれ仕え、前者はンギヌミヤ（屋号）、後者はマイバラヤ（同）系統の女性から選出するという。

祭 神 マツカマ、イラウピヤズ・イキヌイタミガ、イキヤマ
ウパルズ、ナイカニの四神を招聘してまつるほか、ルーグ（竜宮）の神を遷拝するための場所ウトウシ（お通し）も設けてある。

主な祭祀 ①三月乙卯の日 ムギブズ②五月乙卯の日 アーブズ
③九月甲寅の日 ンカインナフキヤ④一月甲寅の日 ウ
ヤギンナフキヤ⑤その他 大晦日と元日にも各戸で参拝する。

話 者 砂川トシ（大正十四年、西東生まれ。女性）



〔本永 清〕

ミルクガム

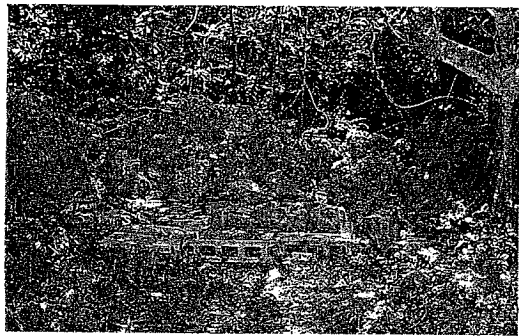
所在地 城辺町字西里添（与那^{ユナウス}節）
立地・構造・由来

ユナウス集落の背後の丘脈上にある。センダン、ガジュマル、ソウシジュなど木々の茂みの中に、出入口を西に向け、約一五坪ほどの祭祀場が開けている。そして、その東隅に野石を敷き並べてイビを設置、その上にイビシ五個、香炉五個をそれぞれ並置して拝んでいる。ただし、そこにはもとはイビシ四個、香炉四個の配置だったという。西東集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう。なお、神女サスについてはムトウムラヤ（屋号）系統の女性から神くじによって選出するという。

祭 神 ミルクガム・ヤマトウガム、アサヌシユ・ユヌヌス・ジャンヌヌス、サラヌヌス、ユヌヌス・ミルクドウヌの四神をまつるほか、ルーグ（竜宮）の神を遷拝するための場所ウトウシ（お通し）も設けてある。

主な祭祀 ①三月甲午の日 ムギブズ②五月甲午の日 アーブズ
③九月甲寅の日 ンカインナフキヤ④一月甲寅の日 ウ
ヤギンナフキヤ⑤その他 大晦日と元日にも各戸で参拝する。

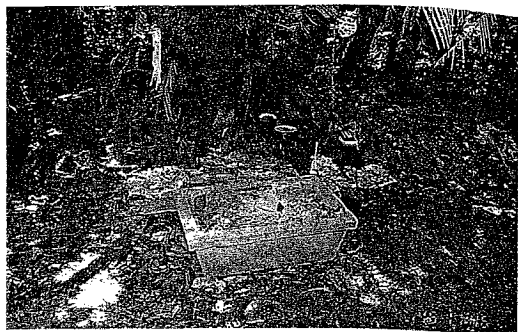
話 者 砂川トシ（大正十四年、西東生まれ。女性）



パイヌアマリパー

異 称 ウプウタキ（大御嶽）
所在地 城辺町字友利（仲原）
立地・構造・由来

ナカバリ集落の北端の地に位置する。オオバギ、モクダチバナ、ヤブニッケイなど木々の茂みの中に、出入口を南に向け、五坪ほどの祭祀場が開けている。そこには、東の一隅に野石を敷き並べて、西向きにイビを設置してある。イビの上には、ほぼ中央にイビシ一個、その前の地面に香炉一個を置く。ナカバリ・ニスサトゥ内のほとんど全戸、および同サトゥからのイディパイたちが同拝所に参集し、各種の例祭をとり行なう。ここにはかつて、神女ンマザスが配置されて司祭にあたり、前ンマザスの他界後、現在に至るもその後任が選出されていないという。ンマザスの選出については同サトゥ・パカヤ（出身の成人女性を対象に神くじによって決めるという）



祭 神 アマリパーという女神。同神については、宮古島に大津波が襲ったときに、一人だけ島に残り、のちに漂着した大和人との間に子を産み広めたと言われている。

主な祭祀 ①元日 ショウガツゴ②三月甲寅の日 ムギブズ③五月甲寅の日 アーブズ④年末 トウスヌバン

〔本永 清〕

パイヌアマリパー

異 称 ウプウタキ（大御嶽）
所在地 城辺町字友利（仲原）
立地・構造・由来

ナカバリ集落の西のはずれの地に、デイゴの巨木が数本立っていて、遠くからでも目立つ場所がある。そこには出入口を東に向け、五坪ほどの祭祀場が開けている。そして、一本のデイゴの根もと付近に、コンクリートを固めてイビを北向きに築いてある。イビの上には、ほぼ中央にイビシ一個、香炉一個を並置する。ナカバリ・パイサトゥ内のほとんど全戸、および同サトゥからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女ンマザスを中心に各種の例祭をとり行なう。ただし、最近そのンマザスが他界したため、後任の選出については未定だという。パイヌアマリパーの呼称は、ニスヌアマリパーに対するものである。かつて、パイサトゥの住民もニスヌアマリパーに参拝していたが、そこは当地から遠距離にあたるため、のちに同拝所の祭神を招聘して新しく拝所を建立したという。

祭 神 アマリパーという女神。同神については、大津波で一人だけ、宮古島に残り、のちに漂着した大和人との間に子を産み広めたと言われている。

主な祭祀 ①元日 ショウガツゴ②三月甲寅の日 ムギブズ③五月甲寅の日 アーブズ④年末 トウスヌバン

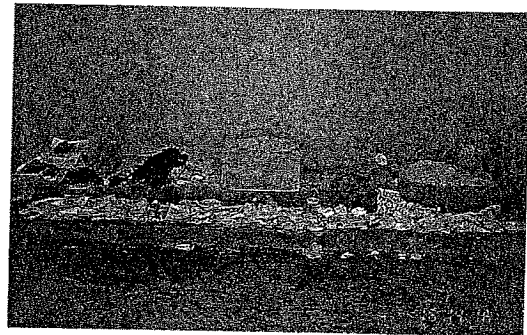
〔本永 清〕



ヤマトウ御嶽（大和御嶽）

所在地 城辺町字福里（福中）
立地・構造・由来

福中集落の背後の丘脈上、城辺町立福里公園の一角に位置する。聖域内には一本のアコウの大木がそびえ立ち、コンクリートづくりの祭祀小屋が一棟建っている。その祭祀小屋の中に、イビシ（霊石）数個、香炉二個を安置してある。イビシ数個のうち、一個はアマテイラス（天照大神）、一個は宮古の人頭税廃止運動にたずさわった西里蒲をまつる目印だという。しかし、どのイビシがそれぞれに相応するかは今のところ特定できない。



なお、ヤマトウウタキの呼称は、ここにアマテイラスをまつるからであろう。ヤマトウは広く日本本土をさす言葉である。ところで、この聖域内にはもともと祭祀小屋は建立されてなく、室内にあるイビシや香炉も、もとはアコウの大木の根もと付近に石段を設けて安置してあったという。このウタキは福里大字レベルの拝所であるため、同大字を形成する福中・福東・福西・福南・福北の五集落が共同で各種の例祭を実施している。

祭 神 ①アマテイラス②西里蒲

主な祭祀 ①一、二月頃 シカイムルム（迎えの虫払い）②三月
ルグアキ（龍宮明け）③三、四月頃 ウヤギムルム（送
りの虫払い）④同月頃 ムギブズ（麦まつり）⑤五、六
月頃 アーブズ（粟まつり）⑥八、九月頃 シカイナ
フキヤ（語義不明）⑦一〇、十一月頃 ウヤギンナフキヤ
（同上）

〔本永 清〕

ティンヌマツカニ

異 称 ウブウタキ（大御嶽）
所在地 城辺町字福里（西大道）
立地・構造・由来

ムイグス集落のやや東方、パヅキドウムリヤという小丘脈のふもとに位置する。ソウシジユ、ヤブニッケイ、モクタチバナなど木々の茂みの中に、出入口を北西に向け、二五坪ほどの祭祀場が開けているが、東の一隅にコンクリートでイビシを設置、その上にイビシ三個を安置してある。ムイグス集落内のほとんど全戸、およびそこからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女ウブザスを中心に各種の例祭をとり行なう。なお、同神女についてはムイグス・パカヤー出身の女性から神くじによって選出するという。一方、同拝所の例祭のときには隣りのウブドー集落からも参拝者が絶えないようである。

祭 神

イビシ三個のうち、中央に主神ティンヌマツカニをまつるが、向かって右側はルグの神、左側はミズヌヌスを選拝するためのものだという。

主な祭祀

①元日 ショウガツゴ②三、四月頃甲寅の日 ムギブズ③五、六月頃甲寅の日 アーブズ④六月頃 ミズダミ・パナツキダミ⑤その他

話 者 平良トミ（大正九年、大道生まれ。女性）

〔本永 清〕

ティンヌバカボー

所在地 城辺町字福里（東箕後）
立地・構造・由来

ムイグス集落の西前方、パイヌンミという丘脈のふもとに位置する。ガジユマル、モクタチバナ、ヤブニッケイなど木々の茂みの中に、出入口を南に向け、三〇坪ほどの祭祀場が開けているが、東端にある巨岩のそばにコンクリートで段状にイビシを設置してある。そのイビシの上に、イビシ二個、香炉二個を安置する。ムイグス集落内のほとんど全戸、およびそこからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女ウブザスを中心に各種の例祭をとり行なう。同神女についてはムイグス・パカヤー出身の女性から神くじによって選出するという。



祭 神

ティンヌバカボーという豊穰神をまつる。また、イビの右端にルグ（竜宮）の神、左端にミズヌヌス（水の主）を選拝するための場所を設けてあるが、両場所には線香をたてるのに火はつけけないという。

主な祭祀

①元日 ショウガツゴ②三、四月頃乙卯の日 ムギブズ③五、六月頃乙卯の日 アーブズ④六月頃 ミズダミ・パナツキダミ⑤六月乙卯の日 チツチュウダミ⑥その他、スマフサラ（五、六月頃）、イムザニツ（六月頃）の

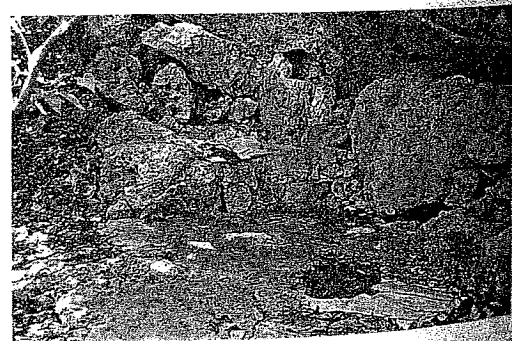
話 者 平良トミ（大正九年、大道生まれ。女性）

〔本永 清〕

ティンヌカニガマ

所在地 城辺町字福里（東箕後）
立地・構造・由来

ムイグス集落の西前方、パイヌンミという丘脈の頂上付近に位置する。巨岩のそばの斜面になったところに、野石を積みあげて三坪ほどの祭祀空間をつくつてあるが、出入口を北東に向ける。イビは巨岩の根元にコンクリートで台状に設置、その上にイビシ一個、香炉二個を安置して拝んでいる。ムイグス集落内のほとんど全戸、およびそこからのイディパイたちが同拝所に参集し、神女ウブザスを中心に各種の例祭をとり行なう。神女ウブザスについてはムイグス・パカヤー出身の女性から神くじによって選出するという。



祭 神

香炉二個のうち、向かって右側はティンヌカニガマ、左側はマツカマを拝むためのものだという。また、イビの右端にルグ（竜宮）、左端にミズヌヌス（水の主）を選拝するための場所を設けてある。なお、ミズヌヌスの上方の場所にも神が鎮座するというが、神名は不明。

主な祭祀

①元日 ショウガツゴ②三、四月頃乙巳の日 ムギブズ③五、六月頃乙巳の日 アーブズ④六月頃 ミズダミ・パナツキダミ⑤六月乙巳の日 ナツチュウダミ

話 者 平良トミ（大正九年、大道生まれ。女性）

〔本永 清〕

ムーヌパーヌカニ

所在地 城辺町字福里（東大道）
立地・構造・由来

ムイグス集落の南のはずれの地に位置する。モクタチバナの茂みの中に、出入口を南に向け、一〇坪ほどの祭祀場が開けているが、そこには東の一隅にある小岩のそばに、野石を敷き並べてイビを西向きに設置してある。イビの上に、イビシ二個を安置、イビの直前には砂を半径五〇センチメートル円状に敷いてある。そして、その上に凹みを二か所つくり、香炉の代用として



いる。ムイグス集落内のはとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女ウブザスを中心に各種の例祭をとり行なう。なお、同神女についてはムイグス・パカヤー出身の女性から神くじによって選出するという。

祭 神

ナズカニという男神。その他、ルーグ（竜宮）の神、ミズスカン（水の神）を遥拝するためのイビも設置してある。

主な祭祀

①元日 ショウガツゴ②三、四月頃甲午の日 ムギブーズ③五、六月頃甲午の日 アーブーズ④六月頃 ミズダミ・パナツキダミ⑤六月甲午の日 ナツチュウダミ⑥その他、スマクサラ（五、六月頃）、イムザニツ（六月頃）なども実施する。

話 者 平良トミ（大正九年、大道生まれ。女性）

〔本永 清〕

ウフソマ

異 称 ウブウタキ（大御嶽）
所在地 城辺町字福里（大道）
立地・構造・由来

ウブドー集落の背後の小さな丘脈上に位置する。アコウ、ガジュマル、オオバギなど木々の茂みの中に、出入口を西に向け、八坪ほどの祭祀場が開けているが、そこには北の一隅にイビシ一個、香炉二個、南の一隅にイビシ二個、香炉二個を安置して、それぞれイビとして拜んでいる。ここはウブドー集落の第一拝所だとされ、同集落内のはとんど全戸、および同集落からのイディパイたちがここに参集し、神女ウブザスを中心に各種の例祭をとり行なう習わしである。神女ウブザスについては新垣家系統の成人女性から神くじによって選出するという。

祭 神

祭祀場の北隅のイビに主神ウブンマ、他一神（神名不明）をまつる。南隅のイビにはミルクガムをまつるが、二香炉のうち一つはルーグ（竜宮）の神を遥拝するためのものだという。

主な祭祀

①三月己巳（あるいは乙巳）の日 ムギブーズ②四月己巳の日 シガツグムイ③四、五月頃己巳の日 アーブーズ④六月みずの日 ミズダミ・パナツキダミ⑤八月甲寅の日 シンカインナフカ⑥九月甲寅の日 ナカンナフキヤ⑦十一月甲寅の日 ウサギンナフキヤ

話 者 新垣シズ（大正六年、ムイゴン生まれ。女性）

〔本永 清〕



ユーヌヌス

所在地 城辺町字福里（大道）
立地・構造・由来

ウブドー集落内に位置する。アコウ、ガジュマルの太木が目立つ域内に、出入口を東に向け、五坪ほどの祭祀場が開けているが、そこには北の一隅にコンクリート製の大香炉一個を置いて拜んでいる。ここには他の拝所に見られるように、特別にイビと称する区域は設けられてない。この拝所の由来については、かつてスーダイシュ（総代主）という人が自分の屋敷の片隅にイビを設け、現在の下地町洲鎌にあるツヌジウタキの祭神ユーヌヌスを遥拝したことが始まりであると伝えている。スーダイシュとは旧福里の総代で、中村十作、城間正安、保良真牛らとともに、宮古の人頭税廃止運動にたずさわった西里蒲のことである。現在、この拝所についてはウブドー集落内のはとんど全戸が拜んでいる。

祭 神

香炉はツヌジウタキの祭神ユーヌヌス（豊穰神）を遥拝するためのものだという。

主な祭祀

①三月己巳の日 ムギブーズ②四月己巳の日 シガツグムイ③四、五月頃己巳の日 アーブーズ④六月みずの日 ミズダミ・パナツキダミ⑤八月甲寅の日 シンカインナフキヤ⑥九月甲寅の日 ナカンナフキヤ⑦十一月甲寅の日 ウサギンナフキヤ

話 者 新垣シズ（大正六年、大道生まれ。女性）

〔本永 清〕



カズヌカム（鍛冶の神）

異 称 カツチャーヌカム（鍛冶屋の神）
所在地 城辺町字福里（東大道）
立地・構造・由来

ウブドー集落のやや西前方、カツチャーンミという小丘の頂上付近に位置する。アコウ、ヤブニツケイ、アダンなど木々の生い茂る域内に、出入口を南に向け、一五坪ほどの祭祀場が開けている。北の一隅にある大岩のそばに、コンクリートでイビを二か所設置してある。向かって左側に香炉一個、右側に香炉二個置いて、それぞれ拜んでいる。ウブドー集落内のはとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、サス神女という二人を中心に各種の例祭をとり行なう。

祭 神

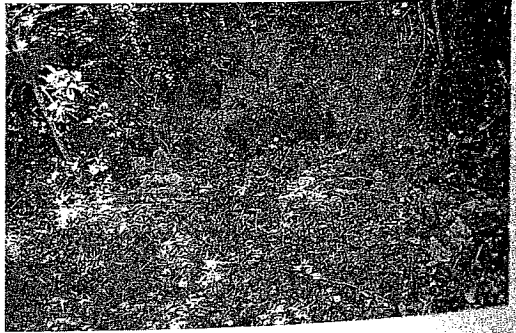
向かって左側のイビに主神カズヌカム・カニドゥヌガヤグミヌス、右側にミルクガム、ミズヌヌスの二神をそれぞれまつる。

主な祭祀

①三月己巳の日 ムギブーズ②四月己巳の日 シガツグムイ③四、五月頃己巳の日 アーブーズ④六月みずの日 ミズダミ・パナツキダミ⑤八月甲寅の日 シンカインナフキヤ⑥九月甲寅の日 ナカンナフキヤ⑦十一月甲寅の日 ウヤギンナフキヤ

話 者 新垣シズ（大正六年、大道生まれ。女性）

〔本永 清〕



クルマヌス(齒車の主)

所在 城辺町字福里(大道)
立地・構造・由来

ウブドー集落からウバリ集落へ抜ける県道沿いにある。オオバギ、モクタチバナ、ガジュマルなどの灌木が数本生える場所に、出入り口を東へ向けて、約五坪の祭祀場が開けている。その祭祀場の南隅に、コンクリートづくりの小さなイビ(祭壇)がある。イビの上には、ほぼ中央にイビシ(霊石)一個、陶製香炉一個をセットにして安置してある。これはこの拝所の主神クルマヌスをまつる目印である。また、イビの左端にも、香炉はなくイビシ一個を安置してあるが、これはルীগ(龍宮)の神を遙拝するためのものである。このウタキには神女サスが一人配置されているが、同神女の選出についてはボーンヤ(家号)系統の成人女性にその対象を限定して神くじをおろす。

祭 神

①クルマヌス。クルマとはさとうきびの圧搾機のこと。したがって、同神はその圧搾機の安全運転を祈願するために新しく設けた存在。別名、ダイキヌス(台木の主)、ジンヌス(銭の主)とも。②ルীগの神。

主な祭祀 ①三月寅の日 ムギブーズ(麦まつり) ②五月寅の日 アーブーズ(粟まつり)



〔本永 清〕

ティンティフ・チョウヌヌス(西御嶽)

異 称 サトウウタキ(里御嶽)
所在地 城辺町字福里(西長底)
立地・構造・由来

イズナガスク集落内に位置する。モクタチバナ、ヤブニツケイ、テリハボクなどの木々で囲まれた域内に、出入口を南に向け、五坪ほどの祭祀場が開けている。そこには東の一隅に野石を敷き並べてイビを設置、その上に石製香炉二個を置いて拝んでいる。しかし、ここにはもともと香炉は置いてなかったというので、現在の香炉は高江洲家の祖父が仕立てたものだという。イズナガスク集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行う習わしである。なお、現サスにはイズナガスクから他集落へ嫁いだ女性があたっている。しかし、その女性が高齢で祭祀のとき足を運んでこれないため、ここ数年間、各種の例祭は各戸から集まった主婦たちだけでイビに供物を納め、祈願してかわっているという。

祭 神

ティンティフ・チョウヌヌスを招聘してまつる。また、ここにはルীগの神を遙拝するための場所も設けてある。

主な祭祀 ①元日 ショウガツゴ(正月香) ②三月乙巳の日 ムギブーズ③五月乙巳の日 アーブーズ



〔本永 清〕

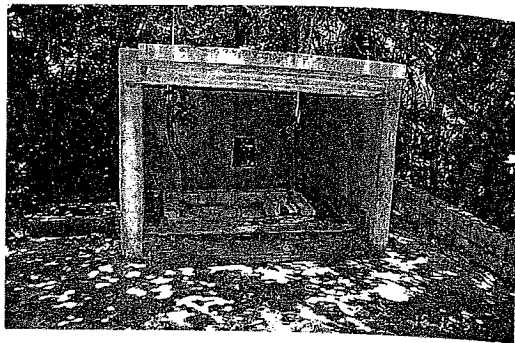
アサヌシユ御嶽(父の主御嶽)

異 称 ウアウタキ(大御嶽)
ウブムトウ(大元)
所在 城辺町字福里(東長底)
立地・構造・由来

アガイナガスクという小集落内にあり、同集落の守護神アサヌシユをまつる。オオバギ、アコウ、ヤラブなどの木々が生い茂る域内に、出入り口を南へ向けて、約十五坪ほどの祭祀場が開けている。その祭祀場の東隅に、特別に設置した小さなイビ(祭壇)があり、その上にイビシ(霊石)二個、香炉一個を安置してある。イビシ二個のうち、向かって左側がアサヌシユ、右側がルীগ(龍宮)の神を拝むためのものだという。このウタキにはかつて神女ンマザスが配置されていたが、現在はその後任が選出されていないという。

祭 神

①アサヌシユ②ルীগの神
主な祭祀 ①元日 ショウガツゴ(正月香) ②三月寅の日 ムギブーズ(麦まつり) ③四月寅の日 シガツグムイ(四月龍り)・別名 ユークイニガイ(世乞いの祈願) ④六月寅の日 アーブーズ(粟まつり) ⑤年末 トウスヌバン(年のお礼)



〔本永 清〕

タイバリ

異 称 ウアウタキ(大御嶽)
ウブムトウ(大元)
所在地 城辺町字福里(サチフネ)
立地・構造・由来

ウバリ集落のやや南前方、タイバリという小丘の頂上付近に位置する。オオバギ、ソウシジュ、ヤブニツケイなど木々の茂みの中に、出入口を北に向け、一〇坪ほどの祭祀場が開けている。南の一隅にある巨岩のそばに、コンクリートで台状にイビを設置してあるが、イビは三区画され、向かって右側にイビシ一個、香炉一個を置く。他の二区画の場所にはそうした類のものは何も置かれていない。この場所はウバリの地に初来住した人の屋敷跡で、のち拝所化したものだという。ウバリ、サディフニヤ(両集落内のほとんど全戸、および両集落からのイディパイたちがここに参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう。この拝所には二人のサスが配置されているが、両神女ともウバリ在住の女性から神くじによって選出するという。

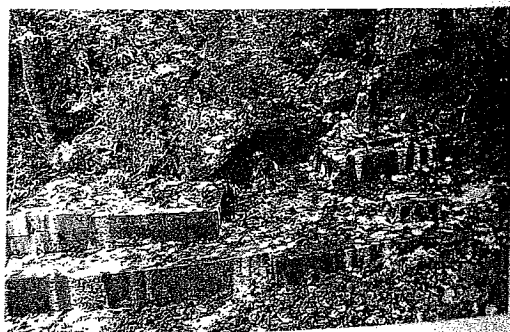
祭 神 イビに向かつて左側に主神パツマル、中央にミルクガム・スズヌス、右側にルীগ(龍宮)から招聘した神をそれぞれまつるという。

主な祭祀

①大晦日 ショウガツゴ②正月二日 ミズウサギ③三月頃巳の日 ムギブーズ④四月頃 シガツグムイ⑤五月頃巳の日 アーブーズ

話 者 西里ハル

〔本永 清〕



ウ
マ
ン
プ
ス

異称 サトウウタキ（里御嶽）
所在地 城辺町字福里（サヂフネ）
立地・構造・由来

サディフニャー集落の西のはずれの地に位置する。畑より一段と高台になったところに、階段をのぼって五坪ほどの祭祀場が開けているが、出入口を西南に向け、東の一隅にある大岩のそばにコンクリートでイビを設置、その上に香炉二個を安置して拜んでいる。

このあたりはかつて、アダン、オオバギ、ヤブニツケイなど木々の生い茂る小丘であったが、土地整理事業に伴い、現況の地形になったという。サディフニャー集落内のほとんど全戸、および同集落からのイディパイたちが同拝所に参集し、神女サスを中心に各種の例祭をとり行なう。ただし、前サスの他界後、現在に及ぶもその後任が選出されていないため、ここ数年間、各種の例祭は各戸から参集した主婦たちのみで神前に供物をそなえ、祈願しておわるという。なお、サスの選出については同サトウ・パカヤー生まれの女性たちを対象に神くじによって決めるという。

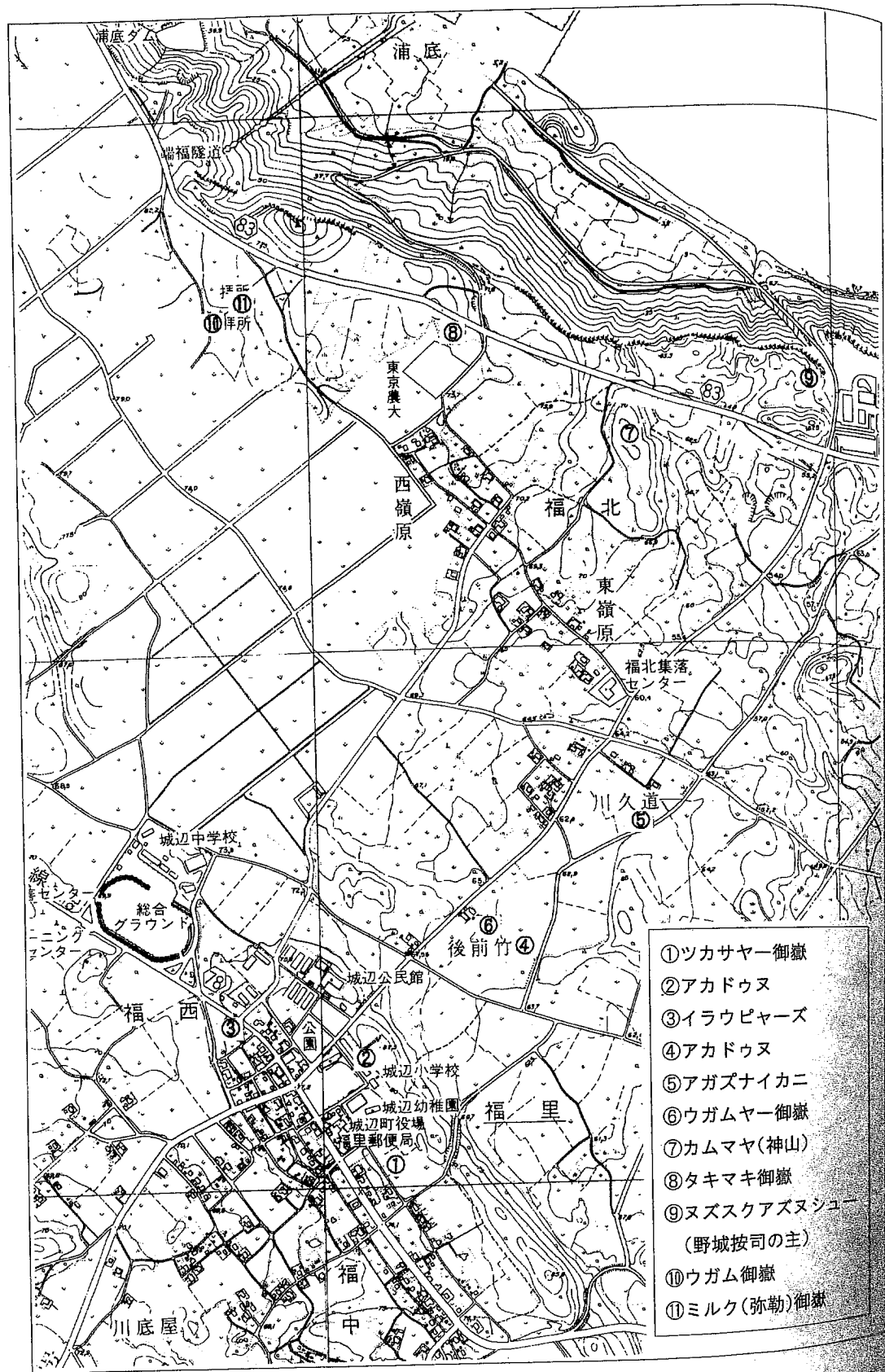
祭神 主神ウプンマの他、ルーグ（竜宮）の神を招聘してまつる。

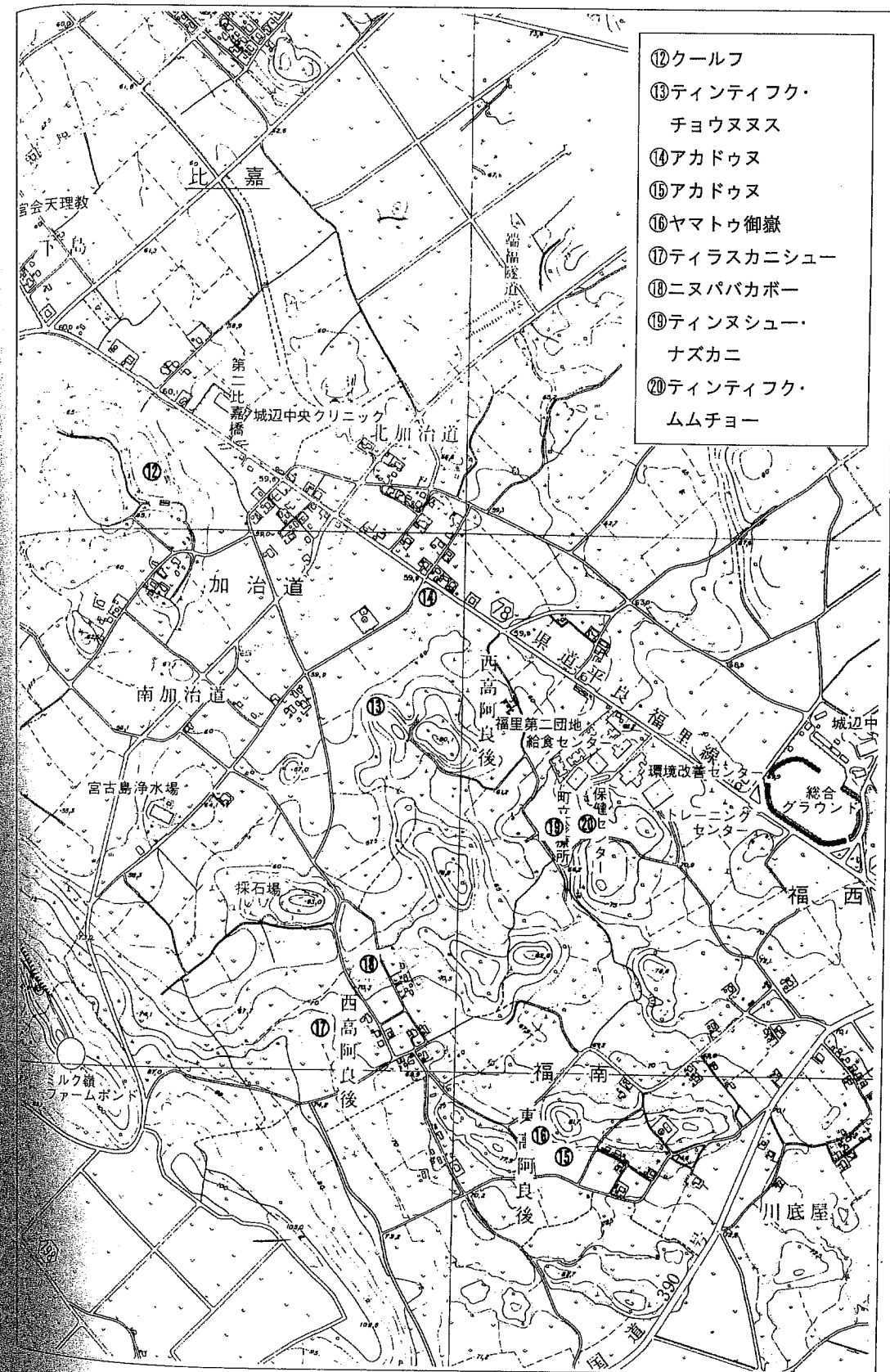
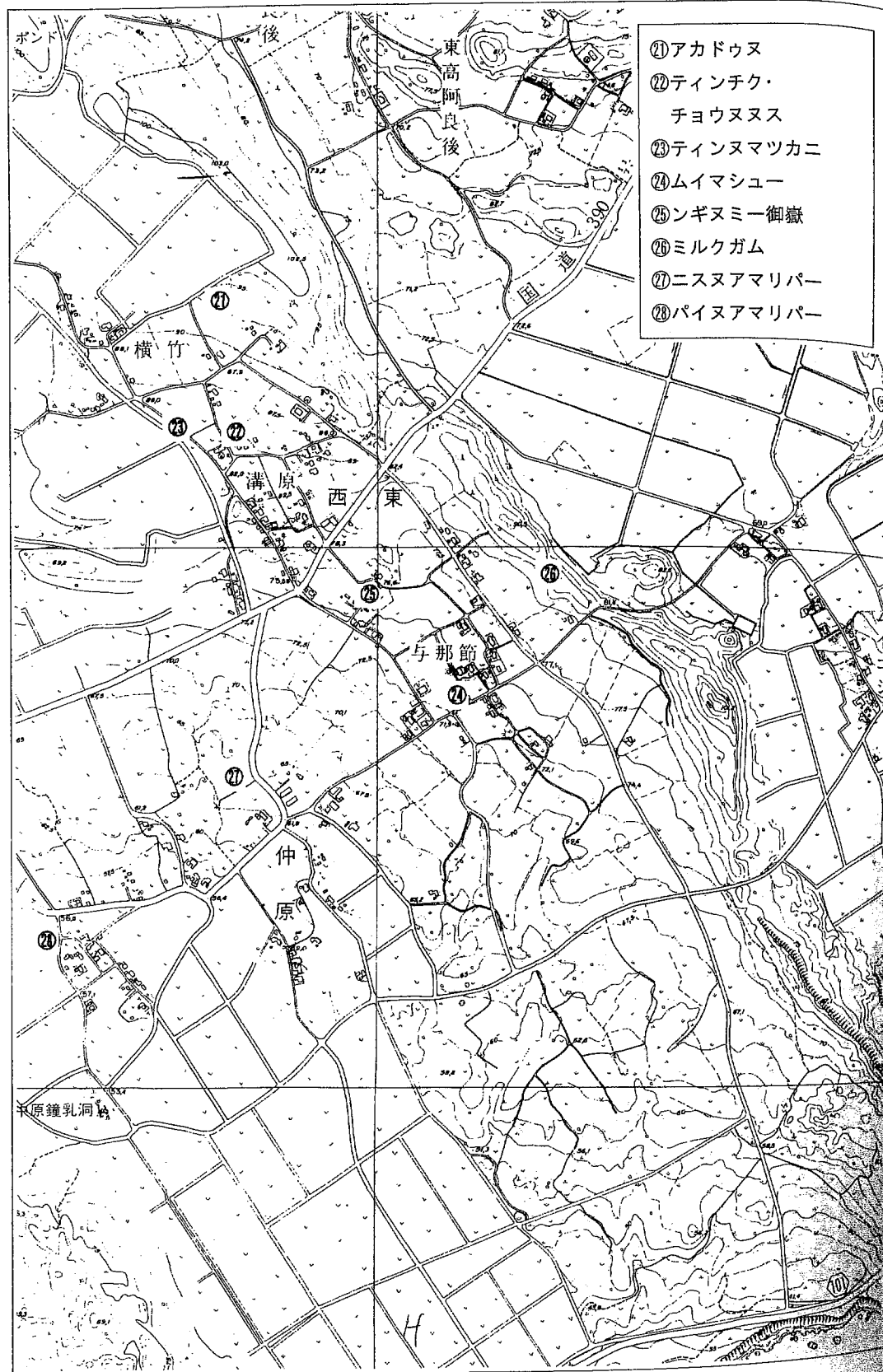
主な祭祀 ①元日 ミストウスウサギ ②三月頃酉の日 ムギブーズ ③

四月 シガツグムイ⑤五月頃酉の日 アーブーズ。⑥その他

話者 西里ハル

〔本永清〕





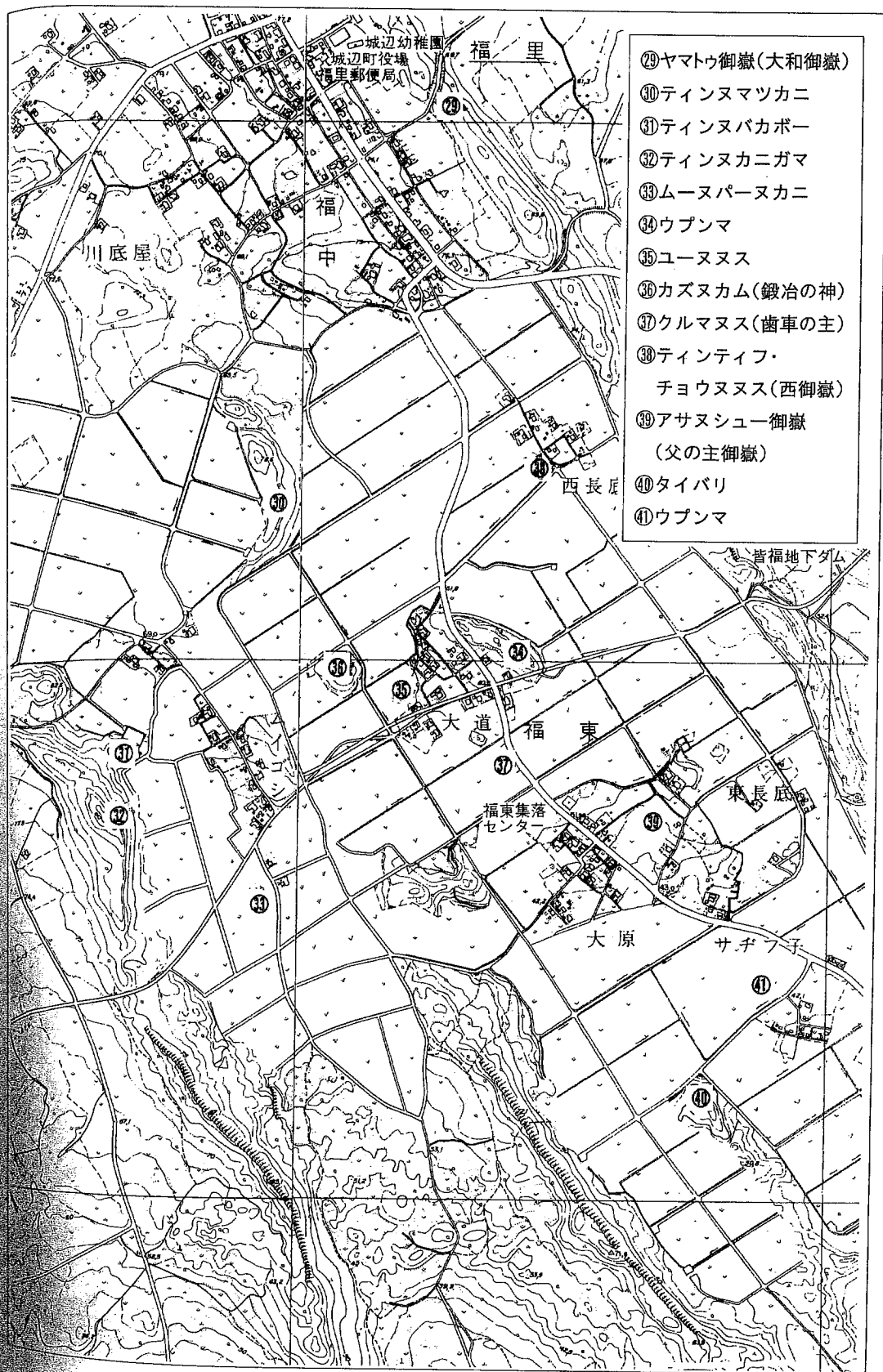
福嶺学区の御嶽（解説）

城辺町の福嶺学区は字保良（保良集落・七又集落・吉野集落・旧平安名村周辺）と字新城（新城集落・皆福集落）の両字から構成されている。近世時代、この地域には保良村・新城村・平安名村が営まれ、砂川間切に属していた。

一七二七年編纂の『雍正旧記』は、保良村の村立について「保良村は往古にも村があったが滅びて野辺になっていた処、一七一六年（康熙五十五年）に今の保良村を組み立てた」と記している。平安名村については「宮古八重山両島絵図帳」（一六四七年）に「おろか間切・高武百拾八石八斗八勺八才 ひやくな村」と見え、『雍正旧記』には「御蔵元より辰巳ノ小間（南東）ニ當ル、中間四里武拾七町三拾式間（約一八・六キロメートル）、保良村より宿次式拾式丁三拾九間（約二・四七キロメートル）」と記されている。この平安名村は「子年飢饉」（一八五二年）で多くの死者を出して人口が激減し、一八六五年以降、隣りの保良村に吸収合併されたようである。新城村の村立については定かではないが、『御当国御高並諸上納里積記』の「宮古嶋村位定」に「布石上・新城村」の名が見え、「乾隆八年（一七四三）内御調願済」と記されていることから、一七四三年頃に新城村の村立はなされたものと思料される。

この保良村・新城村は一九〇八（明治四十一年）年の特別町村制で城辺村に組み込まれ、更に一九四七（昭和二十二年）年七月一日、城辺村の町昇格に伴って、城辺町字保良・字新城となった。字保良・字新城が福嶺学区として一校区に編成されたのは一九一八（大正七）年のことである。一九九〇（明治二十三年）年三月十八日に城辺に福里簡易小学校が創設された。同小学校は二年後に福里尋常小学校と改称。当初の校区は福里・保良・新城・比嘉・長間・西里添の六区で城辺学区の編成がなされた。その後、

- ②⑨ヤマトウ御嶽（大和御嶽）
- ③⑩ティンヌマツカニ
- ③⑪ティンヌバカボー
- ③⑫ティンヌカニガマ
- ③⑬ムーヌパーヌカニ
- ③⑭ウブンマ
- ③⑮ユーヌヌス
- ③⑯カズヌカム（鍛冶の神）
- ③⑰クルマヌス（歯車の主）
- ③⑱ティンティフ・
- チオヌヌス（西御嶽）
- ③⑲アサヌシュー御嶽
- （父の主御嶽）
- ④⑩タイバリ
- ④⑪ウブンマ



一八九九年には長間分教場、一九〇二年には保良分教場、一九一一年には新城に学習所が設置され、更に一九一八年四月一日には保良分教場が福里尋常小学校として本校から分離独立、これに伴って字保良、字新城が一校区にまとめられ福嶺学区となった。今回の福嶺学区内の御嶽調査では総計二十六か所の御嶽が確認された。内、保良字では保良集落で四か所、七又集落で四か所、旧平安名村一帯で六か所、吉野集落で二か所、新城字では新城集落で六か所、皆福集落で四か所の御嶽が所在分布している。御嶽の形態では、鳥居と籠座を有する御嶽が四か所（保良のウタツチャー御嶽、新城のサトウヌ御嶽・パイヌ御嶽、皆福のタラマ御嶽）、イビに祠か籠座を設けてある御嶽が四か所（保良のカムトウ・タキナカ御嶽・カムトウ・イガラムトウ）、その他はイビのみ或いは祭壇を設け周囲を石垣や雑木で囲った形態の御嶽である。

これらの御嶽の内、保良集落のタキナカ御嶽では二月のクムズニガイ、カムトウでは二月のプーズ、カムトウでは三月のプーズ、ウタツチャー御嶽では四月のクムズニガイ・八月のプーズ、七又集落のムトウ御嶽では二月・四月のクムズニガイ、パイヌ御嶽では三月・六月の麦栗プーズ、池間御嶽では四月のプーズ、吉野集落のマダマ御嶽では四月のプーズ、バズミガー御嶽では六月の麦栗プーズ、旧平安名村一帯のムトウズマ御嶽・イガラムトウでは二月・四月のクムズニガイ、ミヤードウムトウでは三月のプーズ、ピヤウナ御嶽では九月の祈願など。新城集落のシナカガ御嶽・パイヌ御嶽では一月・十月の祈願、パイヌ御嶽・ニスヌ御嶽では四月のクムズニガイ、マキナカ御嶽では八月の麦栗プーズ、皆福集落のウブジ御嶽・ティンヌマツカマ御嶽・ニスパンマティダ御嶽では三月の麦栗プーズ・六月の麦栗プーズ、タラマ御嶽では三月の麦栗プーズなど、種々の祭祀行事が執り行われている。

〔砂川玄正〕

ムトウ御嶽

異称 クヤガマンマ御嶽
所在地 城辺町七又牧中
立地・構造・由来

七又集落の東側に位置し、集落に隣在する。集落東方保良集落へ向かう道路及び嶺間ガ―へ向う三叉路の南側を御嶽への通用路が畑に添って造成されている。その小径を東へ約二〇メートル行つて北側。アダンに混つて広葉樹があり、岩や石だらけの低い台地にある。祈願所は東（海）向きにこしらえてあり、岩の横に石を積んだだけの質素なつくり。傾斜地であるが、内に二畳ほどの敷地があり周囲を石でかこつてある。

昔、七又一帯は牧畜が盛んであった。そのため「ぼくろう」たちはここに集まり、牛や馬を買い求めていた。クヤガマンマはハカリも用いずに牛や馬の生体斤量を当てていたので牛や馬の主と買い手からいつも頼まれていたという。クヤガマンマは知恵者で働き者だったと伝えられ、ムトウ御嶽でまつられている。

祭 神 アオガマクマガマローグヌス
主な祭祀 二月グムイ、四月グムイの他年一回牛馬の健康安全祈願
話 者 砂川タケ（城辺町七又一六一一一）他
参考文献 仲間井佐六著『宮古お嶽集』



〔下地博盛〕

池間御嶽

所在地 城辺町字保良七又集落内北西
立地・構造・由来

七又集落北西部入口より約百メートル、道路南側に位置する。北側が入口となっており、ガジュマルが枝を広げている。岩のかたわらに北向きにセメントづくりの供物段が造られており、四畳ほどの広さの土面がある。

池間島の女性が七又の平良家に嫁ぎ、その後まつたと言われる。七又にある池間姓の人々は、池間島ゆかりの子孫でもあると言われており、池間御嶽は人の運、生命を守る御嶽としてまつられている。

祭 神 池間のウハルズ御嶽のウラセリクタメナフの真主の分神、イキヤマウプアルズウンキヤヌス
主な祭祀 四月プーイ
話 者 砂川タケ（七又一六一一一）
参考文献 仲間井佐六著『宮古お嶽集』



〔下地博盛〕

ナイカニ御嶽

所在地 城辺町字保良（七又）
立地・構造・由来

七又集落の西方、国道沿い西側に位置する。広い範囲に樹木、アダンが密生し、中央の通路を十メートル程くぐって奥にコンクリート造りの祭祀場が北向きにしつらえられている。拝所全体が低い石垣で囲われ、薄暗い。

ナイカニ御嶽は七又集落で最も崇拝されている拝所で隣接の皆福、福嶺も含め時には平良市や沖繩本島から七又出身者たちが御願に来ることもある。ナイカニ御嶽の南西約五〇メートルほどにウンヌヤ―と呼ばれる洞穴があり、夜中、人家と間違ひ、鬼に捕われた後、逃げだした婦人がナイカニ御嶽に救いを求め、難を逃れた伝説が残っている。

遠い昔、保良に住む婦人が平良で布の貢納検分に時間がかり、帰路は夜になってしまった。闇夜をたどる中、灯りを見つけた婦人はホツとするとともに、休息と人恋しさにその灯りをたずね「サリエス」（ごめんください）と声を掛けた。中から出て来たのは鬼で婦人は足がすくんでしまった。鬼は婦人の中に入れバランズマミ（孕んだ落花生、妊婦）がやって来たといつて喜んだ。鬼の家では、カマドに大鍋がのせられ、何か煮ている最中だった。鬼は婦人に外で用を足してくる間カマドの薪をきらさないよう言いつけて外へ出た。婦人は逃げ出



すことができなかった。鍋はフタを開けないように言われたが、彼女はおそるおそるフタを取り鍋を覗いた。煮物は人の肉であった。女性が身体に施すピスツキ（針突）跡のある人体の一部が見えた。用を済ませた鬼が戻ると婦人は自分も用が足したので外にある便所に行かせてほしいと頼んだ。鬼はしぶしぶ許したが、それではと縄を婦人の足に結び、その先を掴むと外に出ることを許した。婦人はこの機会を逃せば助かる途はなくなってしまうことから思案をめぐらした。鬼は苛立ったかのように「ンニヤダナ」と言つて縄をグイッと引く張る。その度に「まだ」、「もう少し」と返事しながら足の縄を解き、近くのサジフにそれを結ぶと一目散に逃げた。返事がなくなったことであわてて外に出て来た鬼は便所に婦人の姿がないのを知ると暗闇のなかで彼女を追った。鬼の棲家からどうにか逃げ出した婦人は転がるように近くのナイカニ御嶽に逃げ込み、助けを求めた。鬼はそこら中を駆け巡り、婦人の姿がないことからナイカニ御嶽に飛ぶようにやって来て、御嶽の神に「女を出せ」と迫った。神は婦人を自分の着物の中に隠し通し、無事逃がしてやることのできたという。

祭 神 ナイカニムムチョーウパスヌスとザラトヌス及びウマティダチョーヌヌスの三神。代表神はアサ（父）ナイカニの名で呼ばれている。アサナイカニは帳の主。アサに対応するフアナイカニ御嶽も七又にはある。
主な祭祀 ツー（旧三月）のトラヌス（寅の日）にムズプーズ、アープーズがあり、旧六月の寅の日にも同様の祭祀がされる。
話 者 砂川タケ（城辺町保良七又一六一一一）

〔下地博盛〕

トウユムシユウ御嶽

所在地 城辺町字保良
立地・構造・由来

七又集落北西、ナガアカニ坂（国道三九〇号線）の西方約八〇メートルの嶺の頂上付近に位置する。東側より入口がありアダン等が両側にある。傾斜地を登ると自然石を利用したイビが二カ所にある。立木は少なく、ギンネム等が自生している。

以前、七又集落は保良集落の一部としてすべての行事を保良とともに行なっていた。だが、七又が独立した集落として機能した頃からこのような一体での催しは途絶えた。昭和五〇年代のはじめ頃、トウユムシユウ御嶽の神々から七又集落のツカサたちにひとつの知らせがあった。それは遠い昔から一切の行事を同集落として行なってきた保良集落との深い絆が失なわれたことへの神々のこたわりであったとされる。七又集落のツカサたちは、保良との関係をつなぎ置くため、トウユムシユウ御嶽の三神とともに保良のイガラ御嶽よりの分神イガラヌスをとにも祭ることにした。

祭 神 トウユムシユ、ユンヌヌス、ティンヌヌス、イガラヌス
主な祭祀 六十一の還暦願い、八十八の御願
話 者 砂川タケ（城辺町七又一六一一）



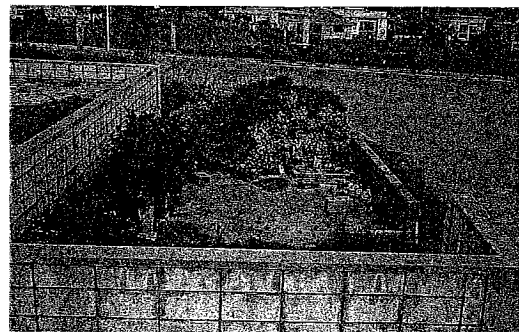
〔下地博盛〕

ウフジームトウ

所在地 皆福公民館敷地東側に隣接
立地・構造・由来

皆福公民館敷地を仕切る東側塀にくつつくようにウフジ（大岩）があり、その岩のまわりをさらに拝所としてブロックで囲ってある。明治、大正の頃は旧八月十五日に盛大な御願が行われたと伝えられる。（御嶽が公民館の敷地内にあったことから奉納の料理、人々のクイチャー、草競馬まで催された。）祭られているのが水の神であることから集落をあげての御願となり、雨は十日越しにほどよく降ったと伝えられる。旧八月十五日の夜のクイチャーは現在でも行われ、近在には雨乞いの御嶽として有名だが雨乞いに限らず、集落全体の無病息災、車ダスキ（交通安全）、機械ダスキ（機器安全）等広く御願がされる。昔は各家庭から供物が出され賑わったが近年は簡素化されている。早ばつが続くと現在でも集落の司を立て、雨乞いの御願が行われる。

祭 神 天ノマツガニ、ウブユヌスヌルグマツカマ
主な祭祀 旧八月十五日のウブユダミ、三月のムズプーイ、六月のアープーイ
話 者 松原ボナ（城辺町皆福三九六）



〔下地博盛〕

タムマ御嶽

所在地 城辺町皆福皆粉地
立地・構造・由来

皆福公民館から福嶺小中学校向け約百メートル程行ったところに位置する。入口には鳥居が立ち、ガジユマル、テリハボク等が繁っている。鳥居の内側にコンクリート造りの燈籠が左右対で置いてあり、中は広い。北向きにコンクリート造りで屋根つきの祭壇がある。



〔下地博盛〕

ニヌパンマティダ御嶽

所在地 城辺町皆福皆粉地
立地・構造・由来

皆福公民館前から城辺町役場に向け、国道を約百メートルほど行ったところ、道路に面した北側に位置する。歩道部から狭く急な階段が設けられている。四、五メートル奥に広葉樹が包み込むように祭祀所があり、石を野面積みにしてしつらえてある。北向き。



〔下地博盛〕

昔、多良間島に津波が押し寄せた。その時、ある年寄りの女がマツガニに多良間島に津波があと七回あがるので宮古へ行くように予言した。マツガニは驚き、家族六名を舟に乘せて宮古島に渡った。宮古に渡ったマツガニ一家は最初パイナガマ付近に着き、その後砂川村、最後は皆福に行き、ここを永住の地と定めて家を建て富貴の身となり、子孫も繁昌した。居を皆福に定めたことについては、家禽の鶏をつがいでもっており、どの地でも鳴くことのなかった鶏が皆福では元氣よく、二度も鳴いたことによると言われる。御嶽はその家敷跡といわれている。

祭 神 マツガニ

主な祭祀 三月のヒツの日のムギ、アワプーズ
話 者 松原ボナ（城辺町皆福三九六）

〔下地博盛〕

大正六年頃、当時の皆福のツカサ、ウブミーンマが御願をし、平良の崎山集落にあるニヌパンマティダ御嶽から分神としての霊石を持ち帰って祀った。以来霊験あらたかな御嶽と言われ、病い等の治ゆに効果があるとされ、また子宝を授かるとされている。この御嶽は人助けの祈願所としても知られ、御願をされた子は良い子に育つとされている。また選挙時の祈願もされている。

祭 神 ニヌパンマティダ

主な祭祀 三月のムギプーズ、六月のアワプーズ
話 者 松原ボナ（城辺町皆福三九六）

〔下地博盛〕

ティンヌマツカマ御嶽

所在地 城辺町皆福
立地・構造・由来

皆粉地集落内西方に位置し、公民館から北西方向約二百メートル。民家に近く、畑のかたわらにこんもりとした緑におおわれている。西側から入口があるが見分けにくい。御嶽の中は八畳ほどの広さで空地状になっており、木の枝がかぶさっている。南側には大きな岩があり、空地は低い石で囲われている。北西側に自然石を並べただけの祈願所が設けられている。入ってみてはじめて御嶽であることがわかる。



祭 神 ティンヌマツカマ、ナリーマツカニ
主な祭祀 旧三月のムズブーイ、旧六月のアーブーイ
話 者 松原ボナ（城辺町皆福三九六）

〔下地博盛〕

パイヌ御嶽

所在地 城辺町字新城（西皆粉地）
立地・構造・由来

新城集落から南西、百メートルほどに位置する。北側から御嶽への道路があり、西へ折れるとセメント造りの鳥居が立っている。鳥居から西へ約四〇メートルほど行ったところにコンクリート造りの四〇五坪ほどの建物があり、集落の祈願者たちのこもり所になっている。拝所内南西にコンクリート製の祠があり、イビが設けられている。



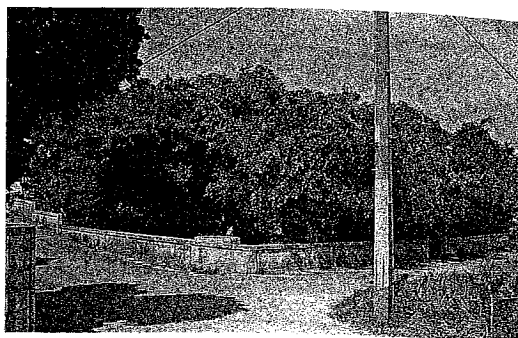
また近くに南東向きにブロックを並べた小さな祭壇も備えられている。パイヌ御嶽は新城集落が行う祈願のうちでもっとも重要視されており、泊り込んでのお願は現在この御嶽だけで続けられている。
祭 神 マゾウヌスマツカマ（門の神）。テンブクマクガマ（イビシヌスの神）。カニメガ、カンドヌ（水の神）
主な祭祀 旧四月グムイ。四月のツツの丑の日から卯の日までの三日間、泊り込みでお願を行う。
話 者 山城トヨ（城辺町字新城七六五）

〔下地博盛〕

ンナカガー御嶽

所在地 城辺町字新城集落内
立地・構造・由来

新城集落のほぼ中央にあり、一家数ほどの広さを有している。南側道路沿いに門がある。東側を除いて三方をブロックで囲われ、なかにはガジュマル等の巨木が繁る。中央東よりにブロックでしつらえた祭祀場があり、石とコンクリートで造られたイビが西に向けて置かれている。



また、中央北側にはコンクリート造りの広い階段があり、奥に六畳ほどのコンクリート造りの広間がある。広間北側に祭壇が設けてある。左手には記念碑があり、「御大典記念碑」の文字。敷地内南西に周囲を高くした井戸がある。この井戸がンナカガーと呼ばれる。新城集落の村建てと深い関係を有しており、いわばこの井戸とのつながりで村が成立したと伝えられる。昔は生まれたばかりの赤ちゃんのための四日水、八日水はこの井戸から汲み上げて使った。

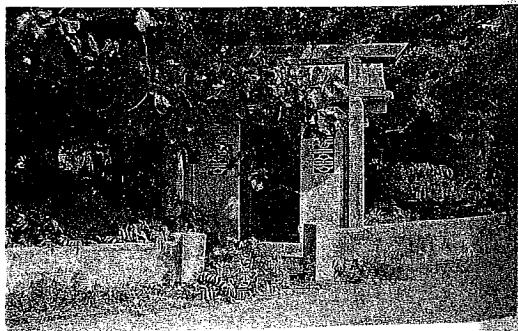
祭 神 ニスヤバカボウ（男神）、ニスヤニガマラ（女神）
主な祭祀 旧一月と十月の壬丑の日の祭祀
話 者 山城トヨ（城辺町字新城七六五）

〔下地博盛〕

サトウヌ御嶽

所在地 城辺町字新城集落内
立地・構造・由来

新城集落内西方に位置する。道路沿いにあり北西から入る。コンクリート造りの鳥居があり、同様にコンクリート造りで三畳ほどの立派な屋根つきの拝所がある。拝所の奥、東側に隣接して大きなガジュマルの根元に祠が設けられている。イビは北面向き、御嶽は低いブロック塀で囲われ、敷地は広い。
祭 神 帳の主カンドヌ（男神）
ブナガマ（女性神）



主な祭祀 旧八月ツツの午の日の祈願（豊年祈願）
話 者 山城トヨ（城辺町字新城七六五）

〔下地博盛〕

ニスヌ御嶽

所在地 城辺町字新城（北野加那）
立地・構造・由来

新城集落の北西五百メートル。新城ビーチへの道路よりもう一つ西寄りの竊跡から北へ抜ける道路近くにあり、東側から通路がある。入口にデイゴ、近くに巨大なフクギがあり、昼なお薄暗い。南から御嶽への入口があり、北に向かつてゆるやかに登る。祭壇は北向きで、巨大な自然岩を背後に石積み、の段が自然石を利用して設けられている。イビ等は特になく、段状の石積みがその役目をしている。入口近く南西にもう一カ所拝所があり、低い石積みとともに石で造られたイビが南西向きに設置されている。ニスヌ御嶽は古くからあり、四月グムイが続いているが、泊り込みは現在行われていない。

祭 神 ウブドゥヌガン（北向き）、ヌボスクノミヤウニヌス（南向き）

主な祭祀 四月グムイ、旧四月丑の日から始め、寅、卯の日でまんさん、近年は一日で終る。

話 者 山城トヨ（城辺町字新城七六五）



〔下地博盛〕

マキナカ御嶽

所在地 城辺町字新城（大牧）
立地・構造・由来

新城集落北方、新城ビーチより西へ約一キロほどの崖近くにある。後背地は嶺状に小高い。嶺の下、南側入口はアダゲが繁り人一人通るのがやっと。自然の岩や石を多く利用している。ブロックを階段状に四段ほど積み、その上にイビが設けてある。下は三畳ほどのセメント敷き。木がうっそうと繁る。左手にもう一つ自然石を利用したイビがある。

祭 神 天照大神。位置を変えて平良市のツカサヤ神（ビドゥイティン）、池間島のウパルズ神、野城お嶽の神、新城アイキヤ御嶽の神などそれぞれの分神を祀る。

主な祭祀 旧八月の甲午の日のムギブイ、アーブイ、戦時中は出征兵士の武運長久も祈願された。

話 者 山城トヨ（城辺町字新城七六五）

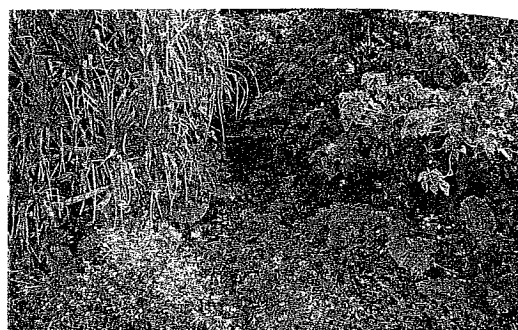


〔下地博盛〕

フイキヤ御嶽

所在地 城辺町字新城（荒牛）
立地・構造・由来

新城集落の北方、新城ビーチに下りかけた左手（西側）五〇メートルほどに湧水があり、コンクリート壁の溜池が形成されている。溜池手前左の崖面に面して自然の岩肌を利用したコンクリート製の小さな屋根付き祠がある。入口はアダゲの木と広葉樹があり、雑草に覆われているため見つけにくい。祠にはイビが置かれ、南側（新城集落）に向かう。古くから新城の人々が海への行き帰りに、そして近くでの農耕の合間に人々は勿論、農耕馬の飲料用にと利用されてきた。このお嶽の祭神は一方にウンキヤヌスとしての性格も有していて、人にフー（富）、フツカタ（食べ物に恵まれる）を与える神としても知られる。人の運命、生活に富と貧を授けるとされ、集落の家をそれぞれ訪れるという。そのため、新城の人々は日が暮れてから戸外に向けて不用意に雑排水をまき捨てたり、ゴミを掃き出すなどはいましめられている。



バイミガー御嶽

所在地 城辺町吉野西割目
立地・構造・由来

吉野集落の北西五百メートルほどのところ、農道に面し、農地に囲まれている。南側に入口があり、フクギ、セリダンを含めた木々が一反ほどの広さにこんもりと繁っている。入口は広く、その奥十メートルほどにガジュマルが生え、その根元に自然石とブロックを並べた祈願所がある。周辺は数十人が座れる広さの土面になっており、よく手入れされている。東側五メートルほどのところに一段と簡素な祈願所があり、東向きに配置されている。

この一帯は正の頃まで人家が散在していたが、その後、それぞれより人口集中の進む各集落へと移転して行った。バイミガー御嶽近くから現在の集落に転居。移転先は吉野集落のみならず遠く長北あたりにもまで及ぶといわれる。その頃、大事にされた井戸の神がまつられているが、井戸跡は確認できない。

祭 神 ウブドゥヌヌマティダ（北側）、アサヌシユヤマトウガン、フアマルザヌカン

主な祭祀 旧六月の寅、卯、辰の日のうちいずれか一日。ムギ、アーブズの他すべてのユヌタミを祈願

話 者 根間タケ（城辺町吉野九一九一二）



〔下地博盛〕

祭 神 ピギタラユヌヌス、ユータラ（男神）、ブナズ（女神）
リユグタミガ（女神）
主な祭祀 旧十月壬丑の日。豊作祈願
話 者 山城トヨ（城辺町字新城七六五）

〔下地博盛〕

カンカムトウ

異称 キカイザームトウ

所在地 城辺町字保良(明日川)

立地・構造・由来

吉野集落から保良へ向かう県道ぞい保良集落近くに上水道用の貯水タンクが設置されている。そのタンクより約百メートル北東方向、土地改良事業の済んだ畑地に雑木の繁った一角が残されている。



南東側が入口になっており六、七メートル奥の北東部にイビがある。自然石を積み並べた質素なつくり。南向きにしつらえられている。その左側には野面積みの石囲いが残されており、南側と北東部の出入りに利用したと思われる通用口がある。木々におおわれ、ツタや枯れ葉のせいで見えにくい。

このムトウに祭られているのは機械、いわゆる、動力等の安全をつかさどる神と言われている。

祭 神 カンドウヌヤマトガン

主な祭祀 旧二月、初の巳の日のブース

話 者 新城光枝(城辺町字保良五四六一二)

〔下地博盛〕

ウタツチャー御嶽

所在地 城辺町字保良村内

立地・構造・由来

保良集落内西方、吉野集落に向う県道沿いに位置する。南側から入口に続く小径が設けられており、建物前には鳥居が立っている。内部は北に向って供物台、イビ等が設置されており、昭和四五年(一九七二年)に改築された。

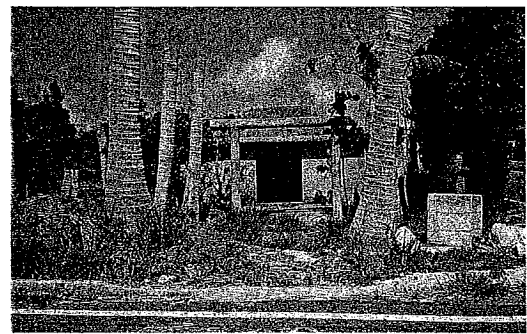
昔、大津波によって保良元島から今の保良に住民が移住したとき、友利邑の友利ペーチンという人が保良にやってきた。その頃、保良元島からやってきたカンドウヌという人は頭がよく、友利ペーチンと協力して移住者をいたわり、邑をつくったといわれる。その後カンドウヌは善政をいたため住民から尊敬され、バズミ(割目)今の吉野)の人たちからも親のようにしたわれていた。

死後、むらの人たちは彼の徳をしたって御嶽をつくり、拝むようになった。

祭 神 スマヌヌスカンドウヌ

主な祭祀 旧四月籠り、旧八月ブーイ

参考文献 仲間井佐六著『宮古お嶽集』



〔下地博盛〕

タキナカ御嶽

所在地 城辺町字保良(東方)

立地・構造・由来

タキナカ御嶽は保良集落東方、タキナカヤマの北西部に位置し、うっそうと繁るフクギ群の内にまつられている。西方入口から入るとすぐに屋根のなくなった籠り屋があり、司たちが今でも宿泊に使う。ひととき大きなフクギの根元に東向きに祭場がしつらえられている。



御嶽は保良集落発祥の地といわれ、

集落の守護神として崇められている。御嶽を包括するタキナカヤマの頂上には遠見台があったと言われ、タキナカ世又主の伝説が残っている。ムイゴシ集落南側に保良タキナカ嶺と対峙するフチャヌミと呼ばれる嶺があった。ある日、ムイゴシの豊見親とタキナカ世又主は弓試合を行うことになり、相対する頂きから双方射合うこととした。フチャヌミの豊見親が放った矢は勢いよくタキナカ嶺上空を通り抜けた。タキナカ世又主の放った矢は威力がなく中間の、マナタ畑に落ち、ムイゴシ豊見親の勝利になったと伝えられている。

祭 神 ウプヌーヌスアガステイダカンドノ(弓ヌ主)

主な祭祀 旧二月はじめの卯の日、一夜籠りで御願を行う。

参考文献 松川寛良著『保良風俗史』

〔下地博盛〕

カームトウ

所在地 城辺町字保良(東方)

立地・構造・由来

保良ガービーチの休憩舎南方約五〇メートルほどのところに赤瓦屋根の建物がある。以前は野づら積み石積みであったが、平成二年の「保良川ビーチ整備」に伴って新たに建て直された。建物は北側にドアがあり、中は四畳ほどの広さ。海に向けて窓が造られており、セメント造りによるイビが設置されている。

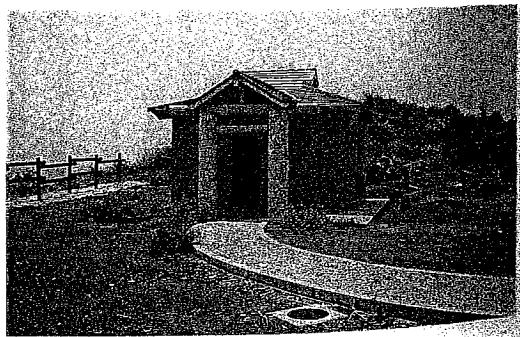
保良の人々が保良ガー湧水を生活に利用してきた昔から祈願されている。このカームトウとのつながりで湧水近く、現在も残っているイミガー(洗濯ガー)の上の広場にももう一カ所祈願所がある。ここは自然石をわずかに積み上げて設けられた質素な祈願所である。

祭 神 ミズヌヌスルグガン、湧水近くはミズフツヌルグガン

主な祭祀 旧三月の辰の日のブース

話 者 新城光枝(城辺町字保良五四六一二)

〔下地博盛〕



マダマ御嶽

所在地 城辺町吉野大牧
立地・構造・由来

吉野通称バラ海岸丘陵を海岸入口から四百メートルほど西方、同丘陵にある。アダン等の木を切り開いた斜面を南側から登り、二〇メートルほどの頂上近くに祈願所がある。もう少し登ると頂上があり、台地状に広がる四〇メートルほど向こうに崖がある。一面に茅、アダン、雑木、岩等が低く広がっている。拝所は横に広がる自然岩に向けて石を積みあげイビにしている。岩には木がからまって濃い陰をつくり、十人ほどが座れる。祈願所は北（海）向きに設けられており、岩の中段あたりにも供え物の跡がある。木や草に囲まれているが、祈願所の東側、南東側は浅い崖状になっている。この御嶽は航海安全、交通等、所謂旅先での加護を司どるといわれる。

祭 神 マダマツツカマ、ティンヌカニガマ
主な祭祀 旧四月、最初の寅の日のブーズ
話 者 根間タケ（城辺町吉野九一九―二二）



〔下地博盛〕

平安名御嶽

異称 ウブヤーナカ元
所在地 城辺町字保良（平安名前原）
立地・構造・由来

保良集落から東平安名崎向け約二キロ、東平安名崎が一望できるトウブリ坂から北方二〇〇メートルほどに位置する。周囲を石積みでほぼ正方形に囲われ、南側から入る。面積は一・五坪ほどで北向きに供物石が置いてあり、茅が繁茂している。昔、この近隣には明治の初期頃まで平安名村があったが、保良と割目（現・吉野）に移住した。最後の移住者となった川満家は、大正十二年まで居住したと伝えられる。

一帯には家敷跡とおぼしき石垣とフクギ、ミヤールカ等が数多く残され、古い貝がら、陶器類の破片も少なくなかった。平安名御嶽は村の創始者が居住していた屋敷の一角と言われ、一反ほどの広い敷地は西北に高い石積みをめぐらし、防風用と思われる大きなフクギが包んでいた。

御嶽は現在も昔日のままだが、周囲は土地改良により風景は一変している。

祭 神 不明、村の創始者と言われる。

主な祭祀 旧暦九月未の日

参考文献 仲間井佐六著『宮古お嶽集』



〔下地博盛〕

ムトウスマ御嶽（元島）

所在地 城辺町字保良平安名
立地・構造・由来

平安名崎基部から吉野集落へ向う海沿いの道路約一キロほどの所に保良元島と呼ばれる集落遺跡があり、その遺跡の北方断がい近くに御嶽がある。集落遺跡を見おろすかたちで東西隣り合わせに拝所がしつらえられ二神がまつられている。後背は高く切りたった絶壁状で、地上部近くで反り返り、季節風、北風は上空にはね返り、集落跡地への直接的な風の影響を和らげている。

御嶽から南側集落跡地へはゆるやかな傾斜が続き、冬は日当たりが良く、夏は南からの涼風を受けるのに適している。

御嶽はソテツ、茅を分け入った繁みの奥にあり、元島の守り神であると伝えられている。

この集落遺跡は、現在の保良、保良以前に存在した平安名村、それよりるか以前の崎山集落よりも古いとされ、住民がどこに移動したのかも明らかではない。

祭 神 御嶽東側に祭られているのが元島オブツ主、ツカサガンパ

ツヌヌス、御嶽西側に祭られているのが邑津丸又神ウンツ

ヌ、両神は「富又主」（運命をつかさどる神）

参考文献 松川寛良著『保良風俗史』



〔下地博盛〕

バカボウ御嶽

所在地 城辺町字保良（平安名）
立地・構造・由来

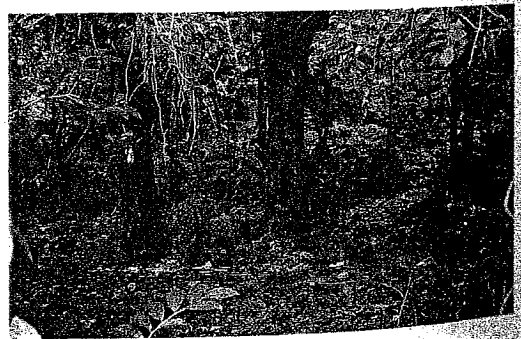
東平安名崎付け根の海岸から西へ約四百メートルの小高い林に位置する。フクギが繁っていて入口は見つけ難い。樹齢百年以上と推測されるフクギが十数本あり、昼なお薄暗い。中央の樹木の根元に南向きに祭場がこしらえられている。

伝説によれば、昔、男女の兄妹神が天降りして、バカボウ御嶽周辺に崎山

集落をつくり、人々に牧畜と貿易の方法を授けた。人々はその後、農業と牧畜を主業としながら、貿易船と取引きをして生活していた。夏になると宮渡（ミヤードウ）の船着場には、水と食糧を積み込む航海船が入港した。食糧は保良元島で生産された穀物で崎山集落の人々により、青磁白磁等の陶器類や曲玉等と交換されていた。この交易は長く続いたが、保良元島の人々が粟の代りに土を俵に詰め込んで送ったため、その後貿易船は入港しなくなったと伝えられている。また崎山集落の人々は、約五十町歩の平安名崎を牧場にしていたが牛が育たず、馬だけを放牧した。その後大津波により集落は全滅したと言われている。

祭 神 バカボウヌチヨウヌヌス、若坊又帳の主

参考文献 松川寛良著『保良風俗史』



〔下地博盛〕

ミヤードウムトウ(富士ムトウ)

所在地 城辺町字保良（宮土）
立地・構造・由来

立地・構造・由来

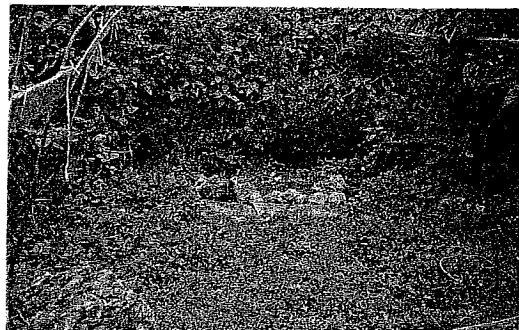
東平安名崎の基部から南側約五百メートルほどに海食崖が双丘状にこんもりと盛り上がって見える。その手前の荒れた農地の中に位置する。自然岩を利用した石積みで囲われていて、東側から入口があるほか、南側からも出入りできるようになっていいる。昔日は茅の屋根があったと推測されるが、現在は曲げられたパイプで合羽等が載せられるようになっていいる。内部の広さは六く七畳程度で草が生えていいる。入口から正面の岩の下に自然石を並べただけの簡単なイビがあり、南東に向いていいる。拝所の東側はテリハボク、モクマオウ、アダン等が繁る小高い森になっていいる。その森の中にもう一カ所イビがあるとのことだが確認できない。



祭神　ミヤードウチダアサヌシユ、ンヌパナスカニヌカン

主な祭祀 旧三月の始めの寅の日のプーズ

新城光枝（城辺町字保良五四六一）



所在地 城辺町字保良（平安名）
立地・構造・由来

立地・構造・由来

東平安名崎基部の北方、断崖近くに位置する。もとは石積み茅ぶき屋根であつたが、何度か修復のあと一九八三年に現在の鉄筋コンクリート造りに建てかえられた。ムトウは北方海上に向けてイビが設けられている。

昔、海で大和人が大嵐に遭遇し、平安名海岸に漂着して奇跡的に助かったが、その人は徳が高く神仏の威光を受けた人であったことから、イガラムトウに航海安全の神として祭ったとの言い伝えがある。

祭神 ティダマルヤマトリユウグウガン（航海安全の神）

主な祭祀 旧二月、旧四月＝籠り、旧二月と旧四月にその月最初の寅

の日に御願を行い、ツヅと呼ばれる特定の婦人たちが二、三

人が同夜に泊り込み、翌朝に御願を終る。

参考文献 松川寛良著『保良風俗史』

パナリ御嶽

所在地 城辺町東平安名岬沖離干瀬

立地・構造・由来

宮古島の東端、東平安名岬の東方約一キロメートル沖の離干瀬（通称・パナリ）に所在すると伝わる。

『宮古・八重山両島絵図帳』（一六四七年）に離干瀬について、（ひやくな崎之はなれおきみ干瀬流十式町卯酉間よこ八町貳拾間子午地との間松通口広サ拾五尋強風之時ハ此口松通事も御座候）、さらに当時、東平安名岬の基部に所在したひやくな村の石高貳百拾八石八斗八升八才も見ることができ。『御嶽由来記』（一七〇五年）には、（御嶽女神離君あるすと唱船路の為崇敬仕候事 由来昔神代に右神はなり山に頭れ船守の神とならせ給ひたるよし云伝有崇敬仕候事）と、離君あるすを祭神に船旅の安全を司る御嶽であつたことが記されている。

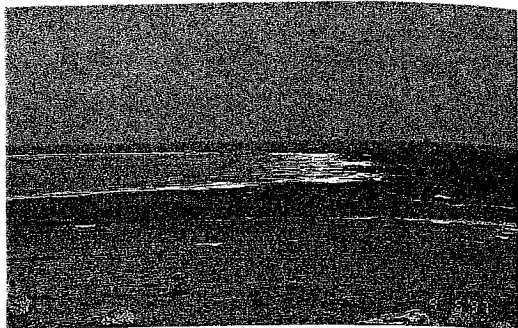
現在、パナリはエリグロアジサシやアミジロアジサシなどアジサシ類の繁殖地として知られる。パナリで野鳥・植物の生態調査を行った人々によれば、御嶽のイビや祭祀の形跡らしきものは確認できなかったという。

祭神 離君あるす（女神）

主な祭祀 未詳

参考文献
『平良市史』第三卷資料編1

〔砂川 明〕



〔下地博盛〕



〔下地博盛〕

